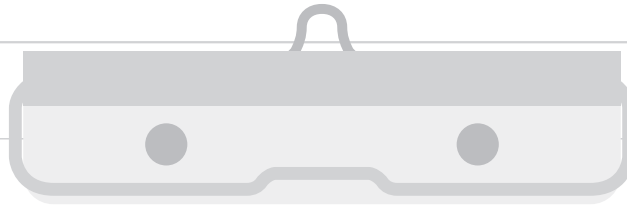


# KOKUYO

コクヨグループ CSR 報告書 2018



✦コクヨCSR憲章	✦会社概要	✦コクヨの3つの事業領域	✦コクヨグループのあゆみ	✦コクヨのCSR	✦お客様
✦地域社会	✦環境保全	✦企業活動	✦人間尊重	✦社外からの評価	



## コクヨ CSR 憲章

コクヨグループは、誠実な事業活動を展開し、収益性を高めるとともに、社会から必要とされる企業になります。法令などの遵守はもとより、企業市民としての社会的責任を果たすことにより、お客様・投資家をはじめ、すべてのステークホルダーからの信頼を獲得し、事業の継続性の維持に努めます。

### お客様

- 1 すべての商品・サービスにおいて現状に満足することなくより高い安全性と品質を追求し続けていきます。
- 2 新しい商品・サービスを開発し、事業を通じて社会を革新し続ける企業を目指します。

### 地域社会

- 1 国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」を目指します。

### 環境保全

- 1 地球環境問題を、全世界共通の課題と捉え、その解決に全従業員が英知を結集し、全社を挙げて行動を起こします。
- 2 エコプロダクツの開発において、そのライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の導入やグリーン調達に取り組みます。
- 3 低炭素社会にふさわしい働き方や空間を提案することで、ワークスタイルの変革をもたらし、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。

### 企業活動

- 1 公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行うとともに、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 2 取引先様との関係は常に公正であり、また信用される企業であるために、互いに協力し合い、成長していくことを目指します。
- 3 企業価値を高めることは株主への責務と認識し、社会から信頼される透明かつ健全な企業経営を堅持します。

### 人権尊重

- 1 あらゆる企業活動の場面において、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない職場環境を目指すとともに児童労働・強制労働を認めません。
- 2 従業員一人ひとりの個性や異なる発想・価値を受け入れ、多様な人財がその能力を十分に発揮し、成長できる企業を目指します。

# Contents

● コクヨCSR憲章 .....	1
● 会社概要 .....	3
● コクヨの3つの事業領域 .....	5
● コクヨグループのあゆみ .....	7
● コクヨのCSR .....	9
● お客様 .....	22
● 地域社会 .....	32
● 環境保全 .....	41
● 企業活動 .....	55
● 人間尊重 .....	70
● 社外からの評価 .....	87

## 対象期間

2017年1月1日から2017年12月31日

## 発刊時期

報告書発刊：2018年5月  
次回発刊予定：2019年4月  
前回発刊：2017年5月

## 対象範囲

本報告書における対象範囲はコクヨ(株)と連結子会社20社を基本とし、一部の活動実績については、関連会社を含んでいます。

## 参考ガイドライン

・ISO26000  
・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」  
・GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」

✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## 会社概要

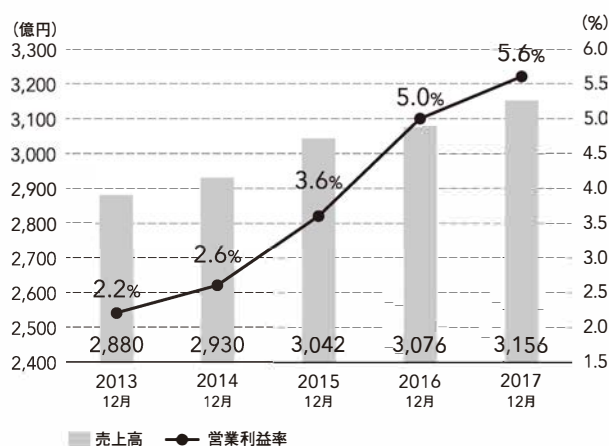
正式社名 コクヨ株式会社  
 英文社名 KOKUYO Co.,Ltd.  
 本社所在地 〒537-8686 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号  
 TEL(06)6976-1221(代表)  
 従業員数 連結6,699名、単体2,014名(2017年12月末現在)  
 上場市場 東京証券取引所 市場第一部  
 資本金 158億円  
 売上高 3,156億円(連結2017年1月1日～2017年12月31日)  
 事業内容 文房具の製造・仕入れ・販売、オフィス家具の製造・仕入れ・販売、  
 空間デザイン・コンサルテーションなど

## 役員

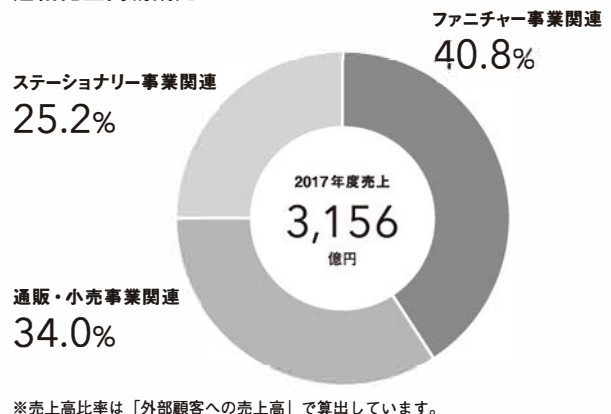
取締役	代表取締役 会長	黒田 章裕
	代表取締役 社長執行役員	黒田 英邦
	取締役 副会長	黒田 康裕
	取締役 グループ上席執行役員	森川 卓也
	取締役 グループ上席執行役員	宮垣 信幸
	社外取締役	作田 久男
	社外取締役	浜田 宏
	社外取締役	藤原 健嗣
監査役	社外監査役(常勤)	前田 一年
	社外監査役	村田 守弘
	社外監査役	安江 英行
執行役員	社長執行役員	黒田 英邦
	グループ上席執行役員 海外事業本部長	森川 卓也
	グループ上席執行役員 経営管理本部長	宮垣 信幸
	グループ執行役員 財務経理本部長	梅田 直孝
	グループ執行役員 ファニチャー事業本部長	坂上 浩三
	グループ執行役員 カウネット事業本部長	高橋 健一郎
	(株式会社カウネット 代表取締役社長 兼務)	
	グループ執行役員 ステーショナリー事業本部長	福井 正浩

## 財務データ推移グラフ

### 売上高・営業利益率



### 連結売上高構成比





## 主要関係会社

### 国内

#### 【ステーションナリー関連事業】

- 株式会社コクヨ工業滋賀  
〒529-1203 滋賀県愛知郡愛荘町上蚊野312番地  
TEL: 0749-37-3611
- 株式会社コクヨMVP  
〒680-0945 鳥取県鳥取市湖山町南2丁目201番地  
TEL: 0857-28-0241
- コクヨサプライロジスティクス株式会社  
〒537-8686 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号  
TEL: 06-6976-1370
- 石見紙工業株式会社  
〒699-5605 鳥根県鹿足郡津和野町後田イ-378  
TEL: 0856-72-0545

#### 【ファニチャー関連事業】

- コクヨエンジニアリング&テクノロジー株式会社  
〒141-0032 東京都品川区大崎3丁目5番2号 エステージ大崎5階  
TEL: 03-5436-7407
- 株式会社コクヨロジテム  
〒537-8686 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号  
TEL: 06-6973-9470
- ウィルクハーン・ジャパン株式会社  
〒107-0061 東京都港区北青山3丁目3番5号 東京建物青山ビルB1階  
TEL: 03-5414-8088
- 株式会社CWファンリテイソリューション  
〒108-8710 東京都港区港南1丁目8番35号  
TEL: 03-3474-6530

#### 【通販・小売関連事業】

- 株式会社カウネット  
〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア16階  
TEL: 03-6800-5700
- 株式会社アクタス  
〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目19番1号 BYGS新宿ビル12階  
TEL: 03-5269-3201

### 海外

#### 【ステーションナリー関連事業】

- コクヨベトナム Co.,Ltd.  
Land Plot B2-B7, Nomura-Haiphong IZ, Km13,  
An Duong Dist., Hai Phong City, Vietnam  
TEL: +84-225-3743257
- コクヨベトナムトレーディング Co.,Ltd.  
Land Plot B2-B7, Nomura-Haiphong IZ, Km13,  
An Duong Dist., Hai Phong City, Vietnam  
TEL: +84-225-3743422
- 国営商業(上海)有限公司  
200335 上海市長寧区金鐘路633号 晨訊科技大樓B棟2樓203室  
TEL: +86-21-3252-3636
- コクヨ-IK(タイランド) Co.,Ltd.  
529 Moo 4 Bangpoo Industrial Estate Soi 8C,  
T.Praksa, A.Muang, Samutprakarn 10280, Thailand  
TEL: +66-2-709-4675
- コクヨカムリン Ltd.  
48/2, Hilton House, Central Road, MIDC,  
Andheri (East), Mumbai, 400093, India  
TEL: +91-22-6655-7000
- コクヨリッディペーパープロダクツPvt.,Ltd  
Office No. 402, Casablanca, 4th Floor,  
Gulmohar Cross Road # 10, JVPD Scheme,  
Andheri (W), Mumbai 400049, India  
TEL: +91-22-2430-6043
- 索創物流(上海)有限公司  
201815 上海市嘉定区興國路333号B-1庫  
TEL: +86-21-5284-9988

#### 【販売会社】

- コクヨマーケティング株式会社  
〒100-6018 東京都千代田区霞が関3丁目2番5号 霞が関ビルディング18階  
TEL: 03-5510-3146
- コクヨ北海道販売株式会社  
〒003-0005 北海道札幌市白石区東札幌五条5丁目1番7号  
TEL: 011-815-5940
- コクヨ東北販売株式会社  
〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4丁目3番10号 仙台TBビル  
TEL: 022-292-6594
- コクヨ北関東販売株式会社  
〒321-0911 栃木県宇都宮市間屋町3172番地48  
TEL: 028-656-5561
- コクヨ北陸新潟販売株式会社  
〒939-8216 富山県富山市黒瀬北町2丁目17番地2  
TEL: 076-491-5946
- コクヨ東海販売株式会社  
〒460-0013 愛知県名古屋市中区上前津1丁目4番10号 加藤憲ビル  
TEL: 052-324-5941
- コクヨ山陽四国販売株式会社  
〒700-0826 岡山県岡山市北区磨屋町3番10号 岡山ニューシティビル6階  
TEL: 086-225-5943

#### 【その他主要子会社】

- ポスタルスクウェア株式会社  
〒108-0073 東京都港区三田3丁目14番10号 三田3丁目MTビル11階  
TEL: 03-5439-4701
- コクヨアンドパートナーズ株式会社  
〒100-6018 東京都千代田区霞が関3丁目2番5号 霞が関ビルディング18階  
TEL: 03-5510-4552
- コクヨKハート株式会社  
〒537-0013 大阪市東成区大今里南6丁目8番10号  
TEL: 06-6973-9322
- ハートランド株式会社  
〒590-0524 大阪府泉南市幡代2018番地  
TEL: 072-480-0567
- コクヨファイナンス株式会社  
〒537-8686 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号  
TEL: 06-6976-1221

#### 【ファニチャー関連事業】

- コクヨ(マレーシア) Sdn.Bhd  
Lot 79&83, Senawang Industrial Park,  
70400 Seremban, NSDK, Malaysia  
TEL: +60-6-679-6096
- 国営家具(中国)有限公司  
200003 上海市黄浦区北京西路7号新金橋廣場1F  
TEL: +86-21-6141-3001
- 国営裝飾技術(上海)有限公司  
200003 上海市黄浦区北京西路7号新金橋廣場1F  
TEL: +86-21-6141-3001
- コクヨインターナショナルアジア Co.,Ltd  
8F The Sun's Group Centre,  
200 Gloucester Road, Wanchai, Hong Kong  
TEL: +852-2522-3292
- コクヨインターナショナル(マレーシア) Sdn.Bhd  
E-31-08, Menara Suezcap 2, KL Gateway,  
No.2, Jalan Kerinchi, Gerbang Kerinchi Lestari,  
59200 Kuala Lumpur, Malaysia  
TEL: +60-3-2720-2820
- コクヨインターナショナル(タイランド) Co.,Ltd  
999/9 The Office at Central World 9th Fl, Unit 912  
Rama 1 Rd., Pathumwan Bangkok, 10330, Thailand  
TEL: +66-2-264-5100

#### 【その他主要子会社】

- 国営(上海)企業管理有限公司  
200335 上海市長寧区金鐘路633号 晨訊科技大樓B棟2樓201室  
TEL: +86-21-6070-2650

(2018年4月現在)

201804A06KH  
2018-060

✦コクヨCSR憲章	✦会社概要	✦コクヨの3つの事業領域	✦コクヨグループのあゆみ	✦コクヨのCSR	✦お客様
✦地域社会	✦環境保全	✦企業活動	✦人間尊重	✦社外からの評価	

## コクヨの3つの事業領域



は  
た  
ら  
く

一人ひとりの個性を活かし  
健やかに働ける空間をご提案します。

近年、少子高齢化や働く人々の価値観の変化などに合わせて、ワーカー一人ひとりの個性を活かしながら、健やかに働ける環境が重視されています。こうした世の中の流れを受けて、コクヨはワーカーのモチベーションを高め、チームのクリエイティビティを育む空間を提案していきます。







# まなぶ

幅広い世代の  
多様な学びをサポートします。

一人で学ぶ、仲間と学ぶ。働きながら学ぶ、育児しながら学ぶ。新たなキャリアを目指し、何歳になっても学ぶ—そうしたライフスタイルに合わせた学びが、幅広い世代に広がっています。コクヨは文具、家具の開発・販売や学ぶための空間づくりを通して、多様な学びを支え続けます。



人生をより豊かにする  
商品をお届けします。

働く、学ぶ、暮らす、それぞれの境目は徐々になくなり、人生をより豊かにするために、時間と空間を活かそうとする人々が増えています。コクヨはさまざまな商品・サービスを通して、そんな一人ひとりの“Quality of Lifeの向上”をサポートしていきます。

# くらす

❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨの3つの事業領域	❖コクヨグループのあゆみ	❖コクヨのCSR	❖お客様
❖地域社会	❖環境保全	❖企業活動	❖人間尊重	❖社外からの評価	

# コクヨグループのあゆみ

キャンパスノート  
の変遷



1975  
初代キャンパスノート発売

1983  
2代目キャンパスノート

1908 和帳の製造開始

1913 洋式帳簿の既製品化

1914 伝票の製造開始

1917 商標を「国誉」と定める

1905 黒田善太郎が和式帳簿の表紙を製造する「黒田表紙店」を開業

1919 1913 1914

1956 フラットファイル発売

1959 測量野帳発売

1961 八尾工場竣工  
伝票自動製造機(ビーマテリアク)導入

1964 スクラップブック発売

1974 チューブファイル発売

1979 東京新社屋開設(品川オフィス)完成

1983 ファイルボックス-FS発売

2000 カウネット設立

1998 ユニバーサルデザインへの取り組み開始

1957 全国コクヨ専門店会発足

1960 ファニチャー事業開始(ファイリングキャビネット発売)

1961 社名を「コクヨ株式会社」に変更

1965 スチールデスク発売

1982 東京ショールーム/コクヨホール完成

1993 三重工場竣工

1981 くるくるメカ発売

1994 芝山工場竣工

1975 生徒用デスク・イス発売

1999 マレーシア工場稼働

2000 ISO14001 全社統合認証取得

オフィスチェア  
の変遷



1966  
事務用回転イス発売

1983  
バイオテックチェア発売

1988  
ダイナフィットチェア発売

2001  
AGATA (アガタ) 発売



## ライブオフィスの変遷

1969年、日本初のライブオフィス設立以来、コクヨは常に次世代のオフィスを具現化してきました。そこから生まれた「動きやすい空間、使いやすい家具」は多くの企業様に採用いただいています。モノづくりと空間構築、ワークスタイルの研究を通して、さらなる可能性を追求するコクヨ。時代をリードしながら、常に最新の働き方とオフィス空間を提案していきます。

### 1969 日本初のライブオフィス

日本初のライブオフィス誕生。社員が実際に働く姿が見学できる「生きたショールーム」。



### 1980s コミュニケーション支援オフィス

コミュニケーションに対するニーズの高まりに応えた、日々の効率的な作業をサポートするオフィスを提案。



### 1990s 大規模フリーアドレスオフィス

デバイスの進化をいち早くキャッチし、固定した自席をもたない「フリーアドレス」を実践。



### 2000s 大規模オール無線LANオフィス

社内どこでも移動して利用できる無線LANシステムを導入。IP携帯電話の活用によるコストダウンも実現。



### 2010s クラウドワーク支援オフィス

進化するクラウド支援を活用。チームコミュニケーションを築き、また社外との新しいつながり方をつくりだす。



1991  
3代目キャンパスノート

2000  
4代目キャンパスノート

2011  
5代目キャンパスノート

**2009** ハリナックス 発売

**2011** コクヨカムリン設立 **Camlin KOKUYO**

**2012** 上海ノート工場竣工 **カウコレ**

**2013** カウコレ誕生

**2015** ソフリング®ノート(ドット入り罫線) 発売

**2016** 社内移動用バッグ 「モバイルバッグ<mo・baco>」発売

**2017** 新定番ファイリングシリーズ <NEOS>を発売

**2008** エコパツマーク開始 **ECO**

**2007** ハートランド設立

**2006** 結の森プロジェクト開始

**2006** アクタスへ資本参加 **ACTUS®**

**2017** 座るの概念を変える イノベーターチェイス 「ing (イング)」を発売

**2016** テーブル付きソファー 「interval (インターバル)」発売

**2015** 電動昇降テーブルシリーズ 「SEQUENCE (シークエンス)」発売

**2005** コーポレートロゴ新 創業100周年

**2003** コクヨKハート設立

**2003** 中国で本格的に事業をスタート

**2002** コクヨデザインアワード開始

**2014** INSPINE (インスパイン) 発売

**2016** Duora (デュオラ) 発売

**2017** ing (イング) 発売

✦コクヨCSR憲章	✦会社概要	✦コクヨの3つの事業領域	✦コクヨグループのあゆみ	✦コクヨのCSR	✦お客様
✦地域社会	✦環境保全	✦企業活動	✦人間尊重	✦社外からの評価	

## ■ コクヨのCSR

### トップメッセージ

お客様、社会が抱える課題に真摯に向き合い、  
その課題を解いていくことで、  
持続的な社会の実現を目指します。

コクヨ株式会社  
代表取締役 社長執行役員  
黒田 英邦



#### 中期経営計画『価値創造にこだわる自己改革～Value Transformation 2018～』の目標達成に向けて

『コクヨは、商品・サービスを通じて、顧客の創造性を向上する価値を提供することにより、人々のよりよいはたらく・まなぶ・生活する“Quality of Lifeの向上”を実現し、社会の役に立つLife & Work Style Companyを目指す』を、コクヨのありたい姿として掲げ、2016年度より3か年の中期経営計画『価値創造にこだわる自己改革～Value Transformation 2018～』のもと、顧客本位にこだわった価値創造を実現する“運営モデルの改革”と、中長期の持続的成長を可能とするための“収益体質のつくりこみ”に取り組んでまいりました。

この計画2年目の2017年度を、総利益率が上場以来最高となる状態で終えることができました。また、営業利益率については計画の最終年度の目標(5.0%)を前倒しで達成でき、非常に好調な決算となりました。

2018年度はこの計画の最終年度です。目標を今一度振り返り、その達成に向けて邁進します。

#### 「働き方改革」を自らが実践し、新たな働き方を探求

いま、少子高齢化や若年層の価値観(労働観)の変化、健康経営への注目、グローバル競争激化など、私たちの社会生活を取り巻く課題はより多様化・複雑化しています。これらを背景とし、官民を挙げた議論や取り組みが進む「働き方改革」。いつの時代も働く人にとって付加価値の高い製品・サービスを追求してきたコクヨだからこそできる「働き方改革」とは何か。その課題に長年にわたって向き合ってきました。

2017年、その取り組みをさらに一歩進め、「人の価値を引き出す企業文化を醸成する」ことをめざして誕生したのが、東京品川SSTオフィスです。経営資源の再結集と全体最適化、高効率化と新たなコクヨらしい働き方をめざし、ワンフロアへ集約した新オフィスにおいては、部門間の物理的・心理的な壁を取り払い、スムーズな意思疎通と連携強化により生産性の向上を実現するオフィスづくりを進めています。こうした働き方改革を私たち自身が考え、試し、実践していくその経験が、今後のお客様への実りあるご提案に活かせると考えています。

#### ステークホルダーの皆様へ

コクヨはこれまで、時代ごとに変化するお客様のご要望と真摯に向き合い、一つひとつ解決策を見出すことで百年以上の歴史を刻んできました。今、不確実な時代と言われ、さまざまな社会課題と会社の事業活動がますます複雑に絡み合う状況下にあっても、その姿勢が変わることはありません。

今後も、社会とお客様の課題に真摯に向き合う姿勢を大切に、新たな価値の創出にチャレンジし、持続可能な社会の実現に資する価値の提供に向けて全力を尽くしてまいります。



✦コクヨCSR憲章	✦会社概要	✦コクヨの3つの事業領域	✦コクヨグループのあゆみ	✦コクヨのCSR	✦お客様
✦地域社会	✦環境保全	✦企業活動	✦人間尊重	✦社外からの評価	

## ■ コクヨのCSR

# CSRマネジメント

コクヨ創業者 黒田善太郎は、「事業は社会のために行うものであり、そこで得られる利益は貢献に対する報酬である」という言葉を残しています。創業から100年以上たった今も、創業者の精神を受け継ぎ、CSR活動を進めています。

### 考え方

#### 基本的な考え方

コクヨグループは1905年に、創業者 黒田善太郎が大阪で和帳の表紙店を開いたことから始まりました。創業者は、「越中（現在の富山県）の国の誉れになる」という志を持って、郷里から大阪に向かいました。この創業者の志は、「国誉」という商標を経て、現在の社名の「コクヨ」となり、グループ社員全員でこの志を継承し、事業を展開してきました。

2004年、社会及びグループの継続的な発展を期すため、「コクヨグループ CSR 憲章」を制定（2012年一部改定）しました。基本方針について、「お客様」「地域社会」「環境保全」「企業活動」「人権尊重」の5つのテーマに沿って明らかにしています。

※ 関連情報：[「コクヨグループCSR憲章」](#)

### CSR推進体制

コクヨグループでは、関連部門が連携し、グループ全体でCSR活動を推進しています。また重点課題については、環境委員会・中央安全衛生委員会などを運用し、各専門部署が中心となってグループ全体で組織的に取り組んでいます。今後も情報発信や対話を通じて、ステークホルダーとの調和を図りながら、社会及びグループの持続的発展を追求していきます。



コクヨグループは、誠実な事業活動を展開し、収益性を高めるとともに、社会から必要とされる企業になります。法令などの遵守はもとより、企業市民としての社会的責任を果たすことにより、お客様・投資家をはじめ、すべてのステークホルダーからの信頼を獲得し、事業の継続性の維持に努めます。

### お客様

1. すべての商品・サービスにおいて現状に満足することなくより高い安全性と品質を追求し続けていきます。
2. 新しい商品・サービスを開発し、事業を通じて社会を革新し続ける企業を目指します。

### 地域社会

1. 国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」を目指します。

### 環境保全

1. 地球環境問題を、全世界共通の課題と捉え、その解決に全従業員が英知を結集し、全社を挙げて行動を起こします。
2. エコプロダクツの開発において、そのライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の導入やグリーン調達に取り組みます。
3. 低炭素社会にふさわしい働き方や空間を提案することで、ワークスタイルの変革をもたらし、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。

### 企業活動

1. 公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行うとともに、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
2. 取引先様との関係は常に公正であり、また信用される企業であるために、互いに協力し合い、成長していくことを目指します。
3. 企業価値を高めることは株主への責務と認識し、社会から信頼される透明かつ健全な企業経営を堅持します。

### 人権尊重

1. あらゆる企業活動の場面において、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない職場環境を目指すとともに児童労働・強制労働を認めません。
2. 従業員一人ひとりの個性や異なる発想・価値を受け入れ、多様な人財がその能力を十分に発揮し、成長できる企業を目指します。

コクヨグループでは、事業の海外展開に伴い、文化や価値観、法の解釈の違いなど、現地事情を踏まえながらも共通の行動基準を制定する必要があると考え、2012年8月にコクヨグループ共通規定として「コクヨグループ行動基準」を制定するとともに、国や地域によって異なる商習慣や法令などを踏まえて補足を加えた「コクヨグループ行動基準ハンドブック」を作成しました。

### 行動基準（日本国版）

コクヨグループ行動基準は、コクヨグループが法令や規則を遵守し、社会倫理に従って企業活動を行うために、役員及び社員の基本的な行動の基準を定めることを目的としています。

#### 1. 法令及び社内規則の遵守と誠実な行動

わたしたちは、法令及び社内規則の遵守はもちろん、高い倫理観を持って誠実に行動します。

#### 2. 人権及び人格の尊重

わたしたちは、人種、民族、宗教、国籍、言語、性別及び障がい等による差別を行いません。

わたしたちは、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントを行いません。

わたしたちは、児童労働や強制労働を認めません。

#### 3. 地球環境の保全

わたしたちは、地球温暖化や森林資源の減少をはじめとする地球環境問題から目を背けることなく、環境負荷の削減又は低減に取り組みます。

#### 4. 自由な競争及び公正な取引

わたしたちは、独占の禁止、公正な競争及び公正な取引に関する法令及び社内規則を遵守し、これらを逸脱する行為を行いません。

#### 5. 安心で信頼のおける製品及びサービスの提供

わたしたちは、安心で信頼のおける製品及びサービスの提供を通じて、お客様の満足を獲得し続けます。

#### 6. 会社資産の適切な取り扱いと知的財産の保護

わたしたちは、有形無形のあらゆる会社の資産を適切に管理、保全及び活用します。

わたしたちは、他者の知的財産権を尊重します。

#### 7. 適正な情報管理及び財務報告

わたしたちは、会社の記録を誠実かつ適正に作成するとともに、業務上収集及び取得される情報をその重要度に応じた適正な手続きに則って管理及び報告を行います。

わたしたちは、財務、会計及び税務に関する法令及び社内規則を遵守して会計処理と財務報告を行います。

#### 8. 利益相反行為の禁止

わたしたちは、会社と個人との利益が相反する、あるいはそのおそれのある行為を行いません。

わたしたちは、利益相反が懸念される場合には、上司に対してその旨を報告します。

#### 9. インサイダー取引の禁止

わたしたちは、コクヨグループや他社の株式等の売買に関連してインサイダー取引及びそれを誘発する行為を行いません。

#### 10. 接待や贈答の適切な運用

わたしたちは、ビジネス慣習から逸脱した接待や贈答を行いません。

わたしたちは、公的機関の職員や政府関係者に対して違法な接待や贈答を行いません。

#### 11. 外部からの不当な要求への対応

わたしたちは、外部からの不当な要求には一切応じません。

## ステークホルダーとの関わり

### ココヨのステークホルダー

ココヨグループは持続可能な社会の実現に向け、お客様・株主・取引先・地域社会などさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えるため、積極的にCSR経営を推進しています。

### ステークホルダーコミュニケーション

ステークホルダー	主な対話の機会	2017年度の実施例
 <p>お客様</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様相談室</li> <li>ウェブサイトのQ&amp;Aページ及び「お問い合わせ」フォーム</li> <li>各製品の情報提供</li> <li>ウェブサイトでココヨ商品のお取り扱い店を検索できる「ディーラーズガイド」の運営</li> <li>各種イベント・セミナーの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">お客様の声を生かす仕組み</a></li> <li><a href="#">ソフトリング®ノート・メモ&lt;カラフル&gt;(ドット入り罫線)(カットオフ)</a></li> <li><a href="#">カウネット史上初の総合展示会「カウネットフェスタ」を開催</a></li> </ul>
 <p>社員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労使間協議</li> <li>各種研修</li> <li>社内報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">国営中国の事業会社社員と家族が集まり、初の合同運動会を開催</a></li> <li><a href="#">“知る・交わる・結束する”ファニチャー事業結束強化会</a></li> <li><a href="#">グループ間交流も兼ねた商品研修会を開催</a></li> <li><a href="#">異業種人財との交流が視野拡大に繋がる「オープンチャレンジプログラム」</a></li> </ul>
 <p>取引先</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力工場の監査</li> <li>各種ミーティング・イベントの開催</li> <li>展示会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">真の「働き方改革」を目指し、販売店様とともに「働き方改革提案委員会」をスタート</a></li> <li><a href="#">ベトナム ハノイでパートナー企業を招いた新商品発表会を開催</a></li> <li><a href="#">ココヨマレーシア創立20周年を記念するイベントを開催</a></li> <li><a href="#">ファニチャー事業「協力工場会」を開催</a></li> <li><a href="#">ステーションナリー事業 協力工場の監査を実施</a></li> </ul>
 <p>株主</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IR活動</li> <li>情報公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">株主優待制度</a></li> <li><a href="#">個人投資家向けIR「会社説明会、テープのり&lt;ドットライナー&gt;開発ストーリー」開催</a></li> </ul>
 <p>地域社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献活動</li> <li>災害復興活動</li> <li>地域貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">テーマは「NEW STORY」、15回目を迎えたココヨデザインアワード2017</a></li> <li><a href="#">夏休み親子体験企画～ココヨ物流センター見学会を開催</a></li> <li><a href="#">各地で清掃活動と献血活動を実施</a></li> <li><a href="#">中高生を対象にした絵画コンペティション「キャンパスアートアワード2017」</a></li> <li><a href="#">「小さなノートで大きな夢！」子どもたちに「夢」と「本」を手渡す</a></li> <li><a href="#">World Art Day 2017</a></li> </ul>
 <p>環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化防止活動</li> <li>省資源・リサイクル</li> <li>生物多様性への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">2017年の総括</a></li> <li><a href="#">廃棄物データ精度の向上</a></li> </ul>

✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ コクヨのCSR

# 対照表



## GRI Standards対照表

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
一般開示項目				
102: 一般開示項目				
1. 組織のプロ フィール	○	102-1	組織の名称	<a href="#">基本情報</a>
	○	102-2	活動、ブランド、製品、サービス	<a href="#">事業概要</a>
	○	102-3	組織の本社の所在地	<a href="#">基本情報</a>
	○	102-4	事業所の所在地	<a href="#">国内外拠点</a>
	○	102-5	所有形態および法人格	<a href="#">基本情報</a>
	○	102-6	参入市場	<a href="#">事業概要</a>
	○	102-7	組織の規模	<a href="#">基本情報</a>
				<a href="#">国内外拠点</a>
				<a href="#">業績ハイライト</a>
				<a href="#">財政状況</a>
	○	102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	<a href="#">データ集 社会</a>
	○	102-9	サプライチェーン	
	○	102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	
○	102-11	予防原則または予防的アプローチ	<a href="#">労働安全衛生の取り組み</a>	
○	102-12	外部イニシアティブ	<a href="#">外部からの表彰・評価</a>	
○	102-13	団体の会員資格		
2. 戦略	○	102-14	上級意思決定者の声明	<a href="#">トップメッセージ</a>
		102-15	重要なインパクト、リスク、機会	<a href="#">有価証券報告書 p15</a>  (1.39MB)
3. 倫理と誠実性	○	102-16	価値観、理念、行動基準・規範	<a href="#">コクヨCSR憲章</a> <a href="#">コクヨグループ行動基準</a>
		102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	<a href="#">有価証券報告書 p35</a>  (1.39MB)

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ	
4. ガバナンス	○	102-18	ガバナンス構造	<a href="#">CSRの基本的な考え方</a>	
				<a href="#">コーポレートガバナンス</a>	
		102-19	権限移譲		
		102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任		
		102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議		
		102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	<a href="#">有価証券報告書 p32</a>  (1.39MB)	
		102-23	最高ガバナンス機関の議長	<a href="#">有価証券報告書 p32</a>  (1.39MB)	
		102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出		
		102-25	利益相反		
		102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割		
		102-27	最高ガバナンス機関の集合的知見		
		102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価		
		102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	<a href="#">有価証券報告書 p15、32</a>  (1.39MB)	
		102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性		
		102-31	経済、環境、社会項目のレビュー		
		102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割		
		102-33	重大な懸念事項の伝達		
		102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数		
	5. ステークホルダー・エンゲージメント		102-35	報酬方針	<a href="#">有価証券報告書 p33</a>  (1.39MB)
			102-36	報酬の決定プロセス	<a href="#">有価証券報告書 p33</a>  (1.39MB)
		102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	<a href="#">有価証券報告書 p33</a>  (1.39MB)	
		102-38	年間報酬総額の比率		
		102-39	年間報酬総額比率の増加率		
		○	102-40	ステークホルダー・グループのリスト	<a href="#">ステークホルダーとのかかわり</a>
		○	102-41	団体交渉協定	<a href="#">有価証券報告書 p8</a>  (1.39MB)
		○	102-42	ステークホルダーの特定および選定	<a href="#">ステークホルダーとのかかわり</a>
		○	102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	<a href="#">ステークホルダーとのかかわり</a> <a href="#">お客様との対話</a> <a href="#">「CSR報告書2017」アンケート結果</a>
		○	102-44	提起された重要な項目および懸念	<a href="#">「CSR報告書2017」アンケート結果</a>



指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
6. 報告	○	102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	<a href="#">コクヨグループ</a>
	○	102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	
	○	102-47	マテリアルな項目のリスト	
	○	102-48	情報の再記述	
	○	102-49	報告における変更	
	○	102-50	報告期間	<a href="#">CSRレポート p2</a>  (11.0MB)
	○	102-51	前回発行した報告書の日付	<a href="#">CSRレポート p2</a>  (11.0MB)
	○	102-52	報告サイクル	<a href="#">CSRレポート p2</a>  (11.0MB)
	○	102-53	報告書に関する質問の窓口	<a href="#">報告書に対する問い合わせはこちら</a>
	○	102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	
	○	102-55	内容索引	<a href="#">対照表</a>
	○	102-56	外部保証	<a href="#">環境経営マネジメントと第三者保証</a>
103: マネジメント手法				
		103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	
		103-2	マネジメント手法とその要素	
		103-3	マネジメント手法の評価	
マテリアルな項目				
200: 経済				
201: 経済パフォーマンス		201-1	創出、分配した直接的経済価値	<a href="#">業績ハイライト</a>
		201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	
		201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	<a href="#">環境経営マネジメントと第三者保証</a>
		201-4	政府から受けた資金援助	
202: 地域での存在感		202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	
		202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	
203: 間接的な経済的インパクト		203-1	インフラ投資および支援サービス	
		203-2	著しい間接的な経済的インパクト	
204: 調達慣行		204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	
205: 腐敗防止		205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	
		205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	
		205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	
206: 反競争的行為		206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
300: 環境				
301: 原材料		301-1	使用原材料の重量または体積	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		301-2	使用したリサイクル材料	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		301-3	再生利用された製品と梱包材	
302: エネルギー		302-1	組織内のエネルギー消費量	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		302-2	組織外のエネルギー消費量	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		302-3	エネルギー原単位	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		302-4	エネルギー消費量の削減	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	
303: 水		303-1	水源別の取水量	<a href="#">拠点別レポート</a>
		303-2	取水によって著しい影響を受ける水源	
		303-3	リサイクル・リユースした水	
304: 生物多様性		304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	<a href="#">結の森</a> <a href="#">ReEDENプロジェクト</a>
		304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	
		304-3	生息地の保護・復元	<a href="#">結の森</a>
		304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	
305: 大気への排出		305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		305-6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	
		305-7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
306: 排水および廃棄物		306-1	排水の水質および排出先	<a href="#">拠点別レポート</a>
		306-2	種類別および処分方法別の廃棄物	<a href="#">環境パフォーマンスデータ</a>
		306-3	重大な漏出	
		306-4	有害廃棄物の輸送	
		306-5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	
307: 環境コンプライアンス		307-1	環境法規制の違反	<a href="#">法遵守と汚染の予防</a>
308: サプライヤーの環境面のアセスメント		308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	
		308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
400: 社会				
401: 雇用		401-1	従業員の新規雇用と離職	<a href="#">データ集 社会</a>
		401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	
		401-3	育児休暇	<a href="#">データ集 社会</a>
402: 労使関係		402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	
403: 労働安全衛生		403-1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加	<a href="#">有価証券報告書 p8</a>  (1.39MB)
		403-2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	<a href="#">データ集 社会</a>
		403-3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者	
		403-4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項	
404: 研修と教育		404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	
		404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	<a href="#">人財育成プログラム</a>
		404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	
405: ダイバーシティと機会均等		405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	<a href="#">データ集 社会</a>
		405-2	基本給と報酬総額の男女比	
406: 非差別		406-1	差別事例と実施した救済措置	
407: 結社の自由と団体交渉		407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	
408: 児童労働		408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	<a href="#">ビジネスパートナーとともに 考え方</a>
409: 強制労働		409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	<a href="#">ビジネスパートナーとともに 考え方</a>
410: 保安慣行		410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	
411: 先住民の権利		411-1	先住民の権利を侵害した事例	

指標	コア設問	Standards	GRI Standards 設問	該当ページ
412: 人権アセスメント		412-1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	
		412-2	人権方針や手順に関する従業員研修	
		412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約	
413: 地域コミュニティ		413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	<a href="#">日本国内での貢献活動</a> <a href="#">海外での貢献活動</a>
		413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所	
414: サプライヤーの社会面のアセスメント		414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	
		414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	<a href="#">ビジネスパートナーとともに 考え方</a>
415: 公共政策		415-1	政治献金	
416: 顧客の安全衛生		416-1	製品およびサービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	<a href="#">文具の品質保証</a> <a href="#">家具の品質保証</a> <a href="#">カウネットの品質保証</a>
		416-2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	
417: マーケティングとラベリング		417-1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	
		417-2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	
		417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例報	
418: 顧客プライバシー		418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	
419: 社会経済面のコンプライアンス		419-1	社会経済分野の法規制違反	



ISO26000の中核主題に基づいて分類し、以下のように掲載しています。

ISO26000の中核主題	課題	掲載ページ
組織統治	課題1: 組織統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">トップメッセージ</a></li> <li>● <a href="#">CSRマネジメント</a></li> <li>● <a href="#">コーポレートガバナンス・リスクマネジメント</a></li> </ul>
人権	課題1: デューデリジエンス 課題2: 人権に関する危機的状況 課題3: 加担の回避 課題4: 苦情解決 課題5: 差別及び社会的弱者 課題6: 市民的及び政治的権利 課題7: 経済的、社会的及び文化的権利 課題8: 労働における基本的原則及び権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">CSRマネジメント 考え方</a></li> <li>● <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>● <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>● <a href="#">会社の成長と個人の成長を繋げる仕組み</a></li> <li>● <a href="#">働き方改革</a></li> <li>● <a href="#">人財育成</a></li> <li>● <a href="#">社員の安全と健康</a></li> <li>● <a href="#">人権尊重</a></li> <li>● <a href="#">ダイバーシティ推進</a></li> <li>● <a href="#">ビジネスパートナーとともに 考え方</a></li> <li>● <a href="#">データ集 社会</a></li> </ul>
労働慣行	課題1: 雇用及び雇用関係 課題2: 労働条件及び社会的保護 課題3: 社会対話 課題4: 労働における安全衛生 課題5: 職場における人財育成及び訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>● <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>● <a href="#">会社の成長と個人の成長を繋げる仕組み</a></li> <li>● <a href="#">働き方改革</a></li> <li>● <a href="#">人財育成</a></li> <li>● <a href="#">社員の安全と健康</a></li> <li>● <a href="#">人権尊重</a></li> <li>● <a href="#">ダイバーシティ推進</a></li> <li>● <a href="#">ビジネスパートナーとともに 考え方</a></li> <li>● <a href="#">データ集 社会</a></li> </ul>
環境	課題1: 汚染の予防 課題2: 持続可能な資源の利用 課題3: 気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4: 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">CSRマネジメント 考え方</a></li> <li>● <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>● <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>● <a href="#">ビジネスパートナーとともに 考え方</a></li> <li>● <a href="#">環境経営マネジメントと第三者保証</a></li> <li>● <a href="#">地球温暖化防止対策</a></li> <li>● <a href="#">省資源・リサイクル対策</a></li> <li>● <a href="#">法順守と汚染の予防</a></li> <li>● <a href="#">環境に配慮した製品・サービスの開発</a></li> <li>● <a href="#">生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進</a></li> <li>● <a href="#">環境パフォーマンスデータ</a></li> <li>● <a href="#">拠点別レポート</a></li> <li>● <a href="#">結の森</a></li> <li>● <a href="#">エコバツへの取り組み</a></li> </ul>

<p>公正な事業慣行</p>	<p>課題1: 汚職防止          課題2: 責任ある政治的関与          課題3: 公正な競争          課題4: バリューチェーンにおける社会的責任の推進          課題5: 財産権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">CSRマネジメント 考え方</a></li> <li>● <a href="#">CSR推進体制</a></li> <li>● <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>● <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>● <a href="#">ビジネスパートナーとともに 考え方</a></li> <li>● <a href="#">コーポレートガバナンス・リスクマネジメント</a></li> </ul>
<p>消費者課題</p>	<p>課題1: 公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行          課題2: 消費者の安全衛生の保護          課題3: 持続可能な消費          課題4: 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決          課題5: 消費者データ保護及びプライバシー          課題6: 必要不可欠なサービスへのアクセス          課題7: 教育及び意識向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>● <a href="#">お客様への安心・安全の提供</a></li> <li>● <a href="#">「CSR報告書2017」アンケート結果</a></li> <li>● <a href="#">データ集 お客様の声の反映</a></li> <li>● <a href="#">エコパツへの取り組み</a></li> </ul>
<p>コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</p>	<p>課題1: コミュニティへの参画          課題2: 教育及び文化          課題3: 雇用創出及び技能開発          課題4: 技術の開発及び技術へのアクセス          課題5: 富及び所得の創出          課題6: 健康          課題7: 社会的投資</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">コクヨCSR憲章</a></li> <li>● <a href="#">コクヨグループ行動基準</a></li> <li>● <a href="#">2017年新商品・サービス一覧</a></li> <li>● <a href="#">人財育成</a></li> <li>● <a href="#">日本国内での貢献活動</a></li> <li>● <a href="#">海外での貢献活動</a></li> <li>● <a href="#">外部からの表彰・評価</a></li> <li>● <a href="#">生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進</a></li> <li>● <a href="#">データ集 社会</a></li> </ul>



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

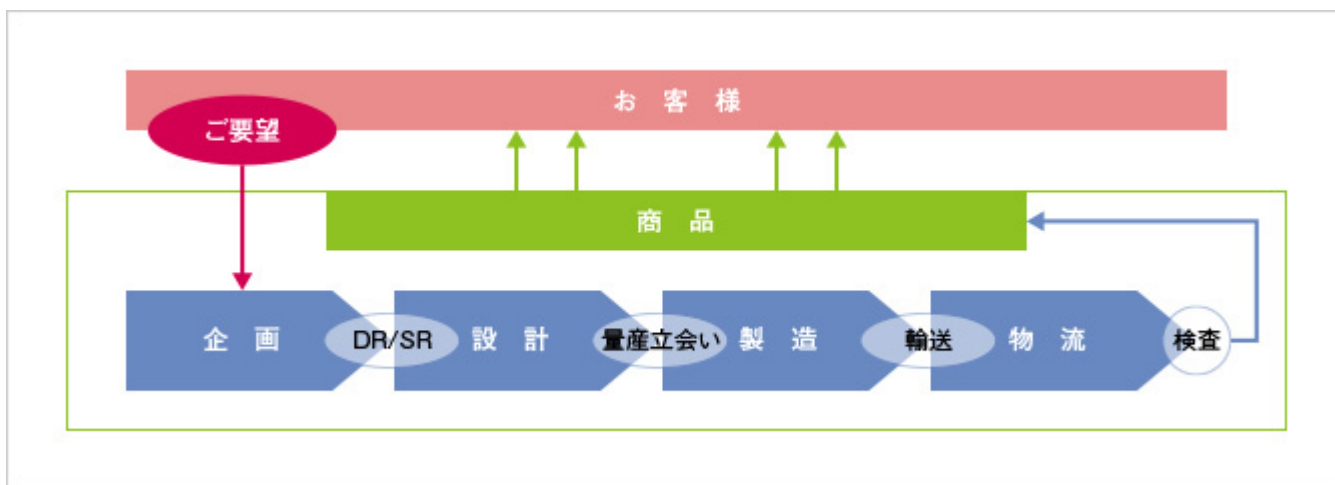
## ■ お客様

### お客様への安心・安全の提供

コクヨグループはお客様に安心・安全に商品をお使いいただくため、品質の維持・向上に努めています。アジアなど海外における生産比率が高まる中、海外の生産工場との連携を密にし、生産技術・ノウハウの継承、品質基準の共有・徹底を進めています。

#### 文具の品質保証

お客様に信頼される品質をお届けするため、企画・設計・製造・物流の各機能において品質を作り込む仕組みを体系的に構築・運用し、そして改善に取り組んでいます。



#### 品質維持・向上のための取り組み

##### 1) 品質保証体制の深化

品質の作り込みにおいて重要なプロセスであるデザインレビュー・セーフティレビュー・量産試作立会い・化学物質管理のガイドラインを時代に合わせた内容に見直し、再整備を実施しました。若手・新人の教育へ利用するとともに、品質に携わる社員のバイブルとして利用を促進し、品質保証体制の深化に取り組んでいます。

また、商品リスクの評価方法を導入し、リスク対策を実施することでお客様に安心してお使いいただけるように努めています。

##### 2) グローバルでの検査体制の確立

グローバル標準の検査技能評価手法を確立し、各国の検査員の技能レベルを評価・偏差値化し、教育・指導の体制を整え、検査技能レベルを一定に保持する取り組みをしています。また、グローバルに検査の7つ道具やマニュアル類を整備し、検査レベルそのものも一定に保持することで、検査での不良品の発見精度をさらに高め、不良品の流出防止に努めています。



品質試験へのロボットの導入

### 3) クレームへの対応の精度とスピード向上のために

世の中は、安全に加えて安心をさらに求める社会になり、加えて、多くの情報がいつでも・誰でも・どこでも受発信できる時代になってきました。今後、お客様からのクレームに対してさらに精度を上げてスピーディーな対応をしていく必要があると考え、商品リスクの発生時に企業がとるべき行動のプロセス・判断材料・判断基準の見える化・標準化に取り組んでいます。それにより、組織の意思決定フローの統一と、判断のブレの最小化とスピードアップを図っていきます。

### 4) 品質確認試験に加え価値評価試験を強化

既存商品のリニューアルや新製品の開発において品質確認試験を従来から徹底的に実施していますが、さらにロボットを導入して試験品質の持続的な維持・向上に努めています。また、多様なお客様のニーズに応えるため、安価で丈夫といった当たり前の品質を確認することはもとより、お客様にとって価値のある魅力的品質の定量化にも取り組んでいます。

## 家具の品質保証

ファニチャー事業では、ISO9001品質マネジメントシステムの認証を取得しています。それに基づき、製品の企画・設計・製造から施工に至るまでのプロセスの手順を定め、厳格に運用しています。

また、製造・納品・施工に関わる各部門では日々の改善活動を行っており、お客様からいただいたご意見・ご要望を活用して品質改善を図っています。

## 製品を安心してお使いいただくために

### 1) 高いレベルの「社内基準」の設定

新製品の開発プロセスでは、使い勝手や安全性に対して多面的な評価を行っています。そして、JIS規格・業界規格への適合はもちろんのこと、さらに高いレベルの「社内基準」をクリアするモノづくりを行っています。

### 2) 不具合発生時の対応

お客様がご使用中の製品に不具合が生じた際には、その情報は関連部門で共有され迅速な対応をいたします。その過程で原因究明を行い、製品や製造工程の改善に反映することで同様の不具合の再発防止に努めています。

また、重大事故が発生した場合には、リスクコンプライアンス委員会で対応方針を決定し、関係省庁への報告、新聞・ウェブサイトなどを通じて告知を行い被害の拡大を防止します。

### 3) 製品安全・品質に関する告知

お客様への製品安全・品質に関する告知媒体としてホームページの活用を行っています。告知内容に応じて下記の4つの分類のうち、最適なページに掲載しています。

1. [製品安全に関する重要なお知らせ](#)
2. [品質不具合に関する重要なお知らせ](#)
3. [製品を安全に、正しくご使用していただくためのお知らせ](#)
4. [その他の製品安全・品質に関するお知らせ](#)



ファニチャー事業ウェブサイト  
[製品安全・品質に関する重要なお知らせ](#)

### 4) 納品までのトータルな品質向上に向けての取り組み

家具の販売においては、お客様のオフィスなどに商品をお届けし、お使いいただける状態にするまでが弊社の責任です。そのため、商品の製造工程だけでなく、配送から納品までを含めた品質向上に取り組んでいます。配送を委託するパートナー企業に対しては商品組立技術や接客マナーの研修を実施するとともに、納品品質の全国コンテストである「共配甲子園」を毎年開催しています。これらの活動によって配送員の意識の啓発を行い、継続的な品質向上を目指しています。

## お客様からの声を届ける「心にしみる感動コメント」感謝状贈呈式

物流事業を行うココヨロジテムでは、2012年から年2回、ウェブによる納品先のお客様を対象にした納品品質に関する配送アンケートを実施し、お客様の声を納品現場の最前線で活躍しているパートナー企業や配送センターに届けています。お客様よりいただいたお褒めのコメントの中から、各選考基準をクリアした「お納めの価値」に繋がる作業をされた乗務員の方々には、「心にしみる感動コメント」感謝状贈呈式と題して感謝状を直接お渡しし、感謝の気持ちを伝えています。今後もお客様の生の声を現場に伝えることで、乗務員の方々のモチベーションアップとさらなる品質向上に繋げていきます。



社内投票によるベスト感動コメント賞や最多感動コメント賞を選出

## カウネットの品質保証

カウネットが取り扱う商品は文具・事務用品やコピー用紙をはじめ、飲料・食品・電化製品・ギフト・医療関連用品・店舗運営用品、名刺やスタンプなどのオーダー品・オフィス家具など多種多様で、取り扱うメーカー数は約1,000社になります。カウネットは流通業として、お客様に安心かつ安全にご利用いただくため、取り扱う商品の品質のみならず、コールセンターでの対応やお届けにいたるまで、バリューチェーン一体となって品質の向上に努めています。

## 商品のお届けに関して（主なサービス）

### 1) 当日・翌日配送サービス（一部の商品・サービスは除く）

沖縄県・離島・一部山間地域を除き、午後6時までにご注文いただくと翌日にお届けします。

当日配送エリアでは、午前11時までにご注文いただくとご注文当日にお届けします。

### 2) 簡易梱包の推進

通販で一般的な段ボール梱包によるお届けの場合には、商品を保護する緩衝材の使用をできるだけ少なくする工夫を日々重ねています。その他、商品の嵩が低く、かつ品質が保持できると判断した場合には、省資源化の取り組みとして、紙袋かポリエチレン袋による簡易梱包でお届けしています。

### 3) お届け時の梱包方法選択サービス（インターネット注文のみ）

簡易梱包による配送はお客様からは高評価をいただく一方で、購入商品を取引先へ渡したり、贈り物にするときなどには段ボール梱包にしたいという声にお応えして、注文の都度、梱包形態をお客様自身が選べるようにしています。

### 4) 組立てサービス付き家具のお届け

大型家具や重量物・複雑な組立てを伴うものは、家具専門配送員がお届けから開梱・組立て・設置・梱包材の回収まで行います。



簡易梱包の取り組み

## 回収サービス

カウネットでは省資源のリサイクル活動を推進しており、古くなったカウネットカタログや、配送時の段ボール、使用済みのトナーカートリッジの回収サービスを行っています。

## オフィスの災害対策への取り組み

### 1) オフィス地震対策メニューの構築

コクヨは阪神淡路大震災以降、オフィスの地震対策について検証を重ねてきましたが、東日本大震災の後、お客様のオフィスの復旧をご支援していくなかで、オフィスの安全・安心においてまだまだ課題があることを改めて認識しました。また、震災以降は地震対策のご相談が急増し、これまでの振動実験検証では回答しきれないご相談やご要望も多くいただきました。

これらの経験やご相談を踏まえ、さらなる地震対策を提案できるようさまざまな実証試験を行いました。そこから得られた膨大なデータに基づき、地震波と地震対策の関係を合理的に捉え、家具の耐震性能の客観的な評価基準を策定しました。その上で、お客様が目指す対策レベルやコストなどに応じて選べるようなオフィスの地震対策メニューをご提案しています。

※ 関連情報:「[地震対策オフィスの創り方](#)」



### 2) オフィ스에 最適な防災用品導入・運用メニューの構築

組織のBCPを構築する上で不可欠な防災用品と、それらを導入・運用するために必要なノウハウを提供する「防災ソリューション事業」を展開しています。防災用品ガイドブック「ソナエル」、平時と有事の両方に配慮した防災用品シリーズ「PARTS-FIT」などを中心に、働く環境といざという時の備えの両立をサポートし、「はたらくによりそう防災のかたち」を目指しています。



働く場所にフィットする。

防災用品は働く場所の状況ではありません。  
働く場所の状況に合わせて最適な防災用品が揃ったPARTS-FIT。



エレベーターにそなえる。

地震や火災などで大人数の人が利用するエレベーター。  
万が一の際、緊急時の避難を支えるエレキャビ。



PARTS-FIT

[パーツ・フィットシリーズ]



elecabi

[エレベーター用防災キャビネット エレキャビ]

### 3) 普及啓発活動の実施

「オフィスの地震対策」をテーマに全国でセミナーを開催するなど、普及啓発活動に積極的に取り組んでいます。テーマとしては、震災直後の経営者として直面した苦悩(コクヨ東北販売)、BCP視点からの防災備蓄品対策として、震災後7年が経過し「備蓄している」から「備蓄をし続けている」段階における選定・配置・管理・更新サイクルによる継続的な発展、地震に強いオフィスづくり(ファニチャー事業)など全国各地で行っています。



企業防災に関するセミナーも実施



✦コクヨCSR憲章	✦会社概要	✦コクヨの3つの事業領域	✦コクヨグループのあゆみ	✦コクヨのCSR	✦お客様
✦地域社会	✦環境保全	✦企業活動	✦人間尊重	✦社外からの評価	

## ■ お客様

### お客様との対話

コクヨグループはお客様との対話を大切にしています。さまざまな機会にいただく、ご意見やご要望・ご提案を真摯に受け止め、商品・サービスの開発や改善、お客様満足向上に繋げていきます。

#### 活動ハイライト 体感型家具ショールーム「カウネットファクトリー」オープン



オフィス用品の通信販売を行うカウネットは、2017年9月4日、本社が入居するビル（東京都大田区蒲田）の1階に家具ショールーム「カウネットファクトリー」をオープンしました。カウネットファクトリーは、近年高まりつつある中小規模オフィスの新規移転や改装によるレイアウト相談に対応するもので、単なる商品の現物確認の場にとどまらず、家具を確認し、その場でレイアウトを設計できる体感型家具ショールームです。ショールームは、以下のような内容で構成されています。



カウネットファクトリー案内図

● **オフィスチェアエリア**

好みのサイズ・硬さを選ぶことができ、お客様一人ひとりに合った座り心地のよいオフィスチェアを体感することができます。

● **デスクエリア**

用途やスペースに合わせた最適なデスクを選択し、天板サイズの幅・奥行を体感できます。さらに仕事の効率化を図るオプション類も試すことができます。

● **シミュレーションエリア**

図面や数値だけでは、なかなか働く空間のイメージはわかりません。ここでは、お客様と一緒に、お客様の働く空間を実際の商品を用いながらご要望に合わせてシミュレーションを行います。

● **打ち合わせエリア**

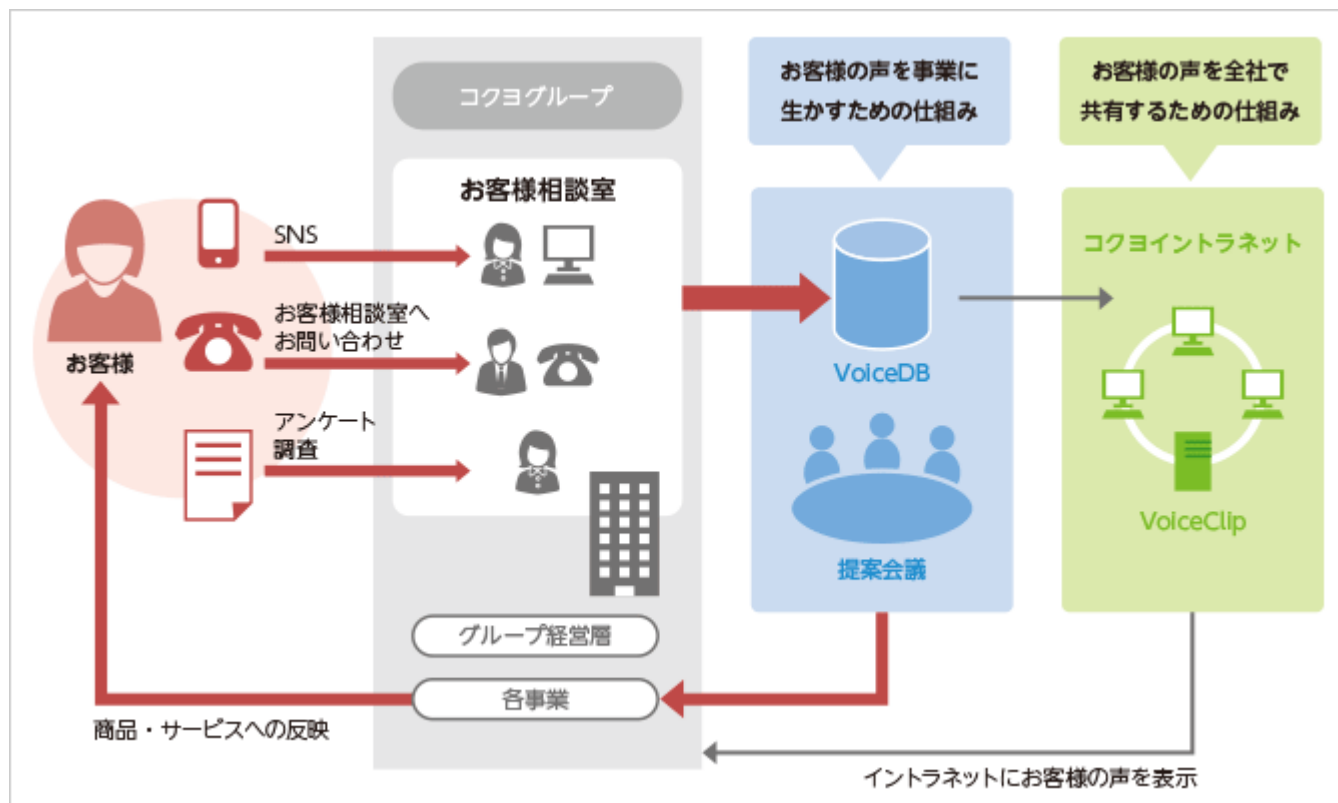
オフィス家具のプロがお客様のご要望にお応えするだけでなく、お客様だけでは気付きにくい問題点や課題を導く相談も受け付けます。さらに、オフィスレイアウトサービスをご利用のお客様には、体感直後にその場でリアルタイムに図面を修正・反映し、3Dのイメージ画像で確認いただくこともできます。

カウネットでは、このような場でお客様と直接コミュニケーションを行い、生の声をお聞きすることで、さらなる商品開発、サービスの提供に繋げていきます。

※ 詳細についてはこちら→[カウネットファクトリーHP](#)

## お客様の声を生かす仕組み

お客様の声を全社で共有するため、お客様の個人情報を除いた声の内容を「VoiceClip」という名称で、イントラネットを通じてグループ全社員に公開しています。「VoiceClip」では、週次で「お喜びの声」「お怒りの声」といったお客様の新鮮な声を紹介しています。2012年からは、グループ共通のイントラネットトップページにこれらのお客様の声を表示し、「見える化」をさらに進めるとともに、お客様相談室にお寄せいただいたお客様の声を、個人情報を除いてデータベース「VoiceDB」に集約し、グループ全社員がいつでも目的に応じて自由に検索できるようにしています。



## ソフトリング®ノート・メモ<カラフル>（ドット入り罫線）（カットオフ）

2015年3月に樹脂製でやわらかい「やわらかリング」で、書く時に手に当たっても気にならないのが特長のソフトリング®ノート（セミB5とA5の2種類）を販売開始しました。

発売以降、2017年9月末までにシリーズ累計500万冊以上を販売している新感覚のノートです。

ご購入いただいたお客様から「ちょっとしたメモをするなど携帯にも便利なポケットサイズのものがほしい」というご要望を多く受けました。お客様の声とソフトリング®ノートの拡充を目指している担当部門の思いが合わさり、2017年11月にA7変形サイズのメモタイプ、B6・A6サイズのノートタイプを発売しました。



ソフトリング®ノート・メモ 商品ラインアップ



ソフトリング®メモ 使用シーン



## お客様との対話

### お客様相談室の内部体制を変更しました。

お客様相談室は、2017年11月よりお客様相談室内の体制を大きく変更しました。新体制においては、お客様のお問い合わせを受け担当者が責任を持って最後まで担当します。それには、一人ひとりの豊かな商品知識とお客様の真の課題をつかみ解決する力が求められますが、それらを支援・強化するためのチームを新設し、組織がイチガンとなって、お客様の課題解決にあたります。一方、お客様のご意見を収集・分析するチームも新設し、商品やサービスに生かしたり、よりお客様対応への改善を行っていきます。コクヨお客様相談室は、社会の変化に柔軟に対応しながら、コクヨらしくお客様のお役に立てる相談室を目指します。

### カウネット史上初の総合展示会「カウネットフェスタ」を開催

オフィス用品通販のカウネットをより便利に、よりお得に、会員のお客様に使っていただくことを目的とし、2017年12月14日にカウネット史上初の総合展示会「カウネットフェスタ」を開催しました。また今回は、コクヨステーションナリー事業本部をはじめ13社のサプライヤー様にも協賛いただき、イベントを盛り上げていただきました。

社員が直接、カウコレ(カウネットオリジナル商品)を中心としたカウネットサービスのよさをアピールし、会社の姿勢を伝えることで、カウネットの魅力をより実感していただける場になったと思います。お客様からいただいた貴重なご意見を、今後のサービス改善に繋げていきます。

## カウネット フェスタ2017



オープン直後からたくさんの来場者で大盛況の会場

### お客様との協業により、「働き方改革」のモデルオフィスを創出

コクヨマーケティング中国支社は、NTTファシリティーズ様が目指す「働き方改革」を意識したモデルオフィス構築に貢献したことに対して、NTTファシリティーズ中国支店様より感謝状をいただきました。今回のリニューアルは、お客様に体感していただく「働き方改革」のモデルオフィスという位置づけであり、施設づくりのプロであるNTTファシリティーズ様とオフィスづくりのプロであるコクヨとの協業が、全国に先駆けて新たなオフィスづくりを成功させた大きな要因と言えます。

なおこちらのオフィスは、2017年(第30回)日経ニューオフィス賞中国地域ブロックニューオフィス推進賞(中国経済産業局長賞)を受賞されました。



完成したモデルオフィス。今後は双方のオフィスを活用しながら、ともに働き方改革を含めた提案を行う

### 新スキル指標に基づいたヒアリング研修を実施しました。

2016年度に改訂した「新スキル指標」に基づき、2017年は「ヒアリング研修」を実施しました。研修では、「お客様の真のニーズを理解し、期待を超える対応をする」ことの重要性を理解する講習と、そのためにお客様のプロフィールや使用シーンを引き出す「訊くスキル」を高める実技研修を行いました。講習では、訊くことによりお客様の期待を超えた事例や、社内でのお客様の声を基にした新製品や商品改善の取り組みを学び、実技研修では、オペレーター同士がペアとなりロールプレイング形式で訊くスキルのトレーニングを行いました。

コクヨお客様相談室は、お客様の真のニーズを理解し、期待を超える対応を目指すことで、コクヨらしくお客様のお役に立てる相談室を目指します。

✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

■ お客様

## 2017年新商品・サービス一覧



2017.01.30      ステーショナリー事業

[女性向けファイルシリーズ  
“MOTTE\(モッテ\)”発売](#)



2017.03.13      その他

[書籍『一発OKが出る資料 簡単につくるコツ』  
を発売](#)



2017.04.19      ステーショナリー事業

[新定番ファイリングシリーズ<NEOS>を発売](#)



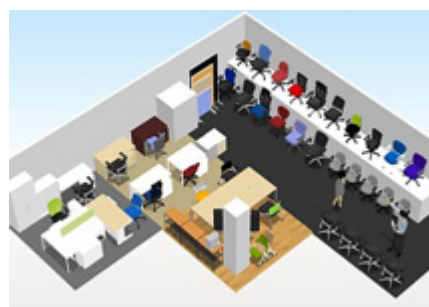
2017.07.03      ステーショナリー事業

[「個人書類」の整理・活用に役立つ  
新シリーズ<KaTaSu>を発売](#)



2017.08.09      ステーショナリー事業

[カッターのように引いて切れるハサミ  
「ハコアケ」を発売](#)



2017.08.09      通販・小売関連事業

[体感型家具ショールーム  
「カウネットファクトリー」をオープン](#)



2017.09.27

ステーショナリー事業

[「選べるボールペン〈エラベルノ〉」が新登場](#)



2017.10.27

その他

[書籍『コクヨのシンプル整理術』を発売](#)



2017.11.06

ファニチャー事業

[パーソナルロッカー「iNON\(イノン\)」を発売](#)



2017.11.06

ファニチャー事業

[会議イス「Spline\(スプライン\)」を発売](#)



2017.11.06

ファニチャー事業

[会議テーブル「CALM\(カーム\)」を発売](#)



2017.11.06

ファニチャー事業

[オフィスラウンジ家具計5商品を発売](#)



2017.11.07

ファニチャー事業

[座るの概念を変える  
イノベーティブなイス「ing\(イング\)」を発売](#)



2017.12.18

ステーショナリー事業

[「ピワコミック」を数量限定で発売](#)



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 地域社会

### 日本国内での貢献活動

#### 活動ハイライト

テーマは「NEW STORY」、15回目を迎えたコクヨデザインアワード2017



KOKUYO DESIGN AWARD 2017

— NEW STORY —

コクヨデザインアワードは、使う人の視点で優れた商品デザインを、広く一般ユーザーから集めて商品化を目指すコンペティションで、今年で15回目を迎えます。過去の実賞作品から商品化された例としては、2017年は2014年の優秀賞「本当の定規」、2016年の優秀賞「マンガムテープ」などが発売されました。近年は、「美しい暮らし」(2015年)、「HOW TO LIVE」(2016年)と、実用性やデザインの美しさだけでなく、暮らし方や生き方の提案まで問うテーマを掲げてきました。今年はその方向性に加えて、モノがあふれる時代の中でも新鮮で、「働く」「学ぶ」「暮らす」シーンにおいて新しいジャンルを確立していけるような力のある作品を期待して、「NEW STORY」というテーマで作品を募集。国内外から合計1,326点(国内880点、海外446点)の応募がありました。また、事前イベントとして、2017年7月26日にコクヨデザインアワード審査員であるKIGI(植原亮輔さん、渡邊良重さん)、雑誌『エル・デコ』の木田隆子さん、社長の黒田英邦によるトークセッションを開催。「あなたが考える、新しい物語とは」をテーマに国内外のさまざまな作品を紹介しながら、「NEW STORY」について活発なディスカッションが展開されました。さらに8月8日～9日、日本最大級の文具イベント「文紙MESSE」の会場内で「KOKUYO DESIGN AWARD STORY 2011-2016展」を開催し、コクヨデザインアワード2017を盛り上げました。

なお、受賞4作品は2019年1月18日に決定。グランプリは、によつき(柿木大輔、三谷悠、八幡佑希)の「食べようぐ」が受賞しました。

※ 詳細についてはこちら→[コクヨデザインアワードHP](#)



「文紙MESSE 2017」の会場で行われたコクヨデザインアワード展。2011年～2016年までのグランプリ、優秀賞受賞作品の作品模型を一堂に展示

## J2ジェフユナイテッド千葉に協賛、コクヨオリジナル手帳を提供

ファニチャー事業本部では、JR東日本グループとの関係性深化を目的に、プロサッカーJ2リーグ ジェフユナイテッド千葉のアシストスポンサーとして協賛しています。コクヨらしいカタチの協賛に繋げるため、ステーションリー事業本部の協力を得、2017年のチームスローガン「Pasion(パシオン)～カ戦奮闘～」入りの測量野帳※を作成し提供しました。

この手帳は、選手・サポーター・チーム関係者一丸となってJ1昇格に向けてシーズンを戦い抜くためのシンボルとして、2017年3月4日に行われたホームスタジアムでの開幕戦(J2リーグ 第2節)となるモンテディオ山形戦の来場者先着1,200人に配布されました。

※1959年に発売開始したロングセラーの手帳型ノート。測量用に開発されましたが、屋外での使いやすさから、現在ではアウトドアや日々の記録などさまざまなシーンで使用されています。



ファニチャー事業本部とジェフチーム関係者。  
右は今回提供した測量野帳

## 第4回スマートサウンドデザインソサエティシンポジウムで講演

2017年3月3日の「耳の日」に開催された一般社団法人スマートサウンドデザインソサエティ(SSDS)※主催による第4回SSDSシンポジウムで、コクヨエンジニアリング&テクノロジー(KET)の岩切幸伸が講演を行いました。

「多様化する働き方とこれからのオフィスに求められるもの」をテーマに、コクヨの考えるオフィスの音環境やサウンドソリューションについて紹介。音対策でオフィスワーカーの生産性向上を支援し、「働き方変革」に貢献するKETの活動を知っていただくよききっかけとなりました。さらに、「音」に関するさまざまな分野のプロとの繋がりも生まれ、サウンドソリューションの新たな展開も期待されます。

※サウンドデザイン(音を対象として、聴覚的に美感を生じさせたり機能を向上させたりすること)の振興と普及を図り、快適かつ機能的な音環境を構築することを目的として設立された団体です。



講演終了後のパネルディスカッションの様子

## スポンサーを務める「西宮ストークス」がB2リーグチャンピオンに

コクヨマーケティングは、地域貢献・結束力を高める風土づくりを目的に、プロバスケットボールチーム「西宮ストークス(兵庫県西宮市)」とオフィシャルスポンサー契約を締結しています。2017年5月20日、初代B2リーグ優勝をかけて行われた優勝決定戦では、強豪「島根スサノオマジック」に78対53のスコアで勝利を収め、見事初代B2リーグチャンピオンになりました。

5月25日には西宮ストークスの選手が梅田オフィスを来訪、コクヨマーケティングの声援に対する御礼と、B1リーグ昇格の報告をいただきました。今後も西宮ストークスのサポートを通じて、地域への貢献活動を推進していきます。



梅田オフィスを訪れた西宮ストークス選手のみなさん

## 「全日本物流改善事例大会2017」にて改善活動を発表

2017年5月16日～17日、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会主催の「全日本物流改善事例大会2017」が開催されました。物流現場における優れた改善事例やノウハウを共有することで視野を広げ、今後の物流合理化活動を推進することを目的としており、コクヨグループからは去年に引き続きコクヨサプライロジスティクス(KSL)が参加しています。

31周年を迎える今大会では、全国から選ばれた30社の優秀事例が発表され、KSLは庫内パートナーと倉庫内での会社の枠を超えて連携した改善について発表しました。自社の改善を評価いただき、他社の事例も取り入れる機会をもつことで、さらなる現場力アップを目指します。



「こうすればよかった！環境変化に対応する方法」をテーマに発表

## 「夏休み親子体験企画 コクヨ物流センター見学会」を開催

2016年にコクヨサプライロジスティクス首都圏IDCで開催し、大好評であった「夏休み親子体験企画 コクヨ物流センター見学会」を2017年も開催しました。このイベントは、販売店の奥本いろは堂様とコクヨマーケティングの主催で、コクヨの物流現場を見学・体験してもらうことで、子どもたちにコクヨを知ってもらい、より身近に感じてもらうための企画です。当日はあいにくの雨模様にも関わらず、21人(小学生12人、保護者9人)に参加いただきました。

今回の体験を通じて、普段何気なく使っている文房具について興味を持っていただき、コクヨファンを増やしていければと思っています。



子どもたちは庫内でのピッキングと5月から導入された検品タプレットの作業を体験

## コクヨサプライロジスティクス中部IDCが地元の小中学生から取材

物流事業を行うコクヨサプライロジスティクスの中部IDCが、地元小牧市の広報誌『広報こまき』に紹介されました。小牧市内の小学5・6年生と中学生の子どもたちが魅力ある場所・企業などを訪れ、取材・撮影をして作成した記事を広報誌に掲載する企画で、広報誌のほか、市内の小学校にも掲示されました。当日は、いかに物流の仕事を「楽しく」理解してもらえるかを意識し、概要説明ではクイズを取り入れるなどの工夫をしました。

こうした活動を通して、子どもたちに職業体験の場を提供するだけでなく、一人でも多くの小牧市民に中部IDCの魅力を伝えていければと思っています。



現場案内ではコクヨ商品のピッキング作業や仕分け作業を子どもたちが体験



## 文字の形をしたイスと日本の美しい風景で描くカレンダー

ココヨデザインアワードから生まれた「HELLO CHAIR(ハローチェア)」。文字の形をしたイスを組み合わせることで空間にメッセージを描くことで、イスと人とのコミュニケーションを生み出すことを目的にデザインされています。

ファニチャー事業本部では、このHELLO CHAIRを使用して日本の美しい風景を撮影する「ココヨカレンダープロジェクト」に取り組みました。撮影は風景からアイドルまで幅広く手がけるカメラマンの羽田誠氏。撮影の企画・デザインやロケ場所の交渉などは、デザイン会社を使わず、すべて社員で行っています。ココヨの魅力をお客様にお伝えする新たなツールとして、幅広く活用していきます。



HELLO CHAIR



1月 富士山とご来光



3月 新しい生活の始まり

## 「いす-1グランプリ」を通じて全国の商店街活性化を応援

事務イス2時間耐久レース「いす-1グランプリ」※は、2017年も全国各地の商店街で開催されました。ココヨは各地のココヨ販社・代理店と「チームココヨ」を結成し、レース参加を通じて街の活性化に貢献しています。2017年は、ココヨインターナショナルマレーシアが中心となり、ASEAN初となるマレーシア大会・シンガポール大会も開催しました。また、新たな取り組みとして「公式ホームページ」を立ち上げ、街の若年層を巻き込むための「高校生チームへのマシンレンタル」を開始。イスの購入など、準備に金銭的ハードルの高い高校生でも気軽に参加できるサービスを始め、大会を盛り上げるサポートを行っています。

※「いす-1グランプリ」とは、事務用いすを使って3人1組で争う2時間耐久レースです。日本事務用いすレース協会が主催する街おこしイベントとして全国各地で開催されており、ココヨは事務用いすを販売する会社として積極的に参加しています。



新しく立ち上げた

[「ココヨいす-1レーシング」公式ホームページ](#)

## 「ジョブスタディ」の取り組み

「ジョブスタディ」は、各業界のリーディングカンパニーの人事担当者が集い、本当に学生の役に立つセミナーは何なのかを議論し、そこで出た結論をもとに、自分たちで手づくりで開催している異業種合同セミナーです。ココヨはこのジョブスタディを中心となって立ち上げ、主幹事企業として運営全般を担っています。2005年のスタート当時は、「3年3割」という早期離職問題が大きな議論になっており、この課題を解決するために、採用活動を行う企業側も学生に対して正面からぶつかってほしいという想いで、「本音」と「手づくり」というコンセプトのプログラムを企画し、企業と学生が「働くことの意味」を語り合う双方向のコミュニケーションを実現してきました。以来13年間学生と真摯に向き合い続け、現在は各業界のリーディングカンパニー20社がジョブスタディに参加しています。2017年を終えて13年間の成果を積み上げてきた「ジョブスタディ」。第4回「キャリア教育アワード」においては、社会に出る直前の学生が抱える幅広い課題について、多種多様な企業が理念を共有し、柔軟に対応している点を評価され「奨励賞」を受賞しました。しかし、景気の変動や新卒採用環境の変化など、学生や企業を取り巻く環境の変化は非常に目紛しく、売り手市場と言われる現在においても、双方間にある課題も数多く存在しています。そんな中、ジョブスタディとして、「今までと同じ」ではなく「今何が必要か・何をしたいか」ということを、参加企業20社の人事担当者が一堂に集まり本気で考えています。

## 担当者の声

### ジョブスタディが提供できる価値をより幅広く

近年の新卒採用環境の目紛しい変化により、学生・企業・大学にそれぞれ新しい課題が増え、変化し続けていると感じます。

ニーズや困り事が多様化してきた時代だからこそ、画一的なプログラムを実施していくのではなく、誰のために、何を解決できているのかを考えながら実施時期やプログラム内容を検討し、実施しています。

ココヨ1社ではできることに限りがありますが、全20社で力を合わせて、他ではできない新しい価値・機会を創出していきます。



ココヨ HRBP室  
山本 浩貴

## コピー用紙で繋ぐ環境・福祉・地域 ～「エコラボはーと・しが」の取り組み～

ココヨマーケティング、ココヨ工業滋賀では、「グリーン購入活動」に取り組んでおり、2006年6月からは地元の地域ネットワーク活動「滋賀グリーン購入ネットワーク(滋賀GPN)」に参画しています。また、滋賀GPNの「グリーン購入評価手法研究会」が開発し、現在はNPO法人滋賀県社会就労事業振興センターが運営する、「エコラボはーと・しが」の取り組みに、ココヨグループは当初から携わっています。

この事業は、毎日使用するコピー用紙を、段ボール箱の代わりにプラスチック製の箱を使用し、滋賀県内に約150ある障害者の働く共同作業所に配達をお願いするシステムで、環境(不要な包装の削減)と福祉(障害者雇用促進)の両立を目指して2007年にスタートしました。また、コピー用紙もココヨ工業滋賀で製造しているものを使用することで、地域完結のできるモデルにしています。

「エコラボはーと・しが」の取り組みは、独自性・継続性・発展性の観点で高く評価され、2011年には「第13回グリーン購入大賞」の大賞を受賞しました。参加企業・団体が増えることによって、ゴミの削減が進み、またコピー用紙だけでなく他のエコ商品・作業所で作られた商品も配達することで、作業所で働く障害者の方々の収入の向上が図られます。

滋賀県に事業所のある企業・団体の皆様、環境・福祉の先進県「滋賀県」オリジナルのCSR活動に参加してみませんか。



段ボール箱の代わりにプラスチック製の箱で配達します

## 各地で清掃活動と献血活動を実施

ココヨグループでは、オフィス・工場・配送センター・海外事業所各地において、清掃活動を通じた地域社会との協調を図っています。大阪本社オフィスでは年1回、地元自治会と協働でオフィス周辺の清掃活動を実施しています。

2011年からは「大阪マラソン」とタイアップし、大阪に来られる方々を「きれいなまち」で迎えようという趣旨で、大阪市全域での清掃活動「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」が実施され、地元自治会と協同で参加しました。

また、国内の各拠点においては、社員による献血活動を1980年より実施しています。2017年は大阪府赤十字センター様に1回お越しいただき、33人が参加しました。

## コクヨ東北販売の取り組み

東日本大震災以降、子どもたちを支援する取り組みを中心とした復興支援活動を継続しています。

### 「みちのく未来基金」に協賛

コクヨ東北販売では、公益財団法人「みちのく未来基金」に対してサポーター企業として支援活動を行っています。この基金は、東日本大震災で親を亡くした子どもたちが高校卒業後に大学・短大・専門学校などに進学する際、学費の全額(年間上限300万円)を返済不要で給付しており、「東北の未来を創る子どもたちが夢や希望を諦めずに育つことが復興の真の礎となる」という趣旨に賛同し、2012年より継続して支援しています。

この基金は、奨学金の給付に留まらず定期的なイベントや年次面談・サポーター企業との交流などを通じ、「辛い体験をした子どもたちを一人にはしない」というあたたかい思いをもって運営されています。毎年3月には、新たに進学する学生のための「門出の会」、社会にはばたく卒業生を送る「旅立ちの会」が開催され、将来への抱負や目標を力強く語り合い、サポーター・関係者で祝いイベントも開催されます。

今後もコクヨ東北販売は、「みちのく未来基金」とともに子どもたちの進学の夢を応援します。



2017年3月開催の「第6期生の集い」

## 中高生を対象にした絵画コンペティション「キャンパスアートアワード2017」

コクヨは読売中高生新聞(発行所:読売新聞東京本社)と共同で、2015年から全国の中学生・高校生を対象に「キャンパスアートアワード」を開催しています。

今回の募集テーマは、「My Sweet Home Town～地元のイチオシ～」。地域の風景・風俗・風習・行事・料理・菓子などを題材にすることで、若者が地元を目を向け、その魅力に気づき、発信する機会をつくるのが目的です。

1,393作品の応募の中から、グランプリ・読売中高生新聞賞・コクヨ賞・地区優秀賞・入選作品を選出。グランプリは、後藤 杏菜さんの「越谷のいい所」に決定しました。



グランプリ作品「越谷のいい所」のキャンパスノートは数量限定でコクヨの公式オンラインショップにて販売



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 地域社会

# 海外での貢献活動

## 中国での取り組み

### 在上海日本国総領事館を通じ、ノートを贈与

2017年3月、在上海日本国総領事館は江西省瑞金市黄柏郷中日友好長征小学校にて日本紹介レクチャーを実施した際に、コクヨのノートを同小学校の生徒に寄贈しました。



### 「小さなノートで大きな夢！」子どもたちに「夢」と「本」を手渡す

2017年5月21～23日、国営(上海)企業管理・国営商業(上海)・国営家具(中国)の上海オフィス・北京オフィス・深センから集まった社員5人が、2016年に続き再度山西省平型関寄宿学校を訪れ、子どもたちとの交流を図りました。

今回の訪問では、キャンパスノートをはじめとしたコクヨの文房具のほか、中国のコクヨグループ全社員から集めた約200冊の図書も寄付しました。ボランティア社員は子どもたちと一緒に読書をしたり、コクヨの文房具で工作をしたり、有意義な一日を過ごしました。

こうした子どもたちとの交流活動は、毎年行っています。自分たちがつくる文房具が、たくさん子どもたちを笑顔にする体験は、社員にとってもかけがえのない経験です。「商品を通じて世の中の役に立つ」という理念を社員に身をもって理解してもらうためにも、コクヨでは積極的に社員にボランティア活動に参加してもらっています。



## 上海日本商工クラブ「桜の花基金」を通じ、「退院お祝いセット」を寄贈

上海日本商工クラブは、2016年5月に上海市児童健康基金会との協力協定に基づき「桜の花基金」を設置し、3年間にわたり、斜視や先天性関節脱臼に悩む貧困家庭の患者児童の手術・治療費を支援しています。また、文房具やお菓子などを詰めて「退院お祝いセット」として退院する子どもたちにプレゼントしています。

2017年9月15日、同商工クラブは上海市児童病院を訪れ、支援を受けた患者児童に直接退院お祝いセットを手渡しました。今回の退院お祝いセットには、ココヨから寄贈した文房具も含まれました。

## 2017ココヨ中秋月餅&募金活動

2017年の中秋節に、中国のココヨグループでは、特製の月餅を社員たちに配り、募金活動を実施しました。社員たちはスマホで月餅箱の中の支払コードをスキャンするだけで、寄付できます。寄付されたお金で購入した小学生用ノート・消しゴム・鉛筆などの文房具は山の中の小学校に寄贈しました。

中国では、奥地の山間部や農村地帯などではまだまだ教育環境が整っておらず、文房具などが不足している地域が多くあります。ココヨは、たくさん子どもたちに将来の夢を持ってもらうために、今後も子どもたちの教育支援活動に力を注いでいきます。



## インドでの取り組み

### World Art Day 2017

レオナルド・ダ・ヴィンチの誕生日に由来するワールド・アート・デー(4月15日)を中心に、ココヨカムリンではアート・ウィーク期間と名付けさまざまなイベントを開催しました。デヘラドゥーン市の学校に通う生徒たちに、「過去の中から見た未来」をテーマにして絵を描いてもらいました。15チームに分かれた生徒たちは、美術教師の指導の元、美しい絵を描いてくれました。この絵は学校に展示され、市民の皆さんにも楽しんでいただきました。



### アッサム州の子どもたちにノートを寄贈

2017年8月に起きた洪水で大きな被害を受けたアッサム州の子どもたちに、ココヨカムリンはノートの寄贈を行いました。この活動は子どもたちの支援を行っている財団とともに行われました。

### Rally for River (河川環境保護活動の実施)

2017年9月から10月にかけて、ココヨカムリンは、ヨガのプログラムなどを提供しているIsha財団と共同で河川環境保護活動を行いました。木の伐採に繋がらないココヨカムリンのシャープペンシルを使った筆記コンテストを実施し、河川の大切さを学んでもらいました。このコンテストには26都市・1,500の学校が参加し、イベントにはインド首相や副大統領にもご参加いただきました。

## こどもの日に恵まれない子どもたちのためのイベントを開催

インドのこどもの日(11月14日)に、NGO団体CRYとともに恵まれない子どもたちをキッズニアに招待し、ココヨカムリンのアート&クラフトのワークショップを通じて楽しい一日を過ごしてもらいました。



## 小児がんと闘う子どもたちと新年のお祝いを開催

ココヨカムリンでは、昨年に引き続き小児がんと闘う子どもたちのためにShree Ghadge Maharaj Dharamshala でイベントを開催しました。ココヨカムリンの商品を使って絵を描いてもらったり、マジックショーを開催するなどして、ひと時の楽しい時間を過ごしてもらいました。



## 教師の日に植樹を実施

インドには先生に感謝をする教師の日と言う日があります。ココヨカムリンは教育機関CKグループに通う子どもたちと一緒に、先生への感謝の気持ちを込めて、教師の日に植樹を行いました。それぞれの若木には大好きな先生の名前の入った銘板が付けられており、先生たちは大変喜んでいました。若木は先生への一生の贈り物になるとともに、緑化にも貢献しています。



## スラム地区の美化に貢献

スラム地区にある十分に設備の整っていない学校に通う生徒たちが、少しでもよい環境で学んでもらえるよう、ココヨカムリンはボランティア・社会奉仕連盟の方々とともに、学校の美化を行いました。ボランティアの方々は、ココヨカムリンの画材を使って学校の壁を美しく彩ってくれました。





✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 環境保全

# 環境経営マネジメントと第三者保証

地球温暖化や森林資源の減少をはじめとする地球環境問題の解決を緊急課題と認識し、この課題解決に全従業員が英知を結集して行動を起こしていきます。

## 環境経営マネジメント

### コクヨグループ環境ビジョン

「持続可能な社会」を構築するには、「循環型社会」、「低炭素社会」、「自然共生社会」に向けた取り組みを統合した活動を実施していく必要があります。「コクヨグループ環境ビジョン」は、堅持すべき「環境理念」と具体的な活動項目である「環境方針」で構成されており、方針は「地球温暖化防止」「省資源・リサイクル」「エコプロダクツの調達・開発・提供」「生物多様性」「法遵守と汚染の予防」「情報開示・コミュニケーション」「環境経営」の7つの項目としました。この「コクヨグループ環境ビジョン」を基に各事業会社がそれぞれの事業の特性に沿った目標を展開し、環境負荷低減に努めています。

### コクヨグループ環境ビジョン

環境理念

創業以来、継続してきた「商品を通じて世の中への役に立つ」という企業理念に基づき、持続可能な社会の実現のため、温暖化や資源枯渇、生物多様性保全などの地球環境問題を全世界共通の永続的課題と認識し、コクヨグループが率先し、事業活動に関わる様々な人達の英知を結集することで、この課題解決のため行動を起こす。

環境方針

- 地球温暖化防止**

低炭素社会の実現に向け、温室効果ガス排出量の大幅な削減に取り組みます。
- 省資源・リサイクル**

循環型社会の進展に向け、限り有る資源を有効利用し、Reduce・Reuse・Recycleに取り組みます。
- エコプロダクツの調達・開発・提供**

商品ライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の開発やグリーン調達に取り組みます。
- 生物多様性**

生物多様性に配慮した事業活動を行うことにより、生態系に及ぼす影響の低減とその保全に努めます。
- 法遵守と汚染の予防**

環境関連法規はもとより、当社が同意した業界等の指針及び自主基準を順守し、環境汚染の予防に努めます。
- 情報開示・コミュニケーション**

積極的に環境情報を開示し、お客様・社外の皆様とのコミュニケーションを図り、環境保全活動に活かします。
- 環境経営**

全従業員が一丸となり、新たなエコビジネスモデルの開発に努めるなど、環境負荷の継続的改善と事業の発展に取り組みます。

### 中長期環境行動計画

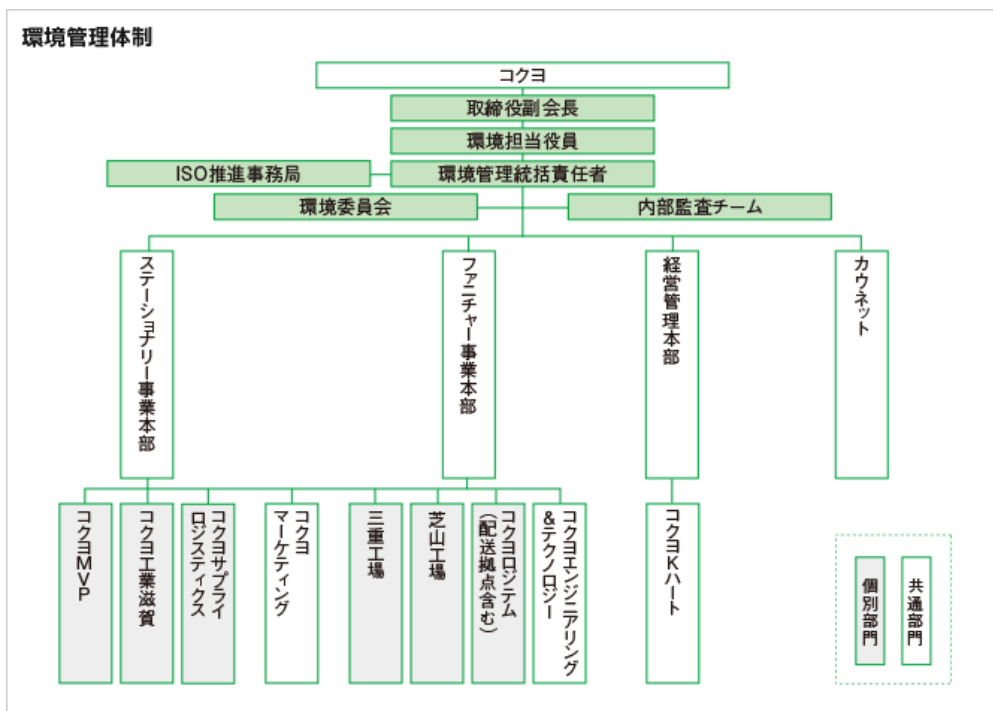
#### 中長期環境行動計画(2020年)

環境方針	対策項目	2015年実績	2016年実績	2017年実績	2020年目標
地球温暖化防止	CO2排出量の削減 (1990年比)	8.1%削減 (国内)	11.2%削減 (国内)	10.3%削減 (国内)	30%削減 (国内)
	消費エネルギーの削減 (2010年比) ※原単位で年平均1%削減	13.7%削減 (原単位)	16.4%削減 (原単位)	16.5%削減 (原単位)	10%削減 (原単位)
省資源・リサイクル	排出物総量に対する リサイクル率の向上 ※施工現場廃棄物を含む (元請)	94.9%	94.5%	94.6%	100%



## ISO14001 : 2015年版に移行しました

2004年から環境マネジメントシステムの登録範囲を国内の主要連結対象子会社に拡大し、企画・研究開発、製造、販売・サービス、保管・出荷を包括する統合認証システムとしています。運用においては、コクヨグループとしての一貫性を維持しつつ、比較的環境負荷の大きな事業会社及び工場を「個別部門」、負荷の小さな事業会社を「共通部門」とすることで、規模に応じたマネジメントシステムとしています。また、各社の事業計画に即した環境目標を定めるなど、事業特性に合った環境管理が推進できるよう、独自性への配慮を心がけています。従来より、環境文書・記録管理データベースシステムの「MELON」を導入していましたが、2013年7月に機能強化し、対象サイトの拡大、文書管理・閲覧の利便性、効率性、正確性の向上を図っています。尚、2016年12月に2015年版への移行審査を受審し、無事対応を完了しています。



## 内部監査と第三者審査の結果

コクヨグループでは内部監査を、事業会社内で実施する第一者監査、及びISO推進事務局が主体となり実施する第二者監査の2段階で実施し、特に法順守状況のチェックに注力しています。それに加え、ISO14001の第三者審査及び「CSR報告書」の第三者による検証も受けています。2017年は第一者監査を7月3日～7月31日、第二者監査を8月1日～8月31日、第三者審査を11月28日～12月1日にそれぞれ実施しました。尚、2017年の第三者審査は定期審査でした。

### 内部監査

実施年	2015	2016	2017
監査対象サイト	72	65	70
・第一者監査	57	50	55
・第二者監査	15	15	15
指摘事項	53	36	28
・軽微な不適合	6	8	12
・修正事項	47	28	16

### 第三者審査 (ISO14001)

実施年	2015 (更新)	2016 (定期・移行)	2017 (定期)
審査対象サイト	29	24	21
改善指摘事項			
・軽微な不適合	0	0	0
・改善の機会	31	21	16
ストロングポイント (特に優れている点)	0	0	0
グッドポイント (優れている点)	8	4	4

## 第三者検証の概要

コクヨ本社においてコクヨグループ32社の環境負荷データ及びScope3の検証を受けました。また、国内：3カ所(コクヨ工業滋賀、コクヨ・ファニチャー事業本部エンジニアリング事業部(品川オフィス)、コクヨロジテム関西DC)、海外：1カ所(コクヨカムリン・タラプール工場)においてデータ計測・管理方法に関する現場審査を実施しました。検証の結果、「評価できる点」として9件、「改善の機会」10件、「修正要求」26件、「明確化要求」21件の指摘を受けました。修正要求及び明確化要求については検証期間中に対応を完了しました。

Scope3の検証では、カテゴリーによって集計範囲が「連結」と「連結及び関係会社」となっており、カテゴリーごとの集計範囲の明確化に関する指摘を受けました。

今後は指摘事項を踏まえ、サプライチェーン全体を含めた情報開示の充実と精度向上に取り組んでいきます。

コクヨグループCSR報告書2018  
第三者検証報告書

コクヨ株式会社 御中



ビューロー・オブ・グリーンプラス株式会社(以下、ビューロー・グリーンプラス)は、コクヨ株式会社(以下、コクヨ)の責任において作成された「コクヨグループ CSR 報告書 2018」に記載される環境関連データのうち、コクヨから提供されたものに対して第三者検証を実施した。検証の目的は、環境関連データの正確性及び信頼性を確認し、客観的証拠に基づき検証意見を表明することである。

### 1. 検証概要

①2017年度(2017年1月1日から2017年12月31日)の事業活動に伴う環境負荷データ

検証対象	訪問サイト	検証手続
コクヨ株式会社及びグループ会社 31 社の環境負荷データ(4)	コクヨ本社 株式会社コクヨ工業滋賀 コクヨファニチャー事業本部エンジニアリング事業部品川オフィス 株式会社コクヨロジテム関西配送センター KORGVO Casils Ltd. Tarapur Factory	コクヨ本社又は訪問サイトによって策定された文書等の確認 -責任者・担当者へのインタビュー -データの収集方法に関する確認 -収集・報告されたデータと検量資料との適合

(4)対象とした環境負荷データは、エネルギー使用量、水使用量、物質投入量、容器包装材使用量、温室効果ガス排出量、SOx・NOx 排出量、廃棄物排出量、排水量、COD・BOD 排出量、工場内の循環的利用水量、敷地内の循環的利用資源量、使用済み製品の引き取り量、使用済み製品のリサイクル量、PFR 法対象化学物質の量である。

②2017年度(2017年1月1日から2017年12月31日)の環境活動評価データ

検証対象	訪問サイト	検証手続
環境会計データ	コクヨ本社	コクヨ本社によって策定された文書等の確認
2017年度Eco-Point		-責任者・担当者へのインタビュー -収集・報告されたデータと検量資料との適合
JEPD(環境政策実効指数(日本版))における2017年度環境影響ポイント		

この検証は、現時点での最良の事例に基づき、ビューロー・グリーンプラスが定める非財務情報報告に対する第三者検証の手順とガイドラインを使用し実施された。ビューロー・グリーンプラスは、本報告書に示された範囲に対して限定的保証を行うにあたり、国際保証基準ISA(2) 3000を参考にした。

### 2. 検証結果

①2017年度の事業活動に伴う環境負荷データ

実施した検証活動及びプロセスにおいて、  
-「コクヨグループ CSR 報告書 2018」に記載されている環境負荷データが、コクヨ本社で収集された環境負荷データと整合していること  
-訪問した事業部からコクヨ本社へ報告された環境負荷データに、重大な誤りや不整合が存在すること  
を示す証拠は認められなかった。

②2017年度の環境会計データ、環境活動評価指標データ

実施した検証活動及びプロセスにおいて、  
-環境会計及び環境活動評価指標の算定が、コクヨが規定した基準と整合していること  
-環境会計及び環境活動評価指標の算定に用いられたデータ及び関連する算定結果に、重大な誤りや不整合が存在すること  
を示す証拠は認められなかった。

ビューロー・グリーンプラスは、全社員の非財務情報活動において高い水準が維持されることを目指すためのビジネス活動における環境標準を定め、特に重要な事項を定めることに取り組んでいます。コクヨ株式会社に対するビューロー・グリーンプラスの活動は、社会的報告に対するものだけでなく、報告の信頼性を高めるための利益を促進することにはないものと見なされます。

温室効果ガス排出量検証報告書

コクヨ株式会社 御中



ビューロー・オブ・グリーンプラス株式会社(以下、ビューロー・グリーンプラス)は、「コクヨグループ CSR 報告書 2018」においてコクヨ株式会社(以下、コクヨ)により報告される、2017年1月1日から2017年12月31日の期間の温室効果ガス排出量に対して限定的保証業務を行った。

### 1. 検証範囲

コクヨはビューロー・グリーンプラスに対し、以下の温室効果ガス種類の正確性について検証し限定的保証を行うこと依頼した。

- 1) スコープ1及びスコープ2 温室効果ガス排出量  
-コクヨ株式会社及びグループ会社 31 社の事業活動に伴う温室効果ガス排出量
- 2) スコープ3 温室効果ガス排出量  
-GHG Protocol Corporate Value Chain (Scope3) Accounting and Reporting Standard に基づいて算定されたスコープ3 排出量のうち、カテゴリー1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 11, 12, 13の排出量。但し、各カテゴリーにおける算定範囲はコクヨの決定に基づく。

### 2. 検証方法

ビューロー・グリーンプラスは、ISO 14064-3(2006): Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the validation and verification of greenhouse gas assertionsの要求事項に従って検証を行った。ビューロー・グリーンプラスは、限定的保証の一環として以下の活動を行った。  
-温室効果ガス排出量を特定し算定する責任のあるコクヨの関係者へのインタビュー  
-コクヨの温室効果ガス排出量を決定するために用いられた情報に対する、情報システムと収集・集計・分析方法の確認  
-温室効果ガス排出量の正確性を確認するための元データのサンプル監査

### 3. 結論

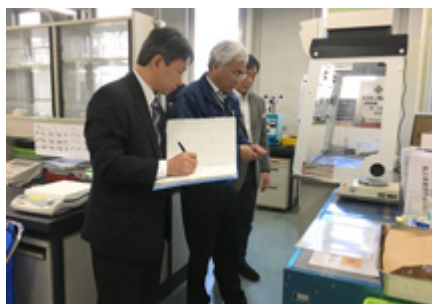
実施した検証活動及びプロセスによれば、温室効果ガス主成分が、  
-著しく正確性を欠き、対象範囲内の活動からの温室効果ガス排出量データを適切に表していないこと  
-コクヨが定めた温室効果ガス排出量算定方法に従って作成されていないこと  
を示す証拠は認められなかった。

スコープ 1	検証された温室効果ガス排出量		スコープ 3
	8,798 tCO <sub>2</sub> e	34,952 tCO <sub>2</sub> e (ロケーション基準) 34,328 tCO <sub>2</sub> e (マーケット基準)	
検証されたスコープ3 排出量の内訳は以下の通り。	カテゴリー 1	カテゴリー 2	カテゴリー 3
	1	2	3
	236,875	16,474	3,981
	6	871	2,226
	11	5,487	1,851

カテゴリー	tCO <sub>2</sub> e	カテゴリー	tCO <sub>2</sub> e	カテゴリー	tCO <sub>2</sub> e
1	236,875	9	3,185	12	25,828
2	16,474	6	871	13	1,851
3	3,981	7	2,226		
4	23,620	11	5,487		

### 【独立性、公平性及び力量の声明】

ビューロー・グリーンプラスは、独立保証業務の提供と180年の歴史を持つ、品質・顧客・安全・社会・環境管理に特化した独立した専門サービス会社です。検証チームメンバーは、当該業務の要求の範囲において、コクヨのビジネス上の関係は持っていません。ビューロー・グリーンプラスは、本事業活動におけるスタッフの高い倫理基準を維持するため、厳格な規定を導入しています。検証チームは、環境・社会・倫理・顧客・安全の優先順位に基づいて保証業務について信頼関係を築いています。



ISO14001  
第三者審査の様子(コクヨワークショップ)



ISO14001  
第三者審査の様子(コクヨ芝山工場)



環境パフォーマンスデータ  
第三者検証の様子(コクヨ工業滋賀)

✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 環境保全

### 地球温暖化防止対策

アジア企業に向けて環境マネジメント体制の整備を進めています。まずは低炭素社会実現に向け、温室効果ガス排出量の大幅な削減に取り組むため、報告対象範囲を拡大しました。

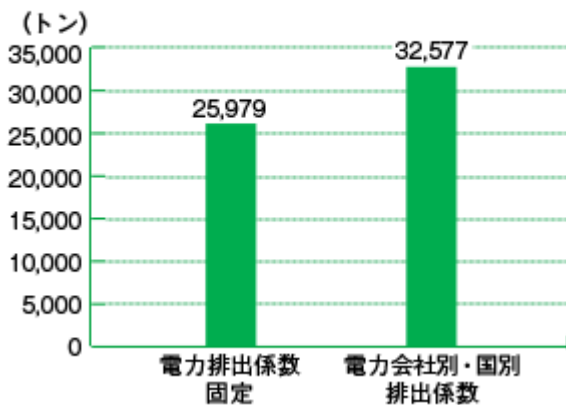
2017年 目標 (報告対象A)	2017年 実績 (報告対象A)	評価
CO <sub>2</sub> 排出量対前年比 生産影響除く: ▲1.4% (総量: +4.6%)	CO <sub>2</sub> 排出量対前年比 生産影響除く: ▲2.4%(総量:+2.5%) 25,979t-CO <sub>2</sub> <電力排出係数固定:0.378kg-CO <sub>2</sub> /kWh> 32,577t-CO <sub>2</sub> <電力会社別・国別排出係数>	○
消費エネルギー(売上高原単位):対前年比+1.3%	消費エネルギー(売上高原単位):対前年比▲0.2%	○

#### 2017年の総括

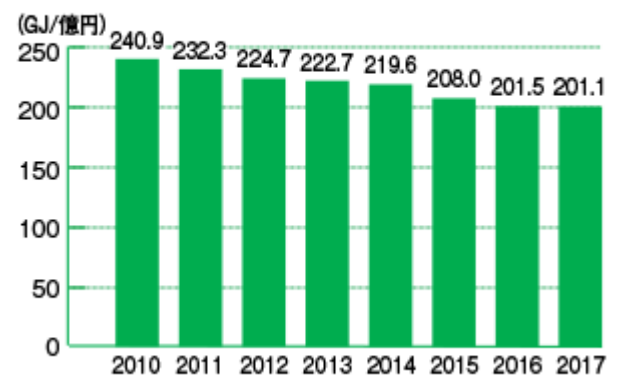
2017年のコクヨグループのCO<sub>2</sub>排出量は、従来範囲で「電力排出係数を電気事業連合会」公表2000年全電源平均「0.378kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用し計算した場合、25,979トンとなり、前年に比べ637トン(2.5%)の増加となりました。試算ではありますが、運用改善で440トン削減、設備改善で320トン削減、生産・統廃合で1,390トン増加となり、運用改善と設備改善を合わせた実質削減量は760トンとなりました。よって、生産影響を除くと前年比で2.4%削減となり、目標の1.4%削減を達成しています。排出元別では、工場においては生産増により1,320トン増加しましたが、生産効率の改善などにより550トン削減したことにより770トンの増加となりました。物流においても拠点の集約などにより25トン減少し、また省エネ・節電活動を強化したことで60トン削減し、結果85トンの削減となりました。オフィスにおいては空調運転の効率化や蓄熱の有効利用により40トン削減となりました。また、エネルギー消費効率を上げるため、エネルギー消費を分子に売上高を分母にする原単位管理も行っています。2017年は対前年比0.2%削減を達成しました。

尚、日本の電力のCO<sub>2</sub>排出係数は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく係数(2017年は電気事業者ごとの平成27年実績及び平成28年実績の実排出係数)、海外の電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)並びに世界資源研究所(WRI)が公開しているGHGプロトコルウェブサイト内の各国ごとの2012年排出係数を採用すると、6,598トン増加し、32,577トンとなります。

#### 電力排出係数を固定した場合と電力会社別・国別排出係数を適用した場合との比較



#### 消費エネルギー(売上高原単位)の推移



#### 対象範囲

2011年までのCO<sub>2</sub>排出量の報告対象範囲は16社(報告対象A<sup>※1</sup>)でしたが、2012年より連結対象子会社のすべて(2017年は32社、報告対象B<sup>※2</sup>)まで拡大した結果、CO<sub>2</sub>排出量は43,112トン(非連結版社分1,491トンを含む)となりました。排出係数の変動、さらに、サプライチェーンにおけるCO<sub>2</sub>排出量の開示要求などコクヨグループを取り巻く環境も大きく変化してきています。こういった状況を踏まえ中期目標の見直しを検討する必要があると考えています。

※1 A:コクヨと連結子会社12社、関連会社3社

※2 B:コクヨと連結子会社21社、関連会社10社(コクヨS&T、コクヨファニチャーは2015年10月にコクヨに統合しました)

※ 関連情報:「[CO<sub>2</sub>排出量の推移](#)」



## オフィスにおける温暖化防止対策

オフィスでは前年と比べてCO<sub>2</sub>排出量は40トンの削減となりました。空調運転方法やワークスタイルの見直し、「ノー残業デー」「早帰り」などの活動推進、LED照明への更新など節電対策に取り組んだほか、品川オフィスでは「電力見える化システム」の活用による空調設備や蓄熱槽の効率運転により昼間のピーク電力の低減にも取り組んでいます。また、営業活動においても公共交通機関の利用促進に努め、ガソリンの使用量を前年比約8%削減、CO<sub>2</sub>排出量を30トン削減しました。2017年はこれまでも実施していたクールビズ・ウォームビズをスマートビズとして年間を通じて実施しています。



大阪オフィス新館に設置されている太陽光パネル

## 工場における温暖化防止対策

工場では前年と比べてCO<sub>2</sub>排出量は770トンの増加(国内530トン増加、海外240トン増加)となりました。生産増により前年と比べて1,320トン増加しましたが、製品型替え時間の短縮や生産設備の運用ルールの徹底、点検の実施、生産スケジュールの精緻化、エネルギーチェックによる無駄の削減などの運用改善により310トン削減。また、設備のインバーター化や照明のLED化などの省エネ設備の導入により240トンを削減しました。



滋賀工場に設置されている太陽光パネル

## 物流における温暖化防止対策

物流(保管・出荷)は、前年と比べてCO<sub>2</sub>排出量は85トンの削減となりました。日々の省エネ活動の推進による運用改善、省エネタイプの照明器具の導入、配送センターの照明の適正照度の見直しなどの設備改善により60トンを削減しました。また、自動立体倉庫を有するコクヨロジテム伊那配送センターでは電力デマンド計を導入し、電力需給逼迫に対してピーク電力カットにも取り組んでいます。2017年は拠点の集約などにより25トン削減しました。

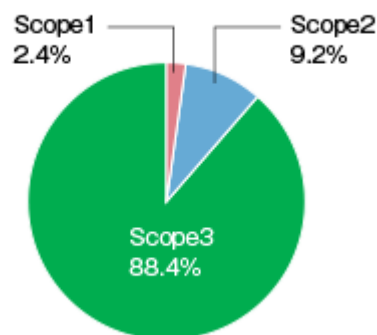


首都圏IDCに設置されているハイブリッド街灯

## サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量の把握

近年、GDPをはじめ、企業が間接的に排出するサプライチェーンでの温室効果ガス排出量としてScope3(製造、輸送、製品の使用・廃棄など)を管理し、対外的に開示する動きが強まっています。コクヨグループでも輸送分野など一部では取り組んでいましたが、2014年から環境省の「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」に即した取り組みを開始しました。2017年のサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量は371,268 t-CO<sub>2</sub>でした。そのうちScope3が全体の約90%を占め、中でも「カテゴリ1の購入した製品・サービス」が約70%を占めています。ただ、これでもまだすべての協力工場からデータ把握ができていないため、その比率がさらに高まるのが想定されます。その他のカテゴリでもまだ課題があり、来期以降、改善を進めていきます。また、開示情報の信頼性確保のため、ビューローベリタスジャパンによる第三者検証を受けました。

### Scope別温室効果ガス排出量



❖コクヨCSR憲章	❖会社概要	❖コクヨの3つの事業領域	❖コクヨグループのあゆみ	❖コクヨのCSR	❖お客様
❖地域社会	❖環境保全	❖企業活動	❖人間尊重	❖社外からの評価	

## ■ 環境保全

### 省資源・リサイクル対策

循環型社会の進展に向け、限りある資源を有効利用し、Reduce・Reuse・Recycleに取り組みます。

2017年 目標	2017年 実績	評価
廃棄物総量に対するリサイクル率の向上 ・事業所：96.9%以上 ・施工現場：81.6%以上	・事業所：96.8% ・施工現場：82.7%	▲ ○

#### 2017年の総括

##### 廃棄物データ精度の向上

2017年のコクヨグループの事業所からの排出物量は、連結対象子会社のすべてを対象範囲に含めた結果20,409トン（非連結販売98トン含む）となり、前年に比べて953トンの増加となりました。

このうち、工場の生産増により、約600トンが増加しました。

##### 工場の取り組み

2017年の工場部門におけるリサイクル率は96.3%でした。日本国内のコクヨグループ自社工場の産業廃棄物については既にゼロエミッションを達成しています。

また、海外工場においては、2017年のリサイクル率は84.8%でした。各地で異なるリサイクル事情を考慮するとともに、廃棄物そのものの排出の抑制とリサイクルに努めていきます。

##### 物流部門の取り組み

2017年の物流部門におけるリサイクル率は98.4%でした。物流工程で生じる製品梱包で使用した段ボールや木製パレットの修理によるリユースを行っています。2017年は30トンの段ボール・木製パレットをリユースしました。今後も積極的に資源の有効利用を行っていきます。

##### 施工現場廃棄物の状況

施工現場廃棄物の処理に関する元請責任が明確化され、排出事業者の責務がますます強化されています。

2017年は施工現場で加工する部材の発注方法の見直しなどによる廃棄物の抑制に努めました。結果、施工現場廃棄物量は3,750トン、リサイクル率は82.7%でした。

施工現場廃棄物は均一ではなく、いくつもの種類の廃棄物が混在しているためリサイクルが困難なケースが多いのですが、排出抑制とともに、今後も継続して廃棄物の適正処理と中長期目標であるリサイクル率100%を目指していきます。

##### 使用済み商品のリユース・リサイクル

商品をお届けした際に、お客様のもとで不要になった使用済み商品を引き取り、状態に応じてリユース・リサイクルする取り組みを続けていきます。

コクヨロジテムでは2017年にオフィスデスクや事務用イスなどの使用済み商品を約1,820トン引き取り、そのうち約180トンのリユースし、リユースできないものは解体・分別してリサイクルしました。



デスクの解体・分別



☑️コクヨCSR憲章	☑️会社概要	☑️コクヨの3つの事業領域	☑️コクヨグループのあゆみ	☑️コクヨのCSR	☑️お客様
☑️地域社会	☑️環境保全	☑️企業活動	☑️人間尊重	☑️社外からの評価	

## ■ 環境保全

# 法順守と汚染の予防

環境関連法規はもとより、当社が同意した業界などの指針及び自主基準を順守し、環境汚染の予防に努めています。

### 2017年の総括

コクヨグループでは現在、日本国内においては、28の環境法令が該当しています。毎年6月に各法令の順守評価を実施しています。結果として法令違反となるような事象はありませんでした。ただ、部門によっては担当者交代による引継ぎ不足や順守評価を満たすための担当者の力量不足が散見されました。2018年は担当者の力量向上のための教育を実施していく予定です。

### 化学物質の適正管理

コクヨグループでは、化学物質の適正な管理・取り扱いに努めています。現在、平成28年6月より法改正施行された化学物質のリスクアセスメントの義務化に基づき、各事業所でのさらなる安全管理と環境改善に取り組んでいます。

たとえば芝山工場では、購入した塗料などのSDS(Safety Data Sheet:安全データシート)をデータベース化し、使用時の注意事項や関連法規制を記載し、取扱者が必要時に確認できるようにしています。

また、塗料などを扱う現場では「毒性・危険性」と「可燃性」を化学物質などの含有率からその注意度を青・黄・赤で色分けして記載したパネルを掲示し、取扱者が扱う際の注意を「見える化」することで事故の防止に努めています。

他事業所においても現場に応じた安全管理を実施しています。



掲示パネルにて有害性・危険性を周知  
(コクヨ芝山工場)

### 化学物質管理研修を実施しています

化学物質の適正な管理のため、定期的に研修会を実施しています。

また、各事業所や工場で運営されている安全衛生委員会での年間計画には、安全な管理運用についても指針を明示し、継続的な活動として取り組んでいます。



各事業所で研修会を実施  
(コクヨ本社)



管理担当者同士で積極的なカイゼンコミュニケーション  
(コクヨ工業滋賀)



年間計画にてリスクアセスメントの周知と活動を実施  
(コクヨ芝山工場)



適正な管理・取り扱いを励行  
(コクヨ本社)



適正な管理・取り扱いを励行  
(コクヨMVP鳥取工場)



適正な管理・取り扱いを励行  
(コクヨ三重工場)



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 環境保全

### 環境に配慮した製品・サービスの開発

商品のライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術やグリーン調達に取り組んでいます。

2017年 目標	2017年 実績	評価
エコバツゼロの維持	維持できている	○

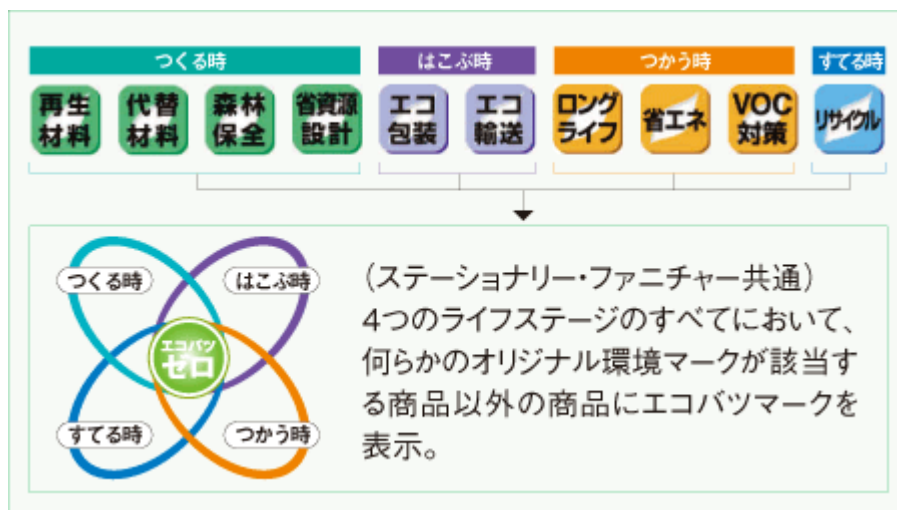
#### 2017年の取り組み

##### エコバツゼロを継続

コクヨグループでは「2008年版総合カタログ」から商品のライフサイクルの各段階(「つくる時」「はこぶ時」「つかう時」「すてる時」)において、そのいずれかひとつでも環境配慮が十分でない自社商品について、「エコバツマーク」を表記し、それを3年間でゼロにする取り組みを行ってきました。「2011年版総合カタログ」で「エコバツゼロ」を達成し、「2018年版総合カタログ」でも引き続きゼロを継続しています。エコバツの取り組みはモノづくりのプロセスやモノづくりに直接関与しない社員も自らの働き方やオフィス空間、お客様への提案を見直すきっかけとなりました。エコバツゼロ達成以降は「エコ+クリエイティブ」をキーワードにお客様の期待値を超えるエコプロダクツの開発を進めています。

##### チェック機能を強化

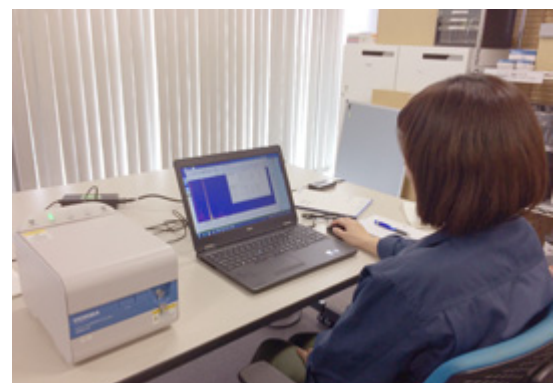
エコバツ達成以降も基準の適合性に関する検証をより徹底して行っています。特に、環境表示の信頼性を確保するために、古紙や再生樹脂の配合率について協力工場の監査を毎年実施しています。



エコバツマーク

##### 製品含有化学物質管理の推進

昨今、欧州のRoHS指令、REACH規則をはじめとする化学物質規制が国際的に強まり、広範囲の化学物質の使用状況の報告を市場から要求されています。コクヨグループは、法規制物質の不使用はもとより、環境や人体への悪影響が懸念される物質の使用状況を管理し、情報提供することは、商品を提供する事業者すべてに共通する社会的責務であると考えます。一方、従来の化学物質固有の危険有害性のみに着目したハザードベース管理から科学的手法に基づいたリスクベース管理へのシフトが明確となってきています。こうした世界的な流れを受けて、2014年に、ハザードベースでの物質リストの特定をし、2015年はこの物質リストを基に優先順位の高い製品から順次調査を実施しました。2017年は調査結果から得られた情報を基に含有物質の有害性や曝露状況を評価し、「製品含有化学物質管理基準ガイドライン【ステーションナリー編】」を作成しました。



蛍光X線分析装置で重金属の有無を確認

## 森林認証商品

コクヨは2003年よりFSC®・COC認証を取得しています。FSC(Forest Stewardship Council®森林管理協議会)とは、国際的な森林認証制度を行う第三者機関の一つで、森林環境を適切に保全し、地域の社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理を推進することを目的としています。また、COC認証とは、Chain-of-Custodyの略で、加工・流通過程の管理の認証です。コクヨグループではコクヨ・カウネット・コクヨ工業滋賀がFSC®・COC認証を取得し、コピー用紙・ノートなどのFSC®認証製品を販売しています。2016年にはPEFC・COC認証も取得しました。PEFC(Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes)とは、各国・地域で作成された森林認証基準を相互承認する団体です。

コクヨグループでは持続可能な森林資源利用のため認証商品の拡大に努めていきます。



責任ある森林管理のマーク



PPCカラー用紙



ヨシコピー用紙



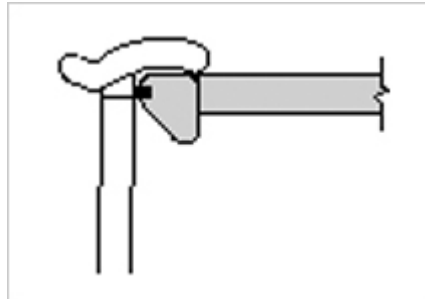
UUチェア

## プロトコルカウンター

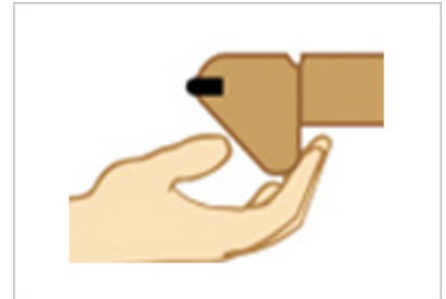
全国の地域材を使いたいというニーズにも応えられるよう、開発された窓口カウンターです。graf デコラティブモードナンバーシリーズのデザインにより、すっきりとモダンなテイストに仕上げています。天板のエッジに杖倒れ防止や車椅子利用者用グリップなどを採用したユニバーサルデザインにも配慮した製品です。



ウッドデザイン賞2017を受賞しました  
※ 関連情報: 「[外部からの表彰・評価](#)」



天板に付いている杖の引っ掛け



車椅子の方のための手触りの良い天板手掛かり

## 納入事例(滋賀県甲賀市庁舎)



滋賀県甲賀市は、滋賀県東南部に位置し、森林も多く琵琶湖の水源涵養・水質保全にも重要な地域となっています。2017年3月に完成した新庁舎は、内装や家具に滋賀県産の木材をふんだんに使用し、地域の林業推進の発信拠点としての役割も果たしています。コクヨはこの甲賀市新庁舎の窓口カウンターを受注し、滋賀県産のヒノキを利用したプロトコルカウンターを納品しました。自治体の窓口カウンターで地域材を使用するために開発されたプロトコルカウンターは、高齢者や車椅子利用者に配慮したユニバーサルデザインでありながら、地域材の魅力を実際立させるすっきりとしたデザインでもあり、木を多用した新庁舎をより魅力的な空間にしました。

現在、国が推進する「公共建築における木材利用促進」の浸透に伴い国や地方自治体の公共建築物において地域産木材を利用するケースが増えています。コクヨグループではこれまで培ったノウハウを生かし、地域材を有効に活用し、環境に配慮しながらもより機能的で、誰にでも使いやすいユニバーサルデザインに配慮した製品を製作・提供していきます。



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 環境保全

### 生物多様性への配慮・環境コミュニケーションの推進

生物多様性に配慮した事業活動を行うことにより、生態系に及ぼす影響の低減とその保全に努めます。高知県の四万十川流域の森林保全活動や、滋賀県の琵琶湖環境の保全活動を積極的に推進しています。

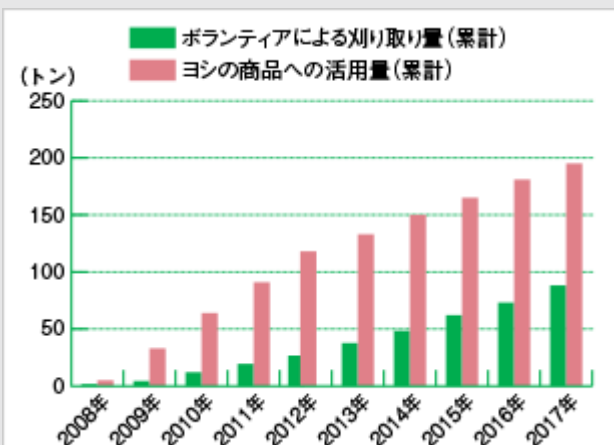
#### 活動ハイライト

#### ReEDEN(リエデン) 10年間の活動成果



コクヨ工業滋賀は、ノートをはじめとする紙製品を製造するコクヨグループの主力工場。人々の命を支え、多くの生き物たちのにぎわいの場所となっている琵琶湖の近くで操業していることから、積極的な環境保全活動を行ってきました。中でも特に力を注いでいるのはヨシの活用。ヨシはCO<sub>2</sub>の吸収だけでなく、その成長過程で窒素やリンを吸い上げて水を浄化する働きをもち、また琵琶湖に棲む生き物のすみかとしてなくてはならない植物です。かつては、よしずや屋根葺き材料などに利用されていたヨシですが、生活様式の変化とともにその活用先を失い、手入れのされなくなったヨシ原は荒れていました。そのようなヨシの活用促進に取り組み、現状を広く知ってもらうことを目的に2007年11月に「ReEDEN(リエデン)プロジェクト」がスタートし、2017年で10周年を迎えました。

10年間でヨシ刈りを31回開催、延べ参加人数は3,530人、刈り取り量は約90トンになりました。また、ヨシの商品への活用量は約200トンとなりました。



#### 表彰・認定

2008年	「グリーン購入大賞」 審査員特別賞受賞
2009年	「エコプロダクツ大賞」 優秀賞受賞
2013年	「ココクール マザーレイク セレクション」 認定
2015年	「買うエコ大賞」 大賞受賞
2015年	「環境人づくり企業大賞」 奨励賞受賞
2015年	「The Wonder 500TM」 ヨシ筆ペン 認定
2016年	「はなやか関西セレクション」 ヨシ筆ペン 受賞
2017年	「日本文具大賞 デザイン部門」 びわこテンプレート 優秀賞受賞
2018年	「しが生物多様性大賞」 大賞受賞
2018年	「滋賀県低炭素社会づくり賞」 受賞

## ココヨグループ木材調達基本方針

ココヨグループは、2011年に「木材調達基本方針」を制定し、持続可能な森林資源を原料とすることを明確にしました。ココヨグループは創業時より紙をはじめとした森林由来資源を活用して事業を展開・発展してきました。我々は、地球温暖化の抑制や生物多様性など森林の果たしてきた役割を認識し、資材の調達に関して合法性・透明性・持続可能性に配慮しながら、今後も森林資源との調和ある発展を目指します。

### ココヨグループ木材調達基本方針

当社グループは、以下の方針に基づく森林由来資源の調達を推進するとともに、その継続的改善に努めます。

1. 木材貿易における違法伐採・違法取引問題を認識した、より透明性の高い資材の調達
2. 森林資源の持続的利用のための、より適切なサプライチェーンからの資材の調達
3. 地域における森林の社会的な価値・役割の認識に基づく、その維持・保全に配慮した資材の調達

### 国産材・地域材の利用

日本の国土面積の約67%を占める森林は、土砂の流出防止や水源涵養と呼ばれる保水機能、CO<sub>2</sub>の吸収作用などの役割を果たしており、再生産可能な資源でもあります。しかし、その中の約4割に当たる人工林の多くは、間伐などの手入れが遅れ、前述のような森林の多面的機能が発揮できずにいます。

ココヨは1998年から間伐材家具の開発に取り組み、2000年より販売しています。オフィスで積極的に国産材(間伐材)を使うことにより、新しい木材需要を喚起するとともに、森林と生きる持続的社会的の実現を後押ししたいと考えています。



BS+デスクシステム



記載台



FUBI

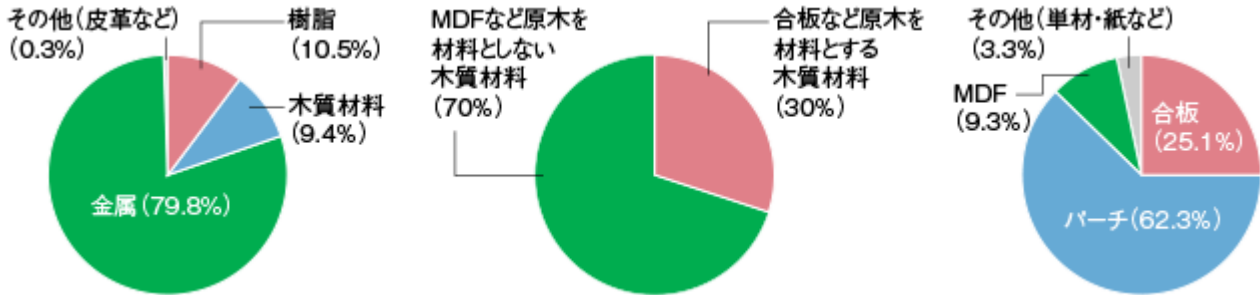
### 「合法性・持続可能性に係る事業者認定」を取得

グリーン購入法改訂に伴うJOIFA(日本オフィス家具協会)の「合法性・持続可能性に係る事業者認定」を取得しています。この実施規定に基づき、帳票管理や責任者選任、使用実績報告など合法性・持続可能性が証明された木材、木材製品の使用・販売推進に努めています。



## 木材利用状況

2017年のファニチャー製品に利用する木質材料は約5,200トンでした。これは全原材料(梱包材除く)の9%に相当します。この木質材料の内、30%が無垢材や合板など「原木を材料とする木質材料」で、70%が間伐材、廃木材、未利用材及びその二次加工品である木質ボード(MDFやパーティクルボード)など「原木を材料としない木質材料」となっています。これらの情報はJOIFA(日本オフィス家具協会)へグリーン購入法の合法木材事業者認定の年別取扱実績として毎年報告しています。また、JOIFA木質表記ガイドラインに沿って「原木を材料とする木質材料」の樹種を把握するよう努めています。



## 木材利用実績調査

コクヨではファニチャー製品に利用する木質材料の樹種・取扱量・原産国・地域を毎年、調査しています。ただ、市販部品などに関しては、原産国の特定は困難を極めておりますが、持続可能な資源利用のため、引き続き把握に努めていきます。

樹種名	材形状	取扱量(m <sup>3</sup> 換算)	原産国・地域など
アユース	無垢材	266.1	インドネシア・カメルーン
オーク	無垢材	0.1	マレーシア
カプール	無垢材	23.8	マレーシア・インドネシア
スギ	無垢材	2.9	日本
ナラ	無垢材	1.4	ロシア
パイン	無垢材	72.0	ニュージーランド・チリ
ビーチ	無垢材	57.6	ドイツ・タイ・クロアチア
ヒノキ	無垢材	1.2	日本
ファルカータ	合板	99.5	インドネシア
ポプラ	無垢材	217.6	インドネシア・USA・カナダ
ホワイトオーク	無垢材	0.3	カナダ・USA
ユーカリ	無垢材	308.0	ベトナム・オーストラリア
ラバーウッド	無垢材	83.2	インドネシア・タイ・ドイツ・マレーシア
ラワン	合板	458.0	マレーシア・インドネシア・フィリピン
合計		1,591.6	

※サプライヤーから伝達された情報を集計。MDFなど原木を材料としない木質材料は除く。

※原産国・地域などが特定されている樹種のみ開示しています。



## 結の森プロジェクト

2006年、コクヨは高知県四万十町大正地区の民有林を「結の森」と名付け、「人工林の再生」と「自然環境と地域社会の再生」をテーマに、間伐材の有効活用を中心とした森林保全を開始し、2007年よりFSC®(Forest Stewardship Council®森林管理協議会)の森林管理認証を取得しています。また同年、高知県が展開する「環境先進企業との協働の森づくり事業」パートナーズ協定(四万十町森林組合/四万十町・高知県)を締結し、10年間にわたり「四万十・結の森プロジェクト」として、森林保全に取り組んできました。2016年はこのパートナーズ協定の契約期間満了に伴い、契約内容を一部見直したうえ一年ごとの更新条件で、2016年4月1日に再締結しました。結の森は約100ha、間伐面積2haからスタートし、11年を経て対象面積は5,429ha、累計間伐面積が1,416haまで拡大しました。また、2007年より、高知県から「CO<sub>2</sub>吸収証書」が交付されており、2016年単年では6,598t-CO<sub>2</sub>、累計では43,058t-CO<sub>2</sub>になりました。(期間:2006年4月~2017年3月)。また、結の森プロジェクトは「ウッドデザイン賞2017」を受賞しました。

※ 関連情報:「[外部からの表彰・評価](#)」

### 高知県から結の森プロジェクトに対して「感謝状」と「CO<sub>2</sub>吸収証書」が授与されました

2017年9月21日、高知県立県民文化ホールにて、第11回「協働の森フォーラム」が開催されました。コクヨグループは2017年で10周年を迎えたため、高知県尾崎知事より、感謝状が授与されました。また、同日、「CO<sub>2</sub>吸収証書」も授与されました。高知県尾崎知事より、「長年にわたり、環境保全・森林整備・産業振興・高知県のPRなど、さまざまな面で大変貢献していただいている」と感謝の言葉をいただきました。



感謝状の授与



CO<sub>2</sub>吸収証書の授与



ウッドデザイン賞受賞(エコプロダクツ展会場)

### FSC®認証を取得しています

結の森は2007年よりFSC(Forest Stewardship Council®森林管理協議会)の森林管理認証を取得しています。2017年8月23日~24日に定期審査が実施され、引き続きFSC®認証を継続しています。

### 一人前認定ツアー&モニタリング活動の実施

2017年11月11日~12日の2日間、入社4年目を迎えた社員の中で一定要件をクリアし、「一人前認定」を受けた社員を対象に「一人前認定記念 結の森体験ツアー」を実施しました。このツアーは、間伐体験・記念植樹・地元の四万十町森林組合や四万十高校との懇親会など、さまざまな活動を通じて、環境意識の向上とコクヨの環境活動への関心を高めることを目的としています。イベントのひとつとして、四万十町森林組合・四万十高校・高知県・四万十町の職員の皆様と共同で11回目となる植生調査を実施しました。森林保全活動を行う上で必要不可欠なのは、間伐効果を「見える化」することです。活動の効果を長期的に監視していくため、特定の2地点において調査を継続しています。

※ 関連情報:「[四万十高校生によるレポート](#)」

### 間伐材の有効活用

間伐材の有効活用のために、コクヨでは2000年より地元の四万十町森林組合と協働で間伐材家具を製造・販売してきましたが、通販会社のカウネットも2007年から「結の森」ブランドの商品として文具を中心に販売を開始し、2017年現在で14品番になっています。カウネットでは活動への理解と賛同者を増やすため、お客様のポイントを結の森の間伐に寄付する仕組みを2008年から実施しており、本年も約100件のお申し込みがありました。加えて、2011年2月より「結の森1%寄付プロジェクト」をスタートさせ、現在も継続しています。これは「結の森」商品の売上の一部を公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付するというものです。



FSC®審査の様子



モニタリング活動参加者



カウネット「結の森商品」

## ヨシを活用するという切り口から琵琶湖を守る

これまで培った生産技術と製紙会社との開発力を生かし、ヨシをコピー用紙やノートなどの工業製品として生産し、ReEDEN(リエデン)シリーズとして市場に見合った価格で販売。さらに、ヨシパルプ100%の名刺やヨシ筆ペンなどの高付加価値商品や、2014年には琵琶湖や滋賀の観光・特産品をテーマにした土産文具として「びわこ文具」シリーズを発売、また滋賀県立琵琶湖博物館と製品を共同開発するなど、ヨシ活用による環境貢献への市場を創造しています。また、売上の一部を地元の環境団体に寄付し、ヨシの保全活動に役立てています。



リエデンシリーズ



びわこ文具



びわこテンプレート

※ 関連情報: [「リエデン・プロジェクト」](#)

## 地域社会の一員として、ヨシで琵琶湖を守る仲間の広がり

「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」は2009年にココヨ工業滋賀が事務局となり設立しました。この会はさまざまな企業・団体がゆるやかに繋がる連携の中で、琵琶湖の自然環境の保全に貢献することを目的としています。設立当初、数社でスタートしたネットワークも現在123社となり、多くの仲間が賛同する会に広がりを見せています。主な活動は、琵琶湖の生態系・水環境に大切な役割を果たしているヨシ原の保全活動です。当初はココヨ工業滋賀の社員数人からスタートしたこの活動も、今では地元環境団体と産学官が集い、数百人が参加する活動へと大きく広がっており、これまでに延べ3,530人の仲間がヨシ刈りに参加されました。次の試みとして、「ヨシ原のバイオマス調査」を専門家と協働し、生物量・炭素量などの調査をすることで、これまでの活動成果を実証していこうと考えています。また、将来このデータをもとに滋賀県とヨシのカーボン認証制度を見据えており現在準備中です。これらの活動の様子は、ネットワーク通信で、専門家による自然環境の話題や会員の活動の紹介などとともに配信しており、より仲間意識を深めています。

※ 関連情報: [「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」](#)

## 「外来魚駆除釣り大会」「カヌーでヨシ原観察会」 活動の広がり

さまざまな異業種の企業・団体が集まる「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」は、年々活動の場を広げています。冬場のヨシ刈りが終わり春を迎えるとヨシ原では新芽が成長を始めます。そんなヨシ原周辺で2011年から「外来魚駆除釣り大会」を開催しています。琵琶湖の固有種であるホンモロコやニゴロブナなどを脅かすブラックバス・ブルーギルを駆除することが目的です。ネットワーク各社の家族と一緒に楽しみながらの環境活動です。回を重ねる毎に参加者も増え、去年は170人ほどの方が集い、子どもたちと一緒に琵琶湖の生態系保全に貢献しています。また、2014年からスタートした「カヌーでヨシ原観察会」は、うっそうと茂る夏のヨシ原で、迷路になった水路をカヌーに乗って湖面から観察する企画です。自ら刈ったヨシ原をカヌーに乗って散策すると、いつも参加者の歓喜と驚きの声が響いています。このような四季折々の活動は、体験を通して自然の大切さを肌で感じる事ができ、豊かな琵琶湖の環境を守っていくことの大切さを伝える絶好の機会となっています。



外来魚駆除釣り大会



カヌーでヨシ原観察



冬ヨシのバイオマス調査

※ 関連情報: [「リエデンの日記」](#)



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 企業活動

# コーポレートガバナンス・リスクマネジメント

### 活動ハイライト

海外グループ会社で継続的にコンプライアンス研修を開催



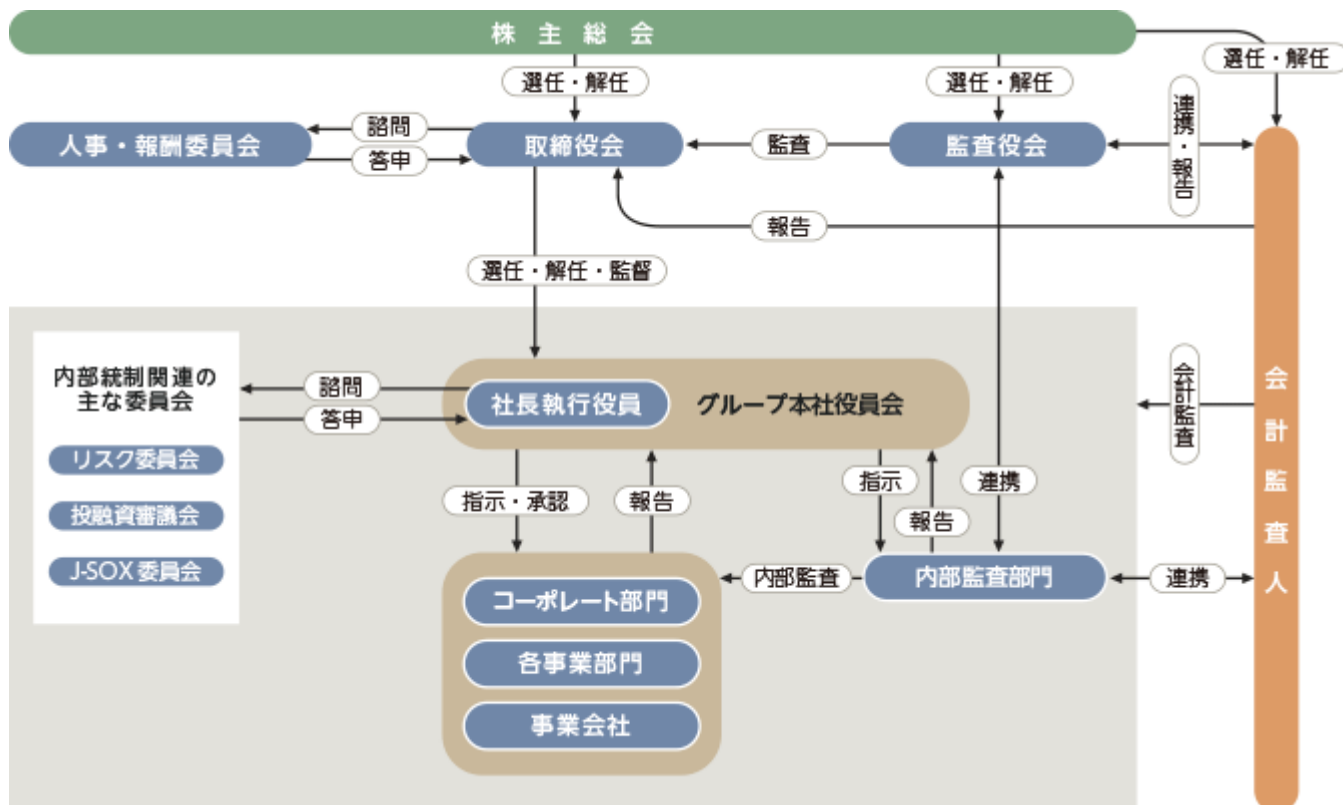
タイでステーションナリーの製造を行うコクヨ-IKタイランドでは、コンプライアンス意識の向上を目的に、2013年以降年一回のコンプライアンス研修会を継続的に開催しています。この研修会は社員一人ひとりにコンプライアンスを浸透させるため、役員や管理職はもちろん、全社員が参加しています。2017年1月5日に行われた教育研修会では、コクヨグループ共通の規定となる「コクヨグループ行動基準」の読み合わせなどを行い、社員たちは「コクヨグループ行動基準」を再確認し、コンプライアンスの重要性を再度理解する重要な場となりました。また、24時間稼働体制を敷いているコクヨ-IKタイランドにとって、この研修会は、全社員（約270人）が集まる大変貴重な機会でもあります。この機会を利用し、コクヨ創業者である黒田善太郎が自らの心構えを明文化した「経営の信条」（タイ語版）を全員で唱和するなど、全社員がコクヨグループの一員であることの自覚を高めました。海外展開を図る企業にとって、海外のグループ会社における管理体制は大きな課題であり、特にコンプライアンス意識の醸成・浸透はますます重要になっています。コクヨグループは今後も、グループ一体となって法令や規則を遵守し、社会倫理に合った企業活動を行うため、海外拠点においても現地事情に合致したコンプライアンス意識向上のための研修会を積極的に行っていきます。



タイ語での説明資料

## コーポレートガバナンス体制

透明で適切かつ効率的な経営の再現性と継続性が担保されることを目指し、コーポレートガバナンス体制を構築しています。また事業や業務が不正なく、誤りなく、効率よく遂行されるように、内部統制システムを構築・運用し、継続的に改善・充実を図っています。内部統制関連の主な委員会では、担当役員が委員長となり、複数の関連部署からメンバーを選出しており、それぞれの専門的見地からCSRにおける重要課題をグループ全体で組織的に推進・強化していくための取り組みを行っています。



## 役員紹介

[役員一覧については、会社案内の基本情報をご覧ください。](#)

## コクヨグループの知的財産権に対する基本的な考え方

競合他社との差別化を図るための戦略の一つとして、知的財産権の取得を推奨し、同時に他社の知的財産権を尊重すべく、下記の取り組みを行っています。

### 1) 知的財産権管理・運用体制

国内及び国外子会社及び関連会社の知的財産にかかる業務を法務部知的財産グループにおいて一括管理し知的財産権活用及び戦略の標準化及び一元化を目指しています。

同グループにおいて、発明・デザイン・商標の権利化業務、他社の知的財産権の侵害を防ぐべく徹底した事前調査の遂行、当社が保有する知的財産権保護のための日常的な他社製品のモニタリングに加え、他社と争いが生じた場合には、マネジメントとの連携のもと、迅速かつ最適な解決を目指し対応しています。



## 2) 知的財産権の保護及び法令遵守

「コクヨグループ行動基準」において、他社の知的財産権を尊重することを規定するとともに、知的財産グループにおいて、他社の権利の侵害を予防・回避すべく、他社の権利の調査・分析・精査を行う体制を確立・運営しています。また、開発部門に対し、随時研修や日常の業務を通じて、他社の知的財産権尊重及び法令遵守意識向上のための啓発活動を行っています。

## 3) 知的財産権の創造・活用の推進

知的財産グループと開発部門は、開発の初期段階から密接な連携を図ることにより、市場での当社製品の優位性の向上を目指すべく、競合他社製品との差別化に貢献する発明の創造と発掘に邁進しています。また、特許法第33条の趣旨に応ずるべく、職務発明報奨制度を社内規定として定め、顧客満足度の向上と当社の発展に資する発明を奨励しています。

### 内部通報制度「コクヨグループホットライン」の運用

コンプライアンスや企業倫理に関する問題で、職場内では相談・解決し難いものについて相談できる窓口として「コクヨグループホットライン」を設置しています。日本国内だけでなく、海外拠点におけるコクヨグループ社員も利用できるグローバル対応の制度として、運用を行っています。

### グループ全体でのリスクマネジメント推進を開始

2015年の経営統合を機に、コクヨグループ全体でのリスクマネジメントを推進する組織を立ち上げ、取り組みを開始しました。この取り組みで目指したことは、グループ視点によるリスクマネジメントサイクルを確立させること。まず、「コクヨグループ全体にどのようなリスクが存在するのか改めて認識する」ことから始まり、優先順位付けや対応の方針を全社最適で検討し、対応の推進を行いました。

今後は、これらの取り組みの中で特に重要と位置づけられたテーマや、組織全体に関わるテーマを明確にし、グループ全体での取り組みをさらに進め、リスクマネジメントの有効性と効率性を高めることを目指します。

### BCP※（事業継続計画）の策定と実施

BCPとは、災害や事故などの不測の事態が発生した場合でも、事業をできる限り継続させる、あるいは中断しても可能な限り短時間で復旧・再開を目指して、災害や事故などの発生後でも事業を継続させていくための行動プランを指します。コクヨグループでは、災害や感染症などの危機発生時でも、より安定的な商品供給を実現するため、グループ一体となって危機管理の徹底に取り組み、事業継続マネジメントの推進を継続していきます。

※BCP: Business continuity planning=事業継続計画

### ファニチャー事業本部によるBCP有事対応訓練

2017年12月6日、ファニチャー事業本部の「BCP有事対応訓練」を実施しました。今回の訓練は「東南海地震」が発災し、西日本エリアが事業継続に大きな影響がある状況を想定し、品川SSTオフィスにファニチャー事業継続対策本部を立ち上げた場合の初動対応の実効性などを検証するものです。東京地区、西日本地区合わせて総勢73人が参加する大規模な訓練となりました。

東日本大震災では十分機能しなかった体制や行動手順を一から見直しており、今回の訓練はその内容の確認が目的です。訓練で明らかになった課題については解決策を検討し、体制・行動手順書を見直し、より実効性の高いものに改善していきます。



「機能単位」で分けられたチームごとに、提示された被災状況から定めた行動手順が実行できるかを議論

## 災害発生時の初動対応

大規模災害が発生した際に、社員が慌てずに冷静な判断を行うことができるよう、災害発生時にとるべき行動の手順をまとめた「サバイバルカード」を全社員に配布し、常に持ち歩くよう喚起しています。

サバイバルカードには、災害時の3か条(1.身の安全は自分で守る、2.冷静な判断で行動する、3.安否状況の報告をする)の他、携帯各社の災害用伝言板の閲覧方法や、万が一の場合に本人確認ができる情報欄などを記載しています。

また、サバイバルカードを詳細化した「従業員向け非常時行動マニュアル」を、社員がいつでも閲覧できるイントラネット上に掲示し、日頃から災害への対策を心がけるよう推進しています。



「サバイバルカード(左)」と「従業員向け非常時行動マニュアル(右)」

## 安否確認システムの構築と訓練の実施

災害発生時に、グループ社員の安否確認を迅速に行う仕組みとして、各人が所有する携帯電話・パソコン・固定電話などの連絡手段を使った安否確認システムを2006年より運用しています。2011年3月に発生した東日本大震災の直後は、電話やメールが一時的に使用できない状況でしたが、大勢の社員の安否確認を同時に行うには、現在このシステムに代わるものは考えられず、登録不備による未配信が無いよう周知徹底し、継続的に訓練を実施しています。

## 事業所防災訓練の実施

いざというときに社員が自ら安全行動が取れるように、日常的な地震対策とともに、平日に大規模地震が発生した場合を想定した訓練を定期的の実施しています。

大阪本社と品川オフィスにおいて、緊急地震速報後に、机の下に隠れるなど安全確保行動の確認をした他、地震発生後にオフィス内で火災が発生したと仮定し、初期消火訓練から消防署への通報・防災センターへの連絡、初期消火断念による全館避難までの訓練も併せて実施しています。

今後も、拠点ごとの危機対応能力の向上に努めていきます。



大阪本社での防災訓練の様子

✦コクヨCSR憲章	✦会社概要	✦コクヨの3つの事業領域	✦コクヨグループのあゆみ	✦コクヨのCSR	✦お客様
✦地域社会	✦環境保全	✦企業活動	✦人間尊重	✦社外からの評価	

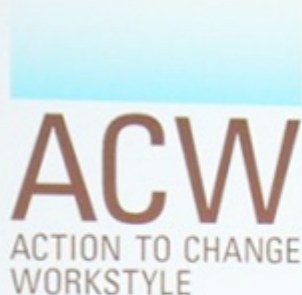
## ■ 企業活動

# ビジネスパートナーとともに

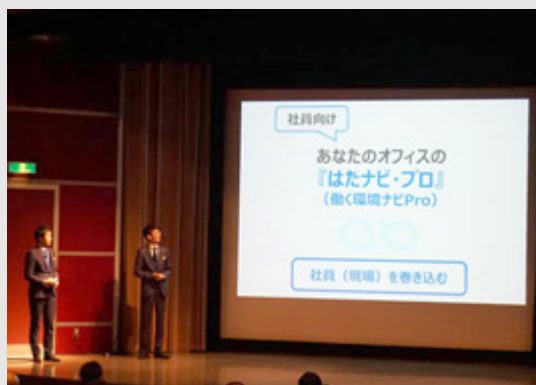
コクヨグループは、取引先とともに新しい価値を生み出し、お客様の満足を追求しています。また、取引先の皆様と信頼関係を構築し相互発展を目指すために、調達基本方針を策定しました。

### 活動ハイライト

真の「働き方改革」を目指し、  
販売店様とともに「働き方改革提案委員会」をスタート



コクヨは、多くの企業で模索されている「働き方改革」の潮流をビジネスチャンスと捉え、コクヨジュリーメンバーズ(KJM)※の販売店様とともに、「働き方改革」を実現するための提案活動を行う「働き方改革提案委員会」、通称「ACW」(Action to Change Workstyle)の取り組みをスタートしました。販売店様とお客様の関係性を強化し、結果としてコクヨと販売店様双方の持続的成長を図ることが最大の目的です。2017年4月から5月にかけて「ACWキックオフ」を5拠点で開催、その後、ACW活動の主旨に賛同いただいた販売店様の営業担当の方々に向け、より具体的な活動内容の説明会(フォーラム)を全国29拠点にて開催しました。またACWでは、お客様の課題やニーズを効率的に引き出すツールや、提案のスキルアップを図るワークショップ型研修など、販売店様の営業活動をサポートするさまざまな仕掛けも用意しています。



お客様の働く環境の課題を見える化ツール「はたナビ(はたら環境ナビゲーション)」

世間では「働き方改革」への重要性と取り組みが声高に叫ばれていますが、ITツールや、長時間労働を抑制する諸制度の導入が進む一方で、現場では「取り組んでも効果が出ない」「むしろ悪化している」といった声が多く上がっています。ACWは、働く人の意識や行動に直接的な影響をもたらす身近な「働く環境」である「場」(働く空間)、「ツール」(働くための文具・家具)、「運用」(5Sなどのルール)から変革することで、会社にとっての「効率性」と個人にとっての「快適性」が実現され、個人とチームの「創造性」が発揮される真の「働きやすい環境」の実現を目指して提案活動を進めていきます。

※コクヨ商品を一定基準額以上販売いただいている販売店様を、その年の売上高に応じてランク付けし報奨する制度

### サプライヤーとのさらなる信頼関係構築のために

企業活動がグローバル化する中、社会的責任の範囲は自社及び子会社の管理だけでは不十分となってきています。2013年に主要協力工場32社に調達方針に関する説明会・セルフチェックアンケートを実施し、その結果をフィードバックしました。2014年には約400社の調達先に「調達基本方針」及び「ガイドライン」を送付しました。こうした活動を通じてさらなる信頼関係の構築に努めます。

#### コクヨグループ調達基本方針

コクヨグループは、企業理念「商品を通じて世の中の役に立つ」をサプライヤーの皆様と共有し、相互理解と信頼関係構築に努め、共に社会的責任を果たし、社会の発展に貢献し続けます。

■ 品質・安全の追求

お客様に選ばれ続けるため、国・地域の特性に応じた最適な品質・安全性を追求します。

■ 相互発展

国・地域の関係法規及び社会規範を遵守し、公正で透明な取引を行い、誠実な信頼関係構築と相互発展に努めます。

■ 人権尊重

国・地域の文化・習慣を理解し、すべての人の人権が尊重される社会を目指します。

■ 環境保全と地域社会との共生

地球規模で環境保全に取り組み、地域社会への積極的な参画を通じて、良き企業市民として社会との共生に努めます。

#### コクヨグループ調達ガイドライン

コクヨグループはサプライチェーン全体における社会的責任を果たし、事業を通じて社会の発展に貢献するため「コクヨグループ調達基本方針」に基づき、サプライヤーの皆様とともに達成したい事柄を「コクヨグループ調達ガイドライン」として定めています。



## 1. 品質・安全の追求

お客様に選ばれ続けるため、国・地域の特性に応じた最適な品質・安全性を追求します。

### 1-1 お客様の満足

お客様のニーズを的確に把握し、安全かつ優れた品質の製品・サービスを開発・提供することでお客様の満足におこたえします。

### 1-2 お客様対応

お客様からの要望・不満には、お客様の立場に立って迅速かつ誠実に対応し、さらに品質改善とクレームの防止につなげます。

### 1-3 製品供給

適正な在庫の保有および物流体制を通じて、納期を遵守し確実な製品供給を行います。

### 1-4 災害等のリスク管理

平時よりリスク管理体制を構築し、お客様に対して安定した製品供給を行います。

### 1-5 適正な価格

市場競争力のある価格での製品供給と継続的な低減努力に努めます。

## 2. 相互発展

国・地域の関係法規および社会規範を遵守し、公正な取引を行い、誠実な信頼関係の構築・相互発展に努めます。

### 2-1 コンプライアンスの推進

国・地域の法令、社会規範および企業倫理の遵守を徹底し、社員への啓発活動に努めます。

### 2-2 公正で透明な取引

公正で透明かつ自由な競争を尊重した取引を行います。また、発注者の立場を利用し取引先に金品や特別な扱いを求めようとする行為は行いません。

### 2-3 反社会的勢力との取引等の禁止

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的な活動や勢力に対して、毅然とした態度で臨み、不当な要求には一切応じません。また、取引等の関わりを持ちません。

### 2-4 知的財産権の保護

知的財産権を保護し、不正な使用は行いません。

### 2-5 利益相反行為の禁止

役員・社員の立場を利用して、会社の正当な利益に反して個人の利益を図る行為を行いません。

### 2-6 機密情報管理

営業・技術・経営情報などの企業秘密情報、個人情報などは適切に管理し、情報の紛失・漏えいを防止します。

### 2-7 情報開示及び提供

事業活動内容、製品の品質および安全性などに関する情報を適切に開示し、ステークホルダーからの要求に応じて製品情報や製品に含有する有害化学物質情報等の環境情報の把握・提供に努めます。

### 2-8 インサイダー取引の禁止

未公表の重要な内部情報に基づき、自社や関係先の株式売買などを行うインサイダー取引およびそれらを誘発する行為を行いません。

## 3. 人権尊重

国・地域の文化・習慣を理解し、すべての人の人権が尊重される社会を目指します。

### 3-1 児童労働・強制労働の禁止

不当な差別や児童労働・強制労働は認めません。

また、それらを行っている企業・団体等との取引は行いません。

### 3-2 セクシャルハラスメント、パワーハラスメントの禁止

セクシャルハラスメントやパワーハラスメント、いじめなどの人権侵害は認めません。

### 3-3 労働安全衛生

社員の安全と健康に配慮し、快適な職場づくりに努めます。

### 3-4 人材育成

グローバルな舞台でも活躍できる人材の育成に積極的に取り組みます。

## 4. 環境保全と地域社会との共生

地球規模で環境保全に取り組み、地域社会への積極的な参画を通じて、良き企業市民として社会との共生に努めます。

### 4-1 環境保全活動の推進

環境関連法令を遵守するとともに企業活動のすべてにおいて環境保全に取り組みます。また、自然環境や生物多様性に配慮した活動を推進します。

### 4-2 環境負荷の把握・低減、グリーン調達

事業活動における環境負荷を把握し、設備の改善や資材の見直しなどにより、その低減に努めます。また、グリーン調達に努めます。

### 4-3 社会貢献

社会・教育・文化支援活動や地域社会との交流、美化活動、ボランティア活動などに積極的に参画します。

## ロジテム配送センターと本社部門を「“繋ぐ”プロジェクト」

2016年秋、ココヨロジテムの本社部門をココヨ本社オフィス2Fへ移転する際、本社と物流現場を繋ぐことを意識し、オフィス中央に実際に社員が商品を見る・触れることができる場所を設置し、このエリアを「TOUCH&LOOK HUB」と命名しました。ここでは、本社勤務社員の商品知識の向上と、現場（配送センター）の業務を身近に感じてもらうことを目的に、「“繋ぐ”プロジェクト」※による研修会が定期的に行われています。

今後も「“繋ぐ”プロジェクト」は、本社と現場を繋ぐ仕掛けづくりを目的に、「TOUCH&LOOK HUB」にて継続的にさまざまな研修を開催していきます。

※「“繋ぐ”プロジェクト」は、ココヨロジテム女性社員の活動である「らしく×らしく」において職場環境改善に取り組んだメンバーと、未来のココヨ家具の物流を考える活動「未来ワークショップ」のメンバーによって構成されています。



2017年2月15日と17日の2日間に行われた「第4回研修会」では、参加者が2人1組のペアとなり組立作業を体験

## ベトナム ハノイでパートナー企業を招いた新商品発表会を開催

ココヨベトナムトレーディングは、2017年3月2日、ハノイにおいて、北部の卸、有力小売店から約130人をご招待し、2017年の新商品発表会を行いました。新商品の説明とともに、目玉施策であるCampus 1 Gia Dinh?キャンペーン(1 Gia Dinhは、ベトナム語でone family?という意味で、メーカーも卸も小売店も、1つの家族のようにともに成長していこうという想いを込めている)や日本へのインセンティブ旅行の紹介、また成績優秀な卸への表彰盾贈呈を行いました。

ベトナムでも流通パートナーとの強固な絆を繋ぎ、お客様に愛される企業としてともに成長していくことを目指します。



2016年の成績優秀な卸に感謝の気持ちを込めた表彰盾を贈呈

## ココヨマレーシア創立20周年を記念するイベントを開催

2017年4月21日～22日、ココヨマレーシアの創立20周年の記念式典を始めとしたイベントが開催されました。21日の記念式典では記念撮影と植樹が行われ、今後の海外事業の発展を祈念しました。また、当日は海外事業本部アセアン戦略会議も開催され、2016年に過去最高の利益を出した営業系現地法人(マレーシア・タイ・シンガポール・インドネシア)からも代表者が揃い、さらなる成長を遂げるための活発な議論が行われました。

翌22日に行われたアニュアルディナー※では、日本からのゲストを含め、出席者全員がマレーシアの民族衣装「BATIC」を着用しパーティーに参加。大いに盛り上がり、交流を深めました。

※マレーシアの会社が年1回、会社主催で社員を招いて行うパーティー。日本でいえば忘年会に相当します。



20周年を記念した人文字による記念撮影

## ファニチャー事業「協力工場会」を開催

ファニチャー事業では主要な協力工場の経営層を招いて年2回「協力工場会」を開催しています。

2017年は5月と12月に開催、5月には需要期の振り返りと今後の販売動向予測について、12月には当期の振り返りと来需要期に向けた施策、市場動向に関する説明を行いました。

さらに、特に秀逸な取り組みを実施いただいた協力工場を表彰して感謝の意をお伝えするとともに、お互いが切磋琢磨して共存共栄できるよう取り組み内容を発表いただき、ファニチャー事業全体のレベルアップにご協力いただいています。

また11月には協力工場のデザイン、開発系の中堅社員を対象とした勉強会を開催し、弊社のモノづくりにおける市場分析の考え方やデザインコンセプトを共有しました。



グループ執行役員 ファニチャー事業本部長の坂上による説明



優秀工場の表彰

## “感動納品”を目指して競う納品コンテスト「共配甲子園」

物流事業を行うコクヨロジテムでは、ファニチャー製品の納品におけるお客様満足度のさらなる向上を目的に、共配ドライバーと作業員による納品コンテスト「共配甲子園」を2010年より実施しています。日頃培った組立技術やホスピタリティを存分に発揮する場として社内外での認知度は年々高まっており、その水準も回を重ねるごとに高くなっています。第8回となる今年の大会テーマは「基本動作の徹底」で、2017年9月9日には全国決勝戦を開催し、全国364人の頂点が決定しました。大会を通じて納品の基本に立ち返り、増加傾向にある建物破損事故の防止にも繋がる内容となりました。



今年の大会競技は、模擬納品と組立に車両誘導を新たに設けて審査を実施





## ステーションナリー事業 協力工場の監査を実施

ステーションナリー事業では、従来より商品のカタログなどにおける環境表示の信頼性確保を目的として協力工場の監査を実施しています。2017年は90社の工場監査を実施しました。

グリーン購入法などにおいて定められている環境配慮に関する基準への適合性について、協力工場を訪問し、自社で定めた監査手続きに従って古紙や再生樹脂の配合率が基準に適合しているか、指定した規格の材料が製造工程に投入されているか、材料の合法性に問題がないかを確認しています。また、監査に際しては協力工場と環境配慮基準への適合を適切に担保するための課題について一緒に考え、製造管理面における信頼性を向上させるための改善事例について情報交換をすることで、今後も環境表示の信頼性の確保に努めていきます。

お客様への提供価値を高めるため、メーカー系・流通系ともに調達先の皆様と定期的に戦略や方針などを共有し、長期的な信頼関係に基づいた相互発展を目指します。



✦コクヨCSR憲章	✦会社概要	✦コクヨの3つの事業領域	✦コクヨグループのあゆみ	✦コクヨのCSR	✦お客様
✦地域社会	✦環境保全	✦企業活動	✦人間尊重	✦社外からの評価	

## ■ 企業活動

# 株主とともに

企業価値を高めることを株主・投資家の皆様への責務と認識し、透明かつ健全な企業経営を堅持するとともに、正確かつ迅速な情報開示に努めています。

## 考え方

### 配当に関する方針と実績

中長期にわたる企業価値の最大化に向けて、持続的な事業の成長に努め、株主様への利益配当額の向上に取り組んでおります。2017年の年間配当金は、1株当たり29円00銭(中間13円50銭、期末15円50銭)を実施しました。内部留保資金については、今後の成長戦略への投資に活用していきます。

### 経営活動の透明性向上

#### 1) IR活動

株主の皆様をはじめとするすべての投資家の皆様に、当社グループの事業内容・企業姿勢・将来像などを平等・正確にお伝えするとともに、双方向のコミュニケーションを図っています。2017年は以下のIR活動を実施しました。

##### ■機関投資家向け：

決算説明会を年2回開催し、社長執行役員が当社グループの決算情報及び戦略について説明を行いました。また、個別訪問やスモールミーティング・外国人投資家向けカンファレンスなどを通じて、当社グループの状況を説明しました。

##### ■個人投資家向け：

会社説明とともに、商品開発担当者による商品開発ストーリーを紹介し、当社に対する理解度の向上や親近感の醸成を図りました。

今後も積極的にIR活動に取り組み、企業価値を高めていきます。

#### 2) 情報公開

東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示などに関する規則」など(以下「適時開示規則」)に従い、情報開示を行っています。また、適時開示規則に該当しない情報についても、投資家の皆様のご理解の一助となると判断した情報は、適切な方法によりできる限り積極的かつ公平に開示することを基本方針とし、当社のホームページにおいて速やかな開示に努めています。

※ 関連情報：[「IRニュース」](#)

## 株主優待制度

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、コクヨグループに対するご理解を一層深めていただくため、当社株式を500株以上保有の株主様に対して株主優待制度を設けており、年1回コクヨグループ商品をお送りしています。



2017年12月末株主様向け優待商品

## 個人投資家向けIR「会社説明会、テープのり<ドットライナー>開発ストーリー」開催

2017年5月12日、「ファン株主」の獲得を目的に、「会社説明会、テープのり<ドットライナー>開発ストーリー」と題した個人投資家向けのIRイベントを開催しました。

一般的に個人投資家は、株式売買による差益金や配当金を得ることを株式投資の目的にしているため、株式の保有期間は不安定とされています。しかしココヨでは、個人投資家の皆様にココヨのファンになっていただくことにより、株式のより長期の保有が期待できるとともに、商品やサービスの優良なお客様になっていただくことにも繋がると考えています。そこで、会社概要や今後の事業戦略といっ

た、通常の投資家向け説明会で行う情報提供に加えて、よりココヨを理解し、親しみを持っていただけるように、商品に関するストーリーを伝えるイベントを開催しました。

第1部の会社説明会では、ココヨグループの沿革・各事業の概要・財務状況・今後の戦略・2017年12月期の目標などについて説明しました。そして第2部では、ステーションリー事業の担当者から、2005年に発売し、2017年11月に累計販売個数1億個を達成した「テープのり<ドットライナー>」について、約3年を要した開発過程や商品ラインアップを紹介しました。

出席いただいた個人投資家の皆様からは、事業や財務に関するより詳細な情報提供への要望の他、ココヨの商品づくりについても多くのご意見・ご感想をいただきました。



✦コクヨCSR憲章	✦会社概要	✦コクヨの3つの事業領域	✦コクヨグループのあゆみ	✦コクヨのCSR	✦お客様
✦地域社会	✦環境保全	✦企業活動	✦人間尊重	✦社外からの評価	

## ■ 企業活動

### 新たな価値創造

近年、社会生活における課題がますます多様化・複雑化する中、お客様の「はたらく」「まなぶ」「くらす」がより創造性豊かで実りあるものとなるよう、コクヨならではの価値創造に取り組んでいます。

#### 活動ハイライト “座る”の概念を変える革新的なイス「ing(イング)」



2017年11月、大々的なデビューを果たした「ing(イング)」は、これまでにないまったく新しいコンセプトでオフィスワーカーの心と体の健康をサポートする「『座る』を解放するイス」です。昨今、“日本人がイスに座る時間は世界で最も長い”と言われ、“長時間の着座で健康リスクが高まる”という、深刻な社会問題となってきました。これは、日本のワークスタイルに長年向き合ってきたコクヨだからこそ解決すべき課題と考えました。

出発点となったのは、2014年の「革新センター」の設立です。革新センターが目指すのは、他社との価格競争に巻き込まれない、かつ大きく差別化しながら将来性のある“革新的”な新製品の開発であり、マーケットイン(顧客の期待に応える)ではなくプロダクトアウト(顧客の期待を超える、よい意味で裏切る)のモノづくりです。「ing(イング)」は、この考え方を基盤として、前例のない多くのトライ&エラーを繰り返しながら約4年間をかけて開発。問題の本質は座ることそのものではなく“ずっと同じ姿勢をとり続ける”ことであるという観点から、体の動きを引き出し体と脳を活性化させる「座っていても健康でいられる」革新的なイスを生み出したのです。

コクヨはこれまで、技術やデザインなどさまざまな面でイノベーションを起こしてきました。「ing(イング)」は、コクヨのポテンシャルや受け継がれてきたDNAを改めて社内外に示すものであると同時に、働き方改革の新たなステージに繋がる可能性を秘めたプロダクトです。「ing(イング)」を活用することで“働く”ことにイノベーションを起こし、日本の労働環境をより快適なものにしていきます。



座面が前後左右360度にゆらゆらと揺れることで、座りながらにして動き続けることができる

※ 詳細についてはこちら→[ing\(イング\)ウェブサイト](#)

## 新たな顧客接点の場となる「THINK OF THINGS (シンク オブ シングス)」をオープン

2017年5月26日、東京・千駄ヶ谷にコクヨの新しい施設がオープンしました。1階には生活と仕事の双方に刺激や発見をもたらす道具という観点で商品を揃えた、直営のライフスタイルショップ&カフェ「THINK OF THINGS(シンク オブ シングス)」、2階にスタジオ、3階にオフィスを備えており、新しい価値を求め人が集まる刺激的な環境で、商品、サービス、イベントなどを通じてさまざまな実験を仕掛けていきます。エンドユーザーと直接交流をもつことで、お客様の嗜好や動向を肌感覚で実感し、未来に向けてコクヨが発揮できる価値について考え、創造する場として活用していく考えです。



ショップには「ワークとライフの境界を超える」をテーマに、生活と仕事の双方に刺激や発見をもたらす道具を展開

## 独自目線で未来のあるべき働き方を提案するワークスタイル研究所

働き方の変化をいち早く察知し、独自の観点からオフィスに必要な新しい働き方を提唱し続けているのが「ワークスタイル研究所」です。2017年7月にはオフィシャルサイトをオープンし情報発信を強化、著名な経営者や政治家がこぞって実践しているという「ウォーキング・ミーティング」についてのレポート、当社独自の働く価値観診断ツール「#workTag(ワークタグ)」など、働き方に関する独自のコンテンツを紹介しています。

今後も、「働く人がどれだけ楽しめるか、豊かになるか」という観点から情報収集・研究を行い、市場に変化をもたらす「未発見の働き方」の具現化を目指していきます。

※ 詳細についてはこちら→[ワークスタイル研究所 オフィシャルサイト](#)



ワークスタイル研究所が取り組む活動や成果などをお客様に紹介するオフィシャルサイト

## ファイルのNew Office Standardを生み出す「NEOS」シリーズ

1956年のフラットファイル誕生から60年。時代のニーズに合わせてコクヨのファイルはさまざまな変化を遂げてきました。そのコクヨファイルの新定番シリーズとして、2017年から販売を開始したのが「NEOS」シリーズです。大きな特長は、これまでのファイルにはなかったファニチャー製品とコーディネートできるカラー展開です。また、デザイン性の高さに加え、シリーズトータルで考えられた機能面の進化が、働きやすく美しいオフィス空間を演出するツールとして最適な商品となっています。今後も文具と家具をセットでアプローチできる「コクヨならではの強み」を生かして、コクヨの独自性を発揮できる商品開発に取り組んでいきます。



さまざまなコンセプトのオフィス空間を演出できる、洗練されたカラーラインアップ

## 「ワークスタイル変革EXPO」で音環境改善による働き方変革を訴求

オフィス移転サービスを行うコクヨエンジニアリング&テクノロジーは、「第4回ワークスタイル変革EXPO」に出展しました。「サウンドソリューション」のプロモーション及び、より働き方変革を真剣に考えている案件確度の高いユーザーとの接点獲得が目的です。

サウンドソリューションは音環境を改善して働きやすさを向上する技術で、サウンドマスキングシステムはその代表的な商品であり、スピーチプライバシー対策に効果的です。会場では、VR(バーチャルリアリティ)を用いてサウンドマスキングを体感いただき、日本ではまだ認知度が低いサウンドソリューションをPRするよい機会となりました。



展示の目玉となった、VRで360度映像を音とともに体感するサウンドマスキング



## 「使い終わっても便利は続く」を合言葉に取り組む「ハコ活。」

オフィス用品の通販事業を展開するカウネットが、全社を挙げて取り組んでいるのが「ハコ活。」プロジェクトです。使い終わったコピー用紙の外箱をお客様が便利に再利用できるようにデザインをリニューアルしました。お客様の声で多かった収納用途と発送用途に配慮し、収納物の記載スペースを可能な限り広く設定、ふせんを複数枚貼れるサイズにしています。また、箱の天面に送り状を貼り付けられるスペースを設けました。

リニューアル後は、活用事例をまとめた小冊子やお客様に活用方法を投稿していただくキャンペーンなどで活用の幅広さを訴求、付加価値の高い内容で競合商品との差別化を図っています。

**BOXデザイン一新!** コピー用紙のパッケージが生まれ変わりました。

① 再利用しやすい  
フタ式/フラップ式

② 天面  
Top

③ 側面  
Side

国際的な森林認証PEFCを取得。

「PEFC認証」とは、各国で定められた国・地域別の森林認証制度の相互承認を行う、国際的な制度の一つです。違法伐採を抑制し、持続可能な森林管理の促進を目指すことを目的に1999年に設立され、独立した第三者認証機関が認証します。PEFC認証製品を使用することは持続可能な森林管理の促進を支援することができます。

「再利用のしやすさ」をコンセプトにした「ハコ活。」のデザイン

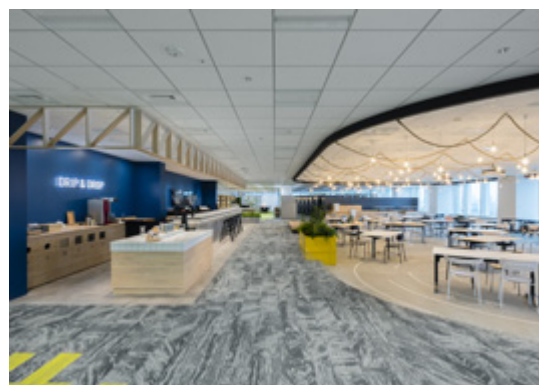
## 働き方改革を自ら実践：品川SSTオフィスでの業務を開始

ココヨは2017年10月、東京地区オフィスの移転及び新設を実施し、その一環として10月2日、東京品川SSTオフィスでの業務を開始しました。

その目的は、経営資源の再結集と全体最適化、高効率化への変化、そして新たなココヨらしい働き方をめざすこと。当社はかねてから日本のオフィスの働き方改革に寄与すべく、さまざまな商品開発や空間設計のご提案に努めてきました。この取り組みをさらに一歩進め、「人の価値を引き出す企業文化を醸成する」ことをめざして誕生したのが、東京品川SSTオフィスです。

新オフィスにおいては、ワンフロアへ集約をはかることで、部門間の物理的・心理的な壁を取り払い、スムーズな意思疎通と連携強化により生産性の向上を実現するオフィスづくりを進めています。例えば、一部の専用端末が必要な業務に従事しているスタッフ以外はすべてフリーアドレスを適用しています。毎日席を変え、見える世界を広げることにより、新たな気付きやアイデアへのつながり、スタッフ間のコミュニケーションの活性化といった効果が期待されています。もちろんオフィスを新しくしたからといって、課題が一気に解決するわけではありません。しかし、こうした働き方改革を私たち自身が考え、試し、実践していくその経験が、今後のお客さまへの実りあるご提案に活かせると考えています。

所在地：東京都港区港南1丁目2番70号 品川シーズンテラス18階



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 人間尊重

### 会社の成長と個人の成長を繋げる仕組み

社員のモチベーションや創造性を引き出すことを目指し、人事制度における目標設定と評価の仕組み・手法を変化させることに取り組んでいます。

#### 会社の成長と社員一人ひとりの成長を繋げる環境整備へ

コクヨグループでは国籍・人種・性別・年齢・宗教・学歴に関係なく活躍でき、そのパフォーマンスに対して処遇できるよう、仕組みづくりと環境整備を進めてきました。

こうした整備を進めるとともに、2015年10月にスタートした中期経営計画「価値創造にこだわる自己改革～Value Transformation 2018～」では、顧客本位にこだわった価値創造を実現する“運営モデルの改革”に取り組み、“人と組織の関係性”に変化を起こし、社員のモチベーションや創造性を引き出すことを目指しています。

#### 【人と組織の関係性に変化を起こす3つの取り組み】

- (1) 目標設定の仕組みの変更
- (2) 評価の仕組みの変更
- (3) 評価から処遇への反映をわかりやすくすること

この中期経営計画を受けて、目標設定の仕組みを、社員一人ひとりがこれまで以上に取り組むべき目標を理解できるような仕組みとなるよう、取り組んでいます。

これまでの、上司が目標を一方向的に伝えるコミットメント型コミュニケーションでは、各社員が目標を十分に理解できないまま、目標が設定されがちでした。この新たな仕組みでは、上司と部下が「なぜこの重点テーマに取り組むべきなのか」「それを受けて自分はどんな目標を設定したいのか」という対話を繰り返すコンセンサス型コミュニケーションに変えていきます。

また、経営・上位マネジメント層は、目標設定に関するワークショップを開催し、「今回実現できたこと」、「変化を起こせたこと」などを共有し、次期の目標設定に向けた課題の気づきを得ています。この新たな目標設定の仕組みがさらに定着するよう、今後も取り組みを推進していきます。

一方、評価の仕組みについては、相対評価から絶対評価へと変更し、評価から処遇への反映をよりわかりやすくしました。社員それぞれが目標設定時に「いつまでに・何を・どこまで達成すべきか」というように、具体的に達成すべき成果を定め、その成果の達成度にもとづき、評価と処遇が決定されるようになりました。



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 人間尊重

### 社員とのコミュニケーション

#### 活動ハイライト 国営中国の事業会社社員と家族が集まり、初の合同運動会を開催



コクヨグループでは、急速に成長を続けるアジア市場において積極的に事業展開を進めており、特に中国では多くのグループ会社が事業を行っています。こうした中国におけるグループ会社の社内交流と社員モチベーション向上を目的に、2017年10月28日、国営中国の各事業会社が集まり、初の合同運動会となる「2017年国営中国ハッピーカーニバル」を開催しました。当日は、国営商業(上海)有限公司、索創物流(上海)有限公司、国誉家具(中国)有限公司、国誉裝飾技術(上海)有限公司、国誉(上海)企業管理有限公司の社員及びその家族たち約400人が、早朝から上海黄浦体育館会場に集合。8つのチームに分かれて、さまざまなゲームを楽しみました。

開幕式では本社からのビデオレターによるメッセージがあり、その後日本からの出向社員が全員を率いて準備運動を行い試合を開始。チーム戦によるリレーや綱引き、親子で行うゲームなどに加えて、コクヨの各種文房具の運送リレーやオフィスチェアによるレース、コクヨ関連知識の理解度をテストする〇×ゲームなど、コクヨの家具製品と文房具製品にちなんだオリジナルのゲームも交え、盛りだくさんの内容となりました。

初めての合同運動会は、大勢の社員とその家族が参加し、参加者全員がともに遊び、ともに笑い、ともに感動する濃厚な一日となりました。各チームメンバーがお互いを応援したり、助け合ったりと、仕事だけでは得られないコミュニケーションも図ることができ、国営中国各事業会社の結びつきを強める大変よい機会となりました。



着ぐるみを着たスタッフが子どもたちにおもちゃを配布。子ども遊びエリアも設け、家族が楽しめる場所に



コクヨ各種文房具の運送リレー。ピッキングから梱包・輸送・包装・配送まで一人ひとり完成させる

### 「おもしろい」会社を目指すコクヨ工業滋賀の「運動会 & ごくろうさん会」

コクヨ工業滋賀は、同社が目指す「おもしろい会社」の取り組みの一環として、2017年4月28日、「運動会・ごくろうさん会」を開催しました。目的は、全員で楽しむことはもちろん、生産活動以外も、社員がより一体感を持って何事もおもしろくできる仲間になっていくことです。企画・準備は、昨年度セカンドリーダー研修を受講した若手～中堅社員が中心となりました。

当日はコクヨ工業滋賀で働く社員に加え、コクヨグループなどからの参加者を含め約150人が集合。オリジナル競技など全6種で競いました。また、夜のごくろうさん会は、運動会に参加できなかったアルバイト社員やシルバー人材社員も加わり、全員参加の宴となりました。



「仲間と仕事をおもしろく！」を目指してイベントを開催

### コクヨステーションナリー国内生産工場で2つの交流会を開催

2017年5月26日、ステーションナリー(ST)関係のグループ会社であるコクヨ工業滋賀、コクヨMVP、石見紙工業が集まり、「課題共有ミーティング」を実施しました。議論する内容は、事前にテレビ会議で協議しテーマを決定。今回の目的は、ST国内工場の課題について情報共有や意見交換をすることで、メンバーの気付きを促し、それぞれの活動に生かすことです。

また翌5月27日には、コクヨ工業滋賀とコクヨMVP、ST事業部のメンバーを中心に構成されたコクヨ連合による3チームでの親善軟式野球大会も開催しました。今後もグループでの意見交換・交流を活発に進め、ともにステーションナリー生産工場のスタンダードづくりを進めます。



3年ぶりに集まった総勢30人で、安全、予防保全、改善・教育、生産管理業務の4つのテーマについて意見交換

### “知る・交わる・結束する”ファニチャー事業結束強化会

ファニチャー事業本部では、バリューチェーンをより強固に一体化するべく、2012年から部門を越えた交流と結束を目的に事業に関わるメンバーが一堂に集結する結束強化会を開催しています。今年も7月25日～9月12日にかけて、東京・大阪・三重・芝山の4エリアで開催されました。

メインイベントとなるファニチャー事業表彰制度「いいね！アワード」では、模範となる社員やインパクトのある貢献や成果をあげたチームを選考し、個人部門・業務部門の受賞者の表彰式を行いました。このように現場で働く社員一人ひとりにスポットをあてる機会を設けることで、事業本部全体の交流や結束が強化されていくと考えています。



「いいね！アワード2017」業務部門「Good Job!賞」の大賞を受賞した「首都圏需要期搬入キャパ向上チーム」



## ■ 平成29年度コクヨ物故者慰霊祭

コクヨでは、1974年にコクヨグループが70周年の節目を迎えた際、故黒田障之助名誉会長の発案で高野山に物故者慰霊塔を建立して以来、コクヨグループの発展に寄与した先人に感謝の念を込めて、この1年間に亡くなられた故人の御霊を新たに合祀して慰霊する慰霊祭を毎年行っています。

2017年8月21日に行われた平成29年度コクヨ物故者慰霊祭では、菩提寺天徳院本堂で行われた法要に続き、高野山大霊園に場所を移してコクヨ物故者慰霊塔墓前での追善法要と故人のお名前を書いた経木を慰霊塔に安置する「慰霊奉安の儀」が執り行われました。なお2017年に合祀された方は14人で、1974年からの合祀者数は計600人になりました。



慰霊祭当日は、コクヨ黒田康裕副会長をはじめご遺族の方々が参列

## ■ 「らしく×らしく」事務局が女性社員研修をはじめとしたイベントを企画

コクヨロジテムのダイバーシティ推進と女性活躍を目指す「らしく×らしく」事務局では、2017年もさまざまな研修・イベントを企画しました。9月12日は、4回目となる女性社員を対象にした集合型研修会「らしく×らしく」ミーティングを名古屋で開催。10月11日には、事務局主催の初めての企画となるエリアイベント「コクヨ工業滋賀見学ツアー」を開催しました。また8月～9月にかけては、事務局が提案し、荷卸しや積み込みを行うドライバーへおしぼりを配布する「参加型」の活動も行いました。これからも事務局では、ダイバーシティを推進する新しいイベントを、さまざまな視点から企画していきたいと思えます。



「らしく×らしく」ミーティングでは、ヨガインストラクターの大滝さやか先生が講演

## ■ 定年退職を迎える社員をねぎらう祝典「春秋会」

「春秋会」は、コクヨグループ各社に勤め、定年を迎える社員の多年にわたる労苦をねぎらい、節目を祝う祝典で、上期・下期で年2回行っています。平成29年は、上期32人、下期43人の方々を対象となりました。

式典では、社歌斉唱に続き、黒田会長から出席者一人ひとりに記念品の目録が贈呈されました。目録贈呈の際には、それぞれの入社年がコクヨにとってどういう年であったかを紹介するとともに、出席者本人が綴ったコクヨ人生の思い出や後進に伝えたいことなどを披露し、多年にわたる努力や貢献への感謝の意を伝えました。



創業者・黒田善太郎翁の肖像画の前で全員で記念撮影

## ■ 家族に感謝を伝えるファミリーデーを品川・大阪で開催

ステーションナリー事業本部では、日頃社員を支えてくれている家族に感謝を伝える機会として、ファミリーデーを実施しています。開催10年目となった今回は、大阪191人、品川198人の社員とご家族が来場しました。

イベント内容は、入社1～2年目・キャリア採用・部門推薦の社員がプロジェクトメンバーとなって企画しています。今年は広くコクヨのことを知ってもらう目的で、大阪は史料室を使った探検ツアー、品川はショールームを使った探検ツアーを実施し、コクヨの歴史や商品に触れていただきました。



コクヨ商品のクイズに答えながら、ショールームを楽しく探検

✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 人間尊重

### 働き方改革

#### 活動ハイライト メリハリのある働き方を目指し「テレワーク・デイ」に参加



働き方改革の国民運動として、2020年までの毎年7月24日が「テレワーク・デイ」と位置づけられました。コクヨもこの運動に参加し、7月24日（東京地区）と8月8日（東京以外の地区）にテレワークにチャレンジしました。

実施方法は、自律的な働き方にチャレンジしたい社員の応募形式とし、約160人が参加。各自が在宅勤務、テレワーク、時差出勤などを実践し、通勤時間の有効活用や、普段と違う空間で仕事をするなど、新しい働き方に挑戦しました。

実施後のアンケートでは、参加者の多くから「生産性高く仕事ができた」「有意義に過ごすことができた」「今後も活用したい」などの意見が寄せられましたが、一部、業務内容や在宅ネットワークの環境によっては生産性が上がりにくいケースも見受けられ、テレワーク推進における課題の再認識もできました。

これまでコクヨでは、育児・介護の両立支援を目的とした在宅勤務制度の導入や、ICT技術をトライアルで導入するなど在宅勤務の物理的な環境整備を行い、働き方改革を推進するための知見を深めてきました。今回のテレワーク・デイの取り組み結果も踏まえ、今後もさまざまな手法でメリハリのある新たな働き方に挑戦していきます。

#### 労使で取り組む働き方改革

メリハリのある働き方を実現するには、制度面だけでなく、意識改革も重要と考えています。労使で協力して次のような取り組みを推進しています。

- ・制度やルールの理解浸透（勤怠ルールの勉強会・在宅勤務制度の個別相談会の開催）
- ・「プラス3休暇」（3日間の年休取得）の推進
- ・風通しのよい職場風土づくり（従業員サーベイを活用した職場改善のアプローチ）

#### 「大学生による小学生預かり型1DAYイベント」に協力

コクヨは、manma※主催の「大学生による小学生預かり型1DAYイベント」に協力しました。これは、「社会全体で人を育てる」というmanmaのビジョンと、「春休み期間中に学童保育以外での体験をさせてあげたい」という共働き世帯の親のニーズから生まれた企画で、コクヨはmanmaのビジョンに賛同するとともに、自社社員の仕事と育児の両立支援の一環になると考え、サポートを行いました。当日は一般10人、コクヨ子女5人の計15人の小学生が参加、コクヨのオフィスでさまざまなプログラムを体験しました。今回の取り組みを通じて、社員の子女にとっては親の働く会社や仕事への理解を深めてもらう機会になりました。

※manmaは、結婚や子育てなども包括的に捉えたキャリア設計ができる機会を若者に提供することを目的に女子学生が立ち上げた団体。家族留学という取り組みや、大学生と小学生の交流イベントを定期的に開催しています。

✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

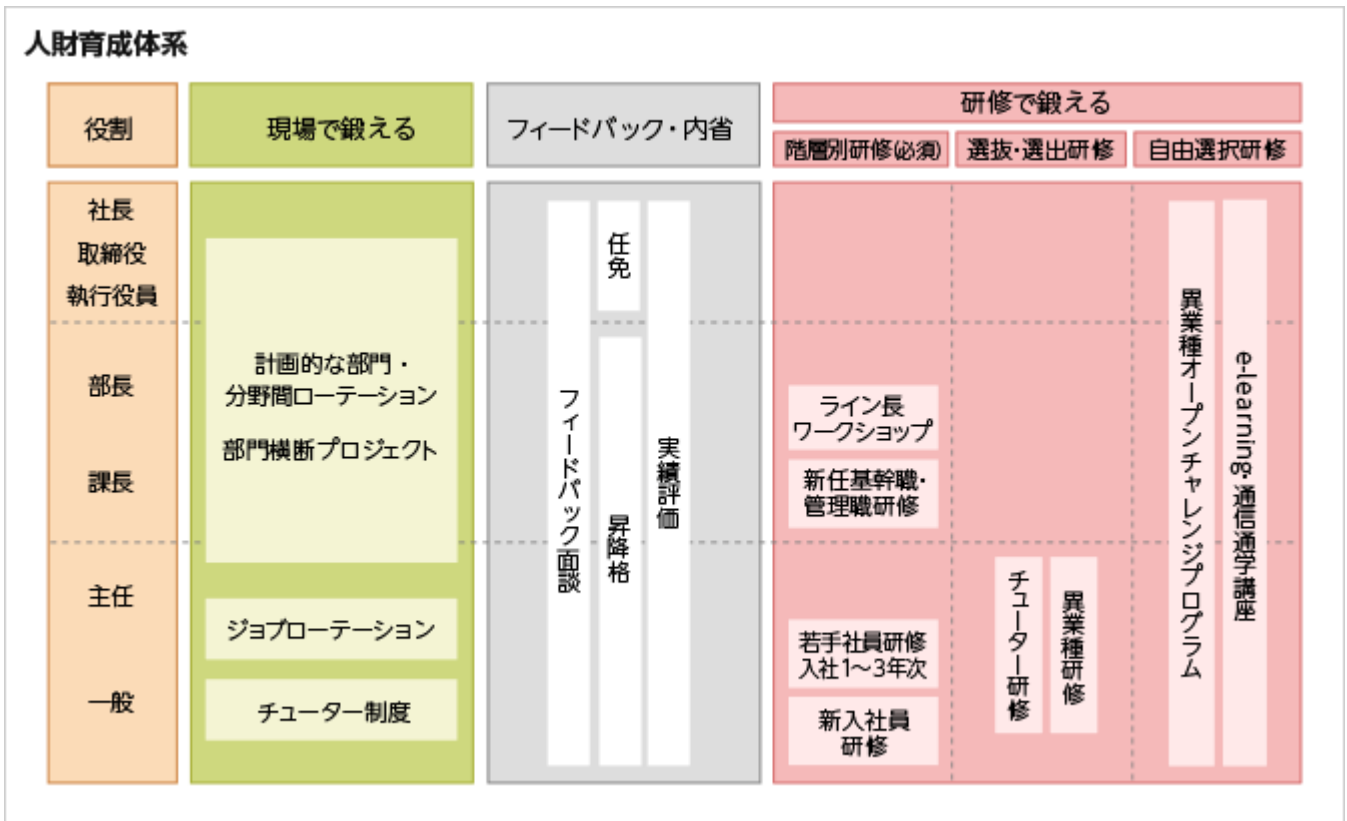
## ■ 人間尊重

### 人財育成

新入社員からトップマネジメントまで全員が常に学び、進化し続ける会社を目指して、一人ひとりのやる気や能力を最大限引き出し、発揮できる取り組みを実施しています。

#### 人財育成の方針

コクヨグループでは社員一人ひとりの能力を最大化するために、「現場」「フィードバック」「研修」の3つの柱を基軸とした計画的な個別育成を推進しています。研修では、ビジネスパーソンにおける各ターニングポイントでの階層別研修を中心に、選抜・選出研修・自由選択研修など、多様な能力開発の機会を提供し、挑戦する社員を強くサポートしています。





### グループ間交流も兼ねた商品研修会を開催

物流を担当するコクヨロジテムは、販売担当のコクヨマーケティングのフロント内務業務及び営業に携わる社員向けに、商品研修会を開催しています。2017年は、5月と7月に行いました。

品川オフィスで行われた7月の研修では、商品納品時の組立方法や商品の組立に必要な部材の入数や構成、納品時の梱包状態を、初めて実物を目にする人にもわかりやすいよう説明し、併せて発注処理の際の留意点をアドバイスしました。実際の納品を見る機会のない社員にとっては、商品への理解を深める貴重な研修の場であり、また、ふだん関わりのないグループのメンバーが交流を持ち、お互いの困り事や要望を共有し合える貴重な場となりました。



組立の実演と商品や作業手順の説明を実施

### 会社を越えた交流が相乗効果をもたらす「3社合同女性研修会」

ファニチャー事業本部(エンジニアリング事業部・スペースソリューション事業部)・コクヨロジテム・コクヨエンジニアリング&テクノロジーは、2017年7月14日、「3社合同女性研修会」を開催しました。この研修の目的は、自分自身の「価値観」や「強み」を再認識し、また自らが働く意義について考えることで、モチベーションの向上を図るとともに、自分らしい将来のキャリアを考えてもらうことです。

さらに会社を越えて、多様な職種のパックサポートを担う女性が一堂に集うことで、お互いに刺激を受けるとともに、同じ悩みや共通の課題を一緒に考えることで相乗効果が生まれ、成長に結びつけるという目的も達成できました。



第2回目となる今回は中堅・ベテラン女性社員15人を対象に開催

## ■ コクヨロジテム、初めての配送課社員向け研修を開催

コクヨロジテムは、全国の配送センターで勤務する配送課社員を対象とした初めての研修を開催しました。この研修は、“コクヨの現場のプロ”として一人ひとりがお客様起点で行動し、配送課の価値をさらに高めていくための意識改革を目的としています。第1回となった今回は、コクヨグループからも多数の参加があり、総勢50人弱が集まりました。研修では、外部講師としておもてなし創造カンパニー代表の矢部輝夫氏※をお招きしたほか、グループ討議なども行い、自分たちの仕事をお客様目線で見つめ直すよい機会となりました。今後は全国の配送センターへ展開しつつ、継続的に活動を続けていきます。

※矢部氏は、JR東日本グループにおける新幹線の清掃チームTESSEIを「お掃除部隊」から「おもてなし創造部隊」に変身させ、この取り組みと実績に対して経済産業省「おもてなし経営企業選」、企業情報化協会(IT協会)「サービス・ホスピタリティ・アワード特別賞」を受賞しています。



グループ討議では「お客様に喜んでいただくために何ができるか」についてディスカッション

## ■ 異業種人財との交流が視野拡大に繋がる「オープンチャレンジプログラム」

オープンチャレンジプログラム(以下OCP)は、コクヨグループが参加している異業種研修です。参加者は、グループ内で手挙げ式の社内募集をしています。

OCPの目的は社員の視野の拡大(実力の自覚)、今後のキャリア形成に必須の知識・スキル・マインドの獲得、仲間づくり(社外ネットワークの構築)です。

研修プログラムは参加各社の事務局が意見を出し合い、高品質なプログラムを厳選して、参加者アンケートでも満足度の高い結果となっています。

特にコクヨと違った価値観に触れ合え、違う業界・業種の「異業種の人財との交流」が大きな魅力で、貴重な人脈形成の機会になっています。



✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 人間尊重

### 社員の安全と健康

安心・安全で快適な職場づくりや社員の健康管理や災害時の安全対策などは、社員がいきいきと働き、能力を発揮するための基盤であると考えます。社員と活発な意見交換をしながら、仕組みや体制を整えています。

#### コクヨグループ労働安全衛生基本方針

##### 【基本方針】

Safety First !

コクヨグループは、一人ひとりの心と体の健康と安全を事業の基盤と位置づけ、安全活動を推進します。

##### 【行動指標】

- 1.労働安全衛生法等の関係法令ならびに社内の指針・基準を遵守します。
- 2.継続的且つ自律的な職場改善を促すとともに、労働災害や疾病の予防に努めます。
- 3.グループの事業にかかわる全ての人の安全と健康を確保するため、全員参加型の風通しの良い風土作りを推進します。





今年で90回目となる全国安全週間※(7月の第1週)、日本中が改めて安全の大切さを考えるこの時期に、コクヨグループでも全国各地で安全を考え、意識を高める目的で安全衛生大会を開催しました。

●【建設業】平成29年度コクヨグループ建設業安全衛生大会

コクヨ建設業安全衛生推進委員会は「企業の成長を支える基盤は、社員と仲間の安全と健康である」という考えのもと、平成29年度は「コクヨグループ各社が安全意識をさらに高め、自律した安全文化の定着・深堀を目指す」ことを目標に掲げ、各地区大会においてこの目標を社員とパートナーが共有し、一丸となって取り組むことを再確認しました。全国7会場において、中央安全衛生委員会の委員長である黒田副会長が開会の挨拶を行ったほか、各地区代表者の挨拶・建設業安全衛生推進委員会の活動報告・協力パートナーの方々の表彰などが行われました。

●【工場】コクヨグループ国内工場での安全衛生大会・安全パトロール

国内5工場7拠点で安全衛生大会と安全パトロールを実施しました。安全衛生大会では、「風通しのよい職場づくり」への取り組みの一環として、各職場幹部から推薦された「ありがとう」を伝えたい人への感謝状贈呈、「安全・防災マニュアル」監修者による講演なども行われました。

建設業・工場・いずれの安全衛生大会においても、安全に対する意識が形骸化されないように、ひと工夫された内容となりました。安全を守る風土を未来に繋げていくために、拠点ごとに年に一度立ち止まって安全を考える場を、これからもグループ全体で設けていきます。

※厚生労働省と中央労働災害防止協会の主唱により、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進するとともに、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的として実施するもの



各地区の納品施工現場において安全・効率的・高品質な仕事をされた協力パートナーの方々を表彰(写真は関東地区大会)



安全パトロールの様子

## 考え方

安全・安心・快適な職場づくりは円滑な事業推進の要と考え、現場と活発な意見交換を行いながら推進しています。

## ココヨグループ健康目標と2017年結果

ココヨグループでは、「生活習慣病にならない身体づくり」を実現するため、2013年より具体的な健康目標を定め、社内の健康保険組合や健康管理室と連携した健康活動を推進しています。

日々の歩数や体重などを記録し、楽しみながら運動の習慣化を促すウォーキングキャンペーンや、保健所と連携した食生活セミナーなどを実施しています。また、がん予防対策としては、乳がん・大腸がん検診の受診促進として、社内での定期検診時にマンモ検診ができるように機器を設置しました。さらに希望者は「人間ドック」が受診できるなど、健康診断項目の充実化や、社員が自ら健康意識を持って受診できる機会を積極的につくってきました。

### 健康指標の例

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
BMI値25以上の占める割合	21%	23%	23%	23%	24%
喫煙率(問診データより)	26%	26%	27%	26%	26%

## 2017年の具体的な健康活動の取り組み

### 1) 健康キャンペーンの実施

会社・ココヨ健康保険組合が協働で全社員対象に実施しているウォーキングキャンペーンも2017年で4年目となりました。楽しく健康になりながらプレゼントももらっちゃおう！というコンセプトで『ガッツでゲット(GG)キャンペーン』と名付けたこの健康活動は、社員一人ひとりが自己申告で日々の運動歩数を申告し、達成者には季節の果物がプレゼントされます。参加者も年々増加しているこの活動を継続していくことで、今後も健康意識の向上を図っていきます。



### ガッツでゲット(GG)キャンペーン参加者数

	2014年	2015年	2016年	2017年
参加者	340人	670人	853人	923人

## 2) 感染症対策

重症化リスクの軽減化を図るため、社内でインフルエンザ予防接種ができる機会(場所)を拡大しています。また、健康保険組合からは補助金を出すなど、社外の医療機関でも接種しやすい環境を整えています。

また、各事業場にうがい薬やマスクを設置し、ポスターや全社員メールなどを活用し、予防や感染拡大防止に向けて啓発活動を継続的に行っています。

### 予防接種実施者数

	2014年	2015年	2016年	2017年
予防接種実施者数	2,487人	2,749人	2,852人	2,630人

## 3) メンタルヘルス対策

2016年より、法律に基づくストレスチェックを実施しています。

チェック後も、社員一人ひとりが気軽にセルフケアを受けることができる体制づくりのため、外部機関が運用するEAP(社員支援プログラム)も導入し社員自身の負担感への気付きを促し、早期に予防のサポートができる環境づくりを行っています。

あわせて、「エンゲージメント」「ES(社員満足度)」「コンプライアンス意識」に関するサーベイを、社員サーベイ(職場の「健康診断」として統合的に実施しています。

特に、これらのサーベイの結果のうち職場の風土に関わる項目と労働時間のデータと突き合わせながら、職場改善に向けたきっかけやツール・KPIとして活用し、現場起点での活動に繋げています。

## 労働安全衛生の取り組み

### 国内5工場の安全管理者が集まるコクヨグループ工場交流会

コクヨグループでは「企業の成長を支える基盤は社員の健康と安全である」という考えのもと、さまざまな側面から安全衛生管理の取り組みを行っています。2017年度は工場の交流会として、10月26日、国内5工場(コクヨ三重工場・芝山工場、コクヨ工業滋賀、コクヨMVP、石見紙工業)の安全衛生活動に尽力している担当者が集まり、工場巡視や安全研修、グループワークなどを実施、情報交換を行いました。コクヨグループ中央安全衛生委員会では、工場や建設業・配送・オフィスなど縦軸になりがちな各事業を、安全衛生という切り口で横軸を通すことで、グループで働く社員の安全と健康維持、いきいきと働ける環境・風土づくりを行っています。



安全道場で災害を擬似体験



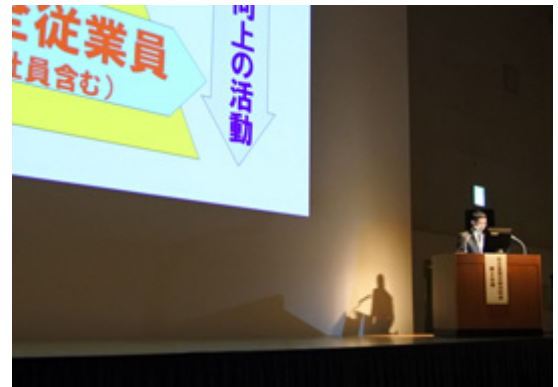
機械の緊急停止ボタンをテーマに行われたグループワーク



## 全国産業安全衛生大会でフォークリフト事故撲滅活動について発表

安全衛生活動に携わる人が、その改善事例や研究成果を発表し合う情報交流の場である「第76回全国産業安全衛生大会in神戸（主催：中央労働災害防止協会）」にて、コクヨ芝山工場安全管理者の森茂樹が、工場でのフォークリフト事故撲滅に向けた取り組みについて発表しました。

芝山工場では2012年にフォークリフトによる物損事故が8件と多発したことから、重大災害に繋がる課題と認識し、フォークリフト事故撲滅活動を開始。過去の災害を分析し「管理面」「行動面」「状態面」「教育面」の課題に整理し、改善活動を展開した結果、2016年にはフォークリフト起因事故0件を達成、改善活動を継続しています。



「工夫を重ねたフォークリフト事故撲滅活動」と題し500人を超える聴講者の前で発表

✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 人間尊重

### ダイバーシティ推進

企業が成長し、発展し続けるために不可欠な取り組みとしてダイバーシティを推進しています。「社員一人ひとりが本来持っている能力を発揮するため、さまざまな境遇や価値観を認め合い、多様な働き方を実現できる環境をつくりあげていくこと」として、取り組みを進めています。

#### 活動ハイライト

#### 障害者雇用の先進事例となるハートランドが操業10周年



Kハートに次ぐ2番目の特例子会社※としてスタートしたハートランドは、特例子会社として農業生産法人となった日本初の事例です。サラダほうれん草の水耕栽培を行い、知的障害者、精神障害者の雇用、職域拡大を担う事例として、その活動が内外からも注目されています。操業以来の来客数は4,200人、施設外授産と呼ばれる請負契約による障害者の外部施設からの受入人数は年間7,500人、累計で7万人と、ハートランド社内での障害者社員の雇用以外でも社会的貢献活動を行っています。また最近では、農業の担い手不足と障害者の雇用確保といった双方のマッチングを行う事で共生社会を目指す「農福連携」の先進事例としても全国的に注目を集めています。ファニチャー事業本部の複数の大手ユーザー様が見学に来られたり、ハートランドが各種講演会でパネリストとして登壇したり、大阪府からの委託を受けた農福連携推進事業の講師を行うなど、さまざまな活動を行っています。

2017年10月には無事に操業10周年を迎え、記念パーティーにはハートランド社員を始め、ハートランドOBや設立時のコクヨ関係者、大阪府農政室や大阪府みどり公社、泉南市、障害者雇用施設関連の方々など、設立に関わった方や現在も関係している機関など多数参加いただき、節目となる日を祝いました。現在、次のチャレンジとしてパクチーやケールなどの新しい野菜の栽培にも取り組んでおり、今後も特例子会社の先進事例としてチャレンジを続けていきます。

※特例子会社とは、障害者雇用に特別の配慮をし、障害者雇用率の算定において親会社の一事業所と見なされる子会社



雇用開発フォーラムで講演をする谷社長

## 考え方

### ダイバーシティの基本的な考え方

「社員一人ひとりが本来持っている能力を発揮するため、さまざまな境遇や価値観を認め合い、多様な働き方を実現できる環境をつくりあげていくこと」として、下記4つの基本テーマに添って取り組みを進めています。

<b>ダイバーシティに取り組む意義の共有</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 働きやすい風土の実現に向けた意義の共有</li> <li>■ 能力を生かす風土の実現に向けた意義の共有</li> </ul>	<b>ワークライフバランスの実現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 仕事と私生活の両立ができる環境づくり</li> <li>■ 生産性の高い働き方の実現</li> </ul>
<b>制度構築・浸透</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 柔軟な働き方を実現する制度づくり</li> <li>■ 諸制度の社内浸透</li> </ul>	<b>多様な人財の活躍支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国籍・人種・性別・年齢・宗教・学歴などに関わらず、多様な人財の活用</li> <li>■ 女性活躍推進</li> </ul>

### 制度構築・浸透

仕事と出産・育児・介護の両立がしやすい環境を整えるため、法定以上の制度の充実を図っています。(下線部は法定以上)

#### 育児・介護支援を目的とする主な諸制度※

産前産後休暇	産前6週間(多胎妊娠の場合14週)、産後8週間
配偶者 出産休暇	配偶者の出産時に認められる休暇、 <u>1回につき2日</u>
育児休業	<u>子どもが満2歳に達する日まで(4月生まれの場合に限り満2歳の4月末日まで)</u>
子の看護休暇	小学校就学始期まで、1年間に5日、2人以上の場合1年間に10日まで(半日単位での取得も可)
介護休業	要介護者1人につき、 <u>通算183日まで(3回まで分割取得可)</u>
介護休暇	要介護者1人につき、1年間に5日、2人以上の場合1年間に10日まで(半日単位での取得も可)
短日・短時間勤務	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 育児：<u>子どもが小学校3年修了時まで</u></li> <li>● 介護：要介護者1人につき3年まで</li> </ul>
在宅勤務	1日単位(年間52回まで)または時間単位での取得が可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 育児：<u>子どもが小学校3年修了時まで</u></li> <li>● 介護：最長3年</li> </ul>
再雇用	<u>結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤・留学・ボランティア・転職、及びその他会社が認めた事由により退職した正社員が対象</u>

※ コクヨ及び主要子会社の制度(原則フレックス勤務は全社員利用可能。コアタイム設定の無いフレックスタイム制度を導入)

※ 関連情報「[育児休業・介護休業取得者数](#)」



## ワークライフバランスの実現

コクヨグループではワークライフバランスに配慮して、働きやすい環境づくりに努めています。これらの取り組みが認められ、2017年12月末現在、グループ4社が「くるみんマーク」を取得しています。

「くるみんマーク」は、少子化の改善を推進する厚生労働省が次世代育成支援対策推進法に基づいて「子育て支援に積極的な企業・団体」に交付しているマークです。

【取得会社】(2017年12月末現在)

コクヨ(株)、(株)カウネット

コクヨマーケティング(株)、コクヨエンジニアリング&テクノロジー(株)



## 「在宅勤務制度」や「コアタイムの無いフレックスタイム制度」の導入

コクヨでは、育児・介護で時間や場所に制約のある社員を対象として、1日単位または時間単位での在宅勤務制度を導入しています。朝、出勤するまでの時間や、帰宅後、家事を済ませてから就寝するまでの隙間時間を効率的に使うことで、育児と仕事にしっかり取り組むことができ、利用者も増加しています。

また、コアタイム設定の無いフレックスタイム制度を導入し、働く時間を柔軟にすることで、ワークライフバランスの充実と生産性向上の実現を目指しています。

## 企業の枠を越えた取り組み

ダイバーシティを推進するために、企業の枠を越えた連携も図っています。

### イクボス企業同盟に参加しています

ファザーリングジャパンが発起人であるイクボス企業同盟に2014年12月の発足以来参加しています。

部下が育児や介護、病気などで時間制約のあることを理解しながら、社員一人ひとりの能力を生かし、組織として成果を出すためには、マネジメントの意識改革が不可欠です。イクボス企業同盟に参画することにより、同じ課題意識を持つ先進企業と知見を共有し、自社のダイバーシティマネジメントのあり方や働き方、職場風土を見つめ直す機会にした

いと思っています。参加企業間の協働により、新しい時代の理想の上司(イクボス)像を考え、育成していくとともに、新しい「働き方」を提案する企業として、お客様の課題解決にも繋げていくことを目指します。



### 「ダイバーシティ西日本勉強会」での活動

関西の企業約50社が集まる「ダイバーシティ西日本勉強会」に参加し、情報共有やネットワーク構築を行っています。さまざまな企業のダイバーシティ推進担当者が集まり、働き方改革や、障害者の活躍支援、育児・介護の両立支援などのテーマで意見交換しながら、学んだことを自社の取り組みに生かしています。

## 「理想の働き方4社会合」での活動

社員一人ひとりが活躍できる環境づくりを目指して、同じ課題意識を持つ4社が集まり、理想の働き方を考える会を立ち上げました。

2017年には、男性社員を対象として、「自分もパートナーも仕事で活躍できるような共働きスタイル」を考える異業種交流会を開催しました。



## 障害者雇用の先進事例を目指すコクヨKハート

コクヨKハートは、2004年にコクヨグループの障害者雇用を目的にスタートしました。現在では、コクヨグループのサポート役として、健常者・シニア・メンタルケア者も加え、全社員が適所適材で個々の能力をフルに発揮しています。

さらに障害者雇用促進法が2018年4月に改正され、障害者の法定雇用率が2.2%になることを受け、同社では事業部門と業務の創出と新たに障害を持つ人の雇用を進めており、2.2%のめどが着くところまで来ました。今後の改定※も見据え、これからも障害者＝単純作業という概念を打破するさまざまな障害を持つ社員の特性に応じた業務をつくり出し、障害者雇用の先進事例となる存在を目指します。

※障害者雇用促進法の改正で、2018年4月より社員数が100人以上の企業の障害者の法定雇用率は2.2%とし、その後2021年3月までに2.3%に、さらに2023年4月には2.5%に改正されると予想されています。



コクヨKハートは積極的に業務範囲を拡大。写真はステーション開発課の様子

✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 社外からの評価

### 外部からの表彰・評価

#### 表彰

##### 健康増進の取り組みが「健康経営優良法人2017」に認定

コクヨは、健康課題や健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業などの法人を顕彰する経済産業省主催の「健康経営優良法人2017」※に認定されました。コクヨが評価された点は、「生活習慣病にならない身体づくり」を実現するため、2013年より健康目標を定め、社内の健康保険組合や健康管理室と連携した活動を推進したことです。さらに、健康管理室で働く産業保健スタッフの拡充や、健康診断結果のデータ化・分析により、フォロー体制の整備と重症化リスクの低減にも取り組んできました。今後は、これまで以上に活動領域をグループ全体に広げ、活動を推進していきます。

※「健康経営優良法人2017」は、健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、社員や求職者、関係企業や金融機関などから「社員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目的としています。



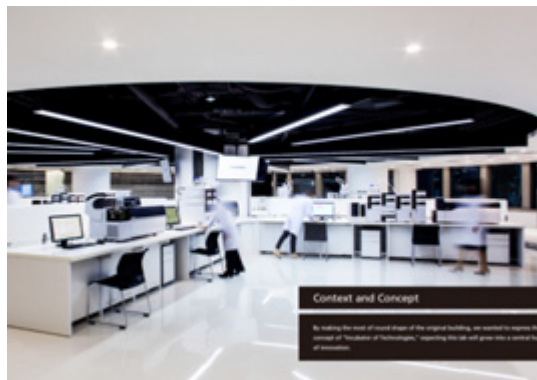
初回となる2017年は「大規模法人部門(ホワイト500)」が235法人、「中小規模法人部門」が95法人認定

##### 世界的に権威ある「2017年iFデザインアワード」で受賞

「2017年iFデザインアワード」※で、世界59カ国5,500点以上の応募総数の中から、国営家具(中国)設計マネージャーの澤田直記設計の「SHIMADZU CHINA MS CENTER」が、インテリア/内装建築部門で受賞しました。受賞対象の7つのデザイン分野のうち、インテリア/内装建築部門の受賞は、コクヨグループ初の快挙となります。

デザインコンセプトにもある“ショーラボ”を実現させるために、質量分析(MS:Mass Spectrometry)技術を活用し、先進的なMS関連の研究・開発ができるラボとしての機能と、ショールームとして今までにない空間デザインが評価されたものです。

※iFデザインアワードは「iF International Forum Design GmbH」が主催、半世紀以上の歴史があり、「優れたデザインの証」として国際的に認知されている世界で最も著名なデザイン賞の一つです。



島津製作所が中国現地グループ会社・島津企業管理(中国)有限公司に設立した「SHIMADZU CHINA MS CENTER」

##### びわこテンプレート「第26回 日本文具大賞 デザイン部門」優秀賞受賞

日本最大の文具アワード「第26回日本文具大賞」において、コクヨ工業滋賀のReEDEN(リエデン)シリーズ※「びわこテンプレート」が優秀賞に選ばれました。本アワードでは、機能部門/デザイン部門それぞれにおいて、その年で最も優れた文具が各5点ずつ選定され、びわこテンプレートはデザイン部門にて優秀賞を受賞しました。

びわこテンプレートは、琵琶湖をはじめ琵琶湖に生息する生物など、湖国・近江と馴染み深いカタチがすらすら描ける、滋賀愛にあふれたテンプレートです。パッケージ台紙には琵琶湖・淀川水系のヨシを使用しており、土地性を反映した存在感、各地への展開の可能性を持つ点が評価されました。

※ReEDEN(リエデン)シリーズは、水質浄化や生態系保全など環境維持に繋がることから、琵琶湖・淀川水系のヨシを使用して開発されたエコ文具シリーズです。



- ①びわこがスラスラ描ける(竹島も描ける)
- ②定規として使える
- ③旅の記録に使える図柄が描ける、3つの機能付



## 2017年「グッドデザイン賞」コクヨから8品受賞

公益財団法人日本デザイン振興会が主催する、総合的なデザインの推奨制度である「グッドデザイン賞」が2017年10月4日に発表され、コクヨから8商品が受賞しました。うち1商品は、長年にわたり製造販売され生活者に支持され続ける優れたものに贈られるグッドデザイン・ロングライフデザイン賞です。

<2017年グッドデザイン賞受賞内容>

- ①「DAYS OFFICE(デイズオフィス)」
- ②作業用イス「cocotte(ココット)」
- ③ファブリックスクリーン「stripel(ストライプル)」
- ④プランナーウォール「RAYS(レイズ)」
- ⑤プランナーウォール「SHIFT(シフト)」
- ⑥レーザーポインター「レーザーポインターfor PC(ペンタイプ・長時間)」
- ⑦「本当の定規」※コクヨデザインアワード2014年優秀賞受賞作

<2017年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞受賞内容>

- ⑧MPバインダー「バインダーMP」



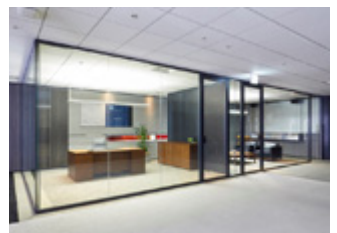
①「DAYS OFFICE(デイズオフィス)」



②作業用イス  
「cocotte(ココット)」



③ファブリックスクリーン  
「stripel(ストライプル)」



④プランナーウォール  
「RAYS(レイズ)」



⑤プランナーウォール  
「SHIFT(シフト)」



⑥レーザーポインター  
「レーザーポインターfor PC(ペンタイプ・長時間)」



⑦「本当の定規」



⑧MPバインダー  
「バインダーMP」

## ドイツの権威あるデザイン賞「German Design Award 2018」を受賞

コクヨは、ドイツ連邦議会の後援により1953年に設立されたThe German Design Councilが主催する権威ある国際的なデザイン賞「German Design Award 2018」を受賞しました。賞の構成はGold・Winner・Special Mention・Nominee からなり、Gold・WinnerとSpecial Mentionはノミネートされた商品の中からより優れたデザインに与えられます。コクヨは、オフィスチェア「Duora(デュオラ)」がSpecial Mention賞、コクヨが手がけたクアーズテック株式会社の新本社オフィス兼ギャラリーの空間デザインがWinnerを受賞しました。



オフィスチェア「Duora(デュオラ)」



クアーズテック株式会社の新本社オフィス兼ギャラリー(空間デザイン)



## 「DAYS OFFICE」サイト、第5回Webグランプリを受賞

第5回Webグランプリにおいて、ココヨの「DAYS OFFICE」※のウェブサイトが、「企業グランプリ」部門「企業 BtoB サイト賞」において、グランプリを受賞しました。

DAYS OFFICEのウェブサイトには、お客様が製品をカスタマイズできるシミュレーター機能を搭載。直感的に好みの家具を選び、金額をリアルタイムに把握し、ECサイトで購入いただける導線となっています。また、BtoBのお客様にとっても、品番や価格などの詳細情報を盛り込んだ提案書形式でプリントアウトでき、活用しやすくなっています。今回の受賞にあたっては、このシミュレーター機能の使いやすさが高く評価されました。

※ココヨが蓄積しているワークスタイル研究のノウハウを生かして誕生した、独自の空間構成家具です。働く人の多様性に応える「居心地のよい空間」を、天井や床などの手間のかかる内装工事をせずに、DAYS OFFICEの家具を設置していただくだけで、「誰でもかんたんに」実現することができます。



「DAYS OFFICE(デイズオフィス)」ウェブサイト

## ココヨグループ初応募で「ウッドデザイン賞2017」をダブル受賞

「結の森プロジェクト」※とその活動を通じて開発された「プロトコルカウンター」が、ウッドデザイン賞2017をダブル受賞しました。ウッドデザイン賞は、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの消費者視点から、優れた製品・取り組みなどを表彰するもので、ココヨグループとしては初めての応募での受賞となります。

ソーシャルデザイン部門コミュニケーション分野で受賞した「結の森プロジェクト」は、商品開発から人材育成、普及啓発まで多角的に実施している企業と地域の連携事例として、継続性や参加者の学びなどの副次的効果が評価されました。

※荒廃していく人工林の再生と、その人工林を守る地域の活性化を目的として、高知県四万十町で2006年から開始したプロジェクト。このプロジェクトの一環として、間伐材を有効活用したオフィス家具づくりも進めています。



結の森プロジェクトウェブサイト



結の森プロジェクトから生まれた間伐材家具「プロトコルカウンター」

## 評価

2017年度中にいただいた、外部機関による評価は以下の通りです。

第12回CSR企業ランキング(東洋経済新報社)	総合順位 236位
第17回企業の誠実さ・透明性(倫理性・社会性)調査(インテグレックス)	総合評価 57位
SNAMサステナビリティ・インデックス(SOMPOリスクアマネジメント社)	総合スコア 227.5
ぶなの森 環境アンケート(SOMPOリスクアマネジメント社)	総合評価 Aランク
CDP 気候変動	C(Awareness)
CDP 森林	B(Management)
第21回環境経営度調査(日本経済新聞社)	総合順位 67位

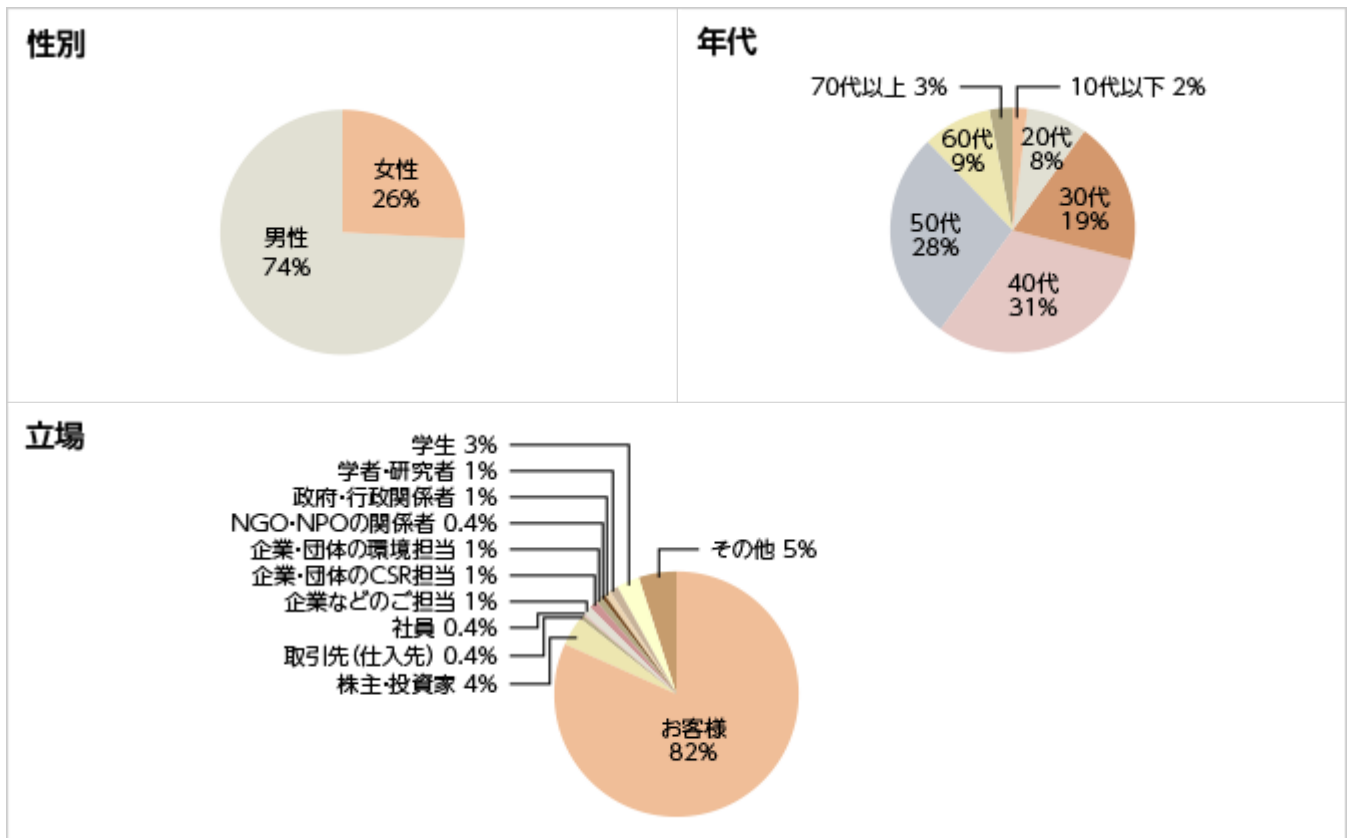
✧コクヨCSR憲章	✧会社概要	✧コクヨの3つの事業領域	✧コクヨグループのあゆみ	✧コクヨのCSR	✧お客様
✧地域社会	✧環境保全	✧企業活動	✧人間尊重	✧社外からの評価	

## ■ 社外からの評価

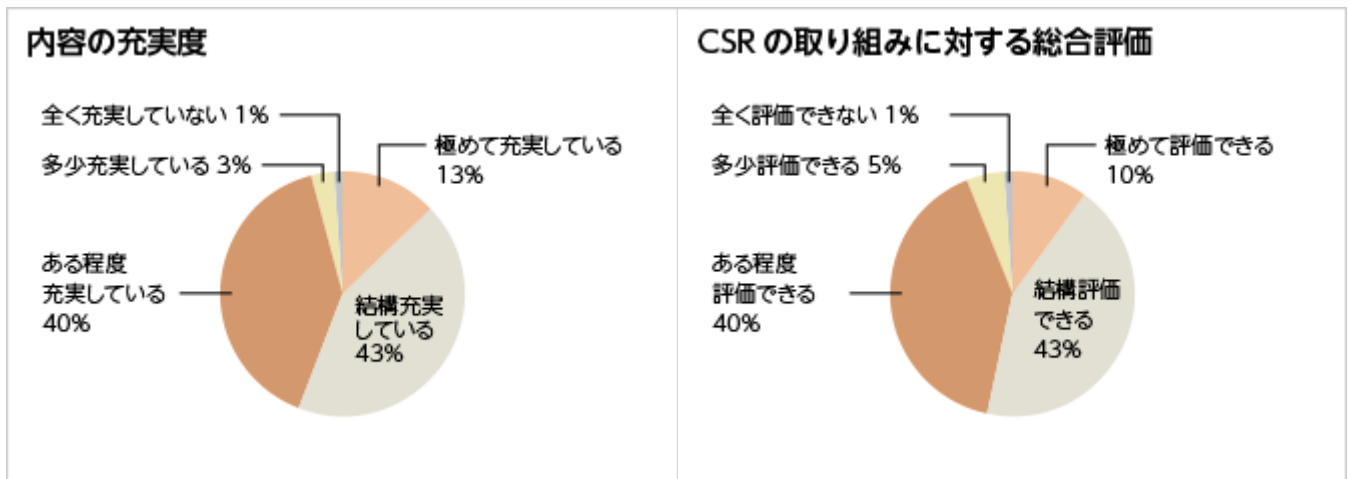
### 「CSR報告書2017」アンケート結果

コクヨグループでは、今後の活動や報告書の改善に反映させるため、広く社内外の方々からご意見をいただくアンケートをウェブ上で実施しています。「CSR報告書2017」に対するアンケート結果をご報告いたします。ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

#### アンケートにご回答いただいた方の属性



#### アンケート結果





**KOKUYO**